ELECOM

無線アクセスポイント 管理ツール WAB-MAT

User's Manual

ユーザーズマニュアル

第 16 版　2022/3/30

ソフトウェア　Ver.5.0.0.8 以降

※ 本書は上記ソフトウェアバージョンを基に記載しています。
下位のソフトウェアバージョンでは画面表示や機能が異なる場合があります。

●このマニュアルで使われている記号

記　号	意　味
注　意	作業上および操作上で特に注意していただきたいことを説明しています。この注意事項を守らないと、けがや故障、火災などの原因になることがあります。注意してください。
	説明の補足事項や知っておくと便利なことを説明しています。

ご注意

- 本製品の仕様および価格は、製品の改良等により予告なしに変更する場合があります。
- 本製品に付随するドライバ、ソフトウェア等を逆アセンブル、逆コンパイルまたはその他リバースエンジニアリングすること、弊社に無断でホームページ、FTP サイトに登録するなどの行為を禁止させていただきます。
- このマニュアルの著作権は、エレコム株式会社が所有しています。
- このマニュアルの内容の一部または全部を無断で複製 / 転載することを禁止させていただきます。
- このマニュアルの内容に関しては、製品の改良のため予告なしに変更する場合があります。
- このマニュアルの内容に関しては、万全を期しておりますが、万一ご不審な点がございましたら、弊社テクニカルサポートまでご連絡ください。
- 本製品の日本国外での使用は禁じられています。ご利用いただけません。日本国外での使用による結果について弊社は、一切の責任を負いません。また本製品について海外での（海外からの）保守、サポートは行っておりません。
- 本製品を使用した結果によるお客様のデータの消失、破損など他への影響につきましては、上記にかかわらず責任は負いかねますのでご了承ください。重要なデータについてはあらかじめバックアップするようにお願いいたします。
- Microsoft、Windows は米国 Microsoft Corporation の登録商標です。そのほか、このマニュアルに掲載されている商品名 / 社名などは、一般に各社の商標ならびに登録商標です。本文中における®および TM は省略させていただきました。

1　本ツールの免責事項について

免責事項

次のような場合は、弊社は保証の責任を負いかねますのでご注意ください。

・弊社の責任によらない製品の破損、または改造による故障
・本製品をお使いになって生じたデータの消失、または破損
・本製品をお使いになって生じたいかなる結果および、直接的、間接的なシステム、機器およびその他の異常

2　サポートサービスについて

本ソフトウェアのお問い合わせは、下記へお電話でご連絡ください。また、サポート情報、製品情報につきましては、インターネットでも提供しております。

エレコム法人様サポートセンター

サポート Web　えれさぽ　検索

サポート（ナビダイヤル 0570-070-040）

09：00 ～ 12：00、13：00 ～ 18：00　月曜日～土曜日

※祝日、夏期・年末年始休業日を除く

※「050」から始まる IP 電話、PHS からはご利用になれません。

本製品は日本国内仕様です。海外での使用に関しては弊社ではいかなる責任も負いかねます。
また弊社では海外使用に関する、いかなるサービス、サポートも行っておりません。

サポートセンターにお電話される前に

サポートセンターにお電話される前に、以下の項目について確認してください。

● サポートページで「よくある質問」をご確認ください。
●「よくある質問」をお読みいただいても解決しない場合は、以下をご用意のうえ、お電話をお願いします。
　・製品の型番
　・ご質問内容（症状、エラーメッセージ、やりたいこと、お困りのこと）

もくじ

Chapter 1　説明編

1　概要 …… 8
1-1　動作環境 …… 8
1-2　ネットワーク構成 …… 8
1-3　ライセンス認証 …… 8
2　通信環境について …… 9
3　事前準備 …… 10
3-1　アクセスポイントの設定 …… 10
3-2　インストール …… 11
4　ソフトの起動 …… 16
5　製品登録について …… 17
6　メイン画面 …… 18
6-1　メニューバー …… 18
6-2　ツールバー …… 19
6-3　AP リスト …… 20
6-4　AP 詳細情報 …… 21
6-5　ログ表示エリア …… 24
6-6　AP リスト詳細設定メニュー …… 27

Chapter 2　設定編

1　アクセスポイントの登録 …… 33
1-1　アクセスポイントの自動検出 …… 33
1-2　「AP 検出開始」によるアクセスポイントの自動検出 …… 34
1-3　アクセスポイントの手動登録 …… 35
2　グループ編集 …… 37
2-1　アクセスポイントのグループ編集 …… 37
2-2　アクセスポイント非表示グループ設定 …… 39
3　アクセスポイントの複数選択 …… 40
4　動作モード設定 …… 41
5　WAN 設定 …… 44
6　LAN 設定 …… 50
7　有線 LAN MAC フィルタ設定 …… 52
8　固定 DHCP 設定 …… 55
9　HTTP アクセス設定 …… 57
10　SNMP アクセス設定 …… 59
11　DDNS 設定 …… 61
12　QoS 設定 …… 63
13　DMZ 設定 …… 65
14　ポートフォワーディング設定 …… 67
15　無線設定 …… 69
15-1　無線設定 …… 74
16　無線詳細設定 …… 77
17　マルチ SSID 設定画面 …… 81
18　Syslog サーバー設定 …… 84
19　RADIUS サーバー設定 …… 85
19-1　MAC RADIUS 認証設定 …… 88
20　NTP サーバー設定 …… 91
21　MAC アドレスフィルタ設定 …… 92

22　ゲストネットワーク設定 ･･････ 95
23　LAN 側 IP アドレス設定 ･･････ 99
23-1　LAN 側 IP アドレス設定（静的 IP アドレス）･･････ 99
23-2　LAN 側 IP アドレス設定（DHCP クライアント）･･････ 102
24　LAN 側 IP アドレス DHCP サーバー設定 ･･････ 104
25　SNMP 設定 ･･････ 107
26　SNMP コミュニティ設定 ･･････ 110
27　管理者情報設定（旧名称 :AP ロケーション設定）･･････ 112
28　VLAN 設定 ･･････ 114
29　AP 設定エクスポート ･･････ 117

Chapter 3　運用編

1　アクセスポイントログ（Syslog）･･････ 120
1-1　アクセスポイントログの表示 ･･････ 120
1-2　アクセスポイントログ保存期間設定 ･･････ 123
2　ステーションアクセスログ ･･････ 124
2-1　ステーションアクセスログの表示 ･･････ 124
3　コンフィギュレーションファイル ･･････ 126
3-1　アクセスポイント設定情報の保存 ･･････ 126
3-2　アクセスポイント設定情報の読込 ･･････ 129
4　ファームウェア更新 ･･････ 132
5　死活監視設定 ･･････ 136
6　災害モード ･･････ 139
6-1　災害モード起動 ･･････ 139
6-2　災害モード停止 ･･････ 143
7　再起動スケジュール ･･････ 147
8　本体再起動 ･･････ 150
9　本体削除 ･･････ 153
10　管理ツールのオプション設定 ･･････ 156
10-1　アプリ設定 ･･････ 156
10-2　管理者へのメール通知設定 ･･････ 159
10-3　プロキシサーバ設定 ･･････ 162
11　管理ツールのバージョンアップ通知 ･･････ 164
11-1　ネットワークインターフェース構成変更通知 ･･････ 166
12　管理ツールのメンテナンス ･･････ 167
12-1　アプリケーション設定の保存 ･･････ 167
12-2　アプリケーション設定の復元 ･･････ 169

Chapter 4　よくある質問箱

1　アクセスポイント関係 ･･････ 173
1-1　アクセスポイントが登録されない ･･････ 173
1-2　以前に自動登録されたアクセスポイントが「未検出」になる ･･････ 174
1-3　アクセスポイントへの死活監視通信ができない ･･････ 174
2　アクセスポイント各種設定関係 ･･････ 175
2-1　複数のアクセスポイントへの設定ができない ･･････ 175
2-2　RADIUS サーバーの登録ができない ･･････ 176
2-3　アクセスポイントへの設定ができない ･･････ 177
2-4　アクセスポイントの「状態」が「正常」・「エラー」の表示を繰り返す ･･････ 177
3　通知設定関係 ･･････ 178
3-1　Gmail による管理者へのメール通知ができない ･･････ 178
3-2　管理者へのメール通知内容を変更することができるか ･･････ 178

4 その他 ···· 179
4-1 本ソフトウェアで管理できるアクセスポイントの台数は ···· 179
4-2 本ソフトウェアのライセンスの範囲は ···· 179
4-3 本ソフトウェアで使用するポートは ···· 179

Chapter 1

説明編

1 概要

本ソフトウェアはエレコム製法人向けアクセスポイント「WAB シリーズ」を対象とした管理ツールです。ネットワーク内に設置されている複数のアクセスポイントを管理・設定することができます。

1-1 動作環境

■ 推奨解像度

・1280 × 720 以上

■ 対応アクセスポイントおよび管理用 PC 対応 OS

ご使用のアクセスポイントのファームウェアバージョンは、最新バージョンにアップデートしていただくことを推奨いたします。最新の対応状況は下記の対応表よりご確認いただけます。

＜ WAB-MAT 対応表＞
https://www.elecom.co.jp/support/list/network/ap/wab-mat/

1-2 ネットワーク構成

本ソフトウェアをインストールしたパソコンと管理対象のアクセスポイントは、ルーティング到達性のあるネットワーク上の重複しない IP アドレスに設定してください。

1-3 ライセンス認証

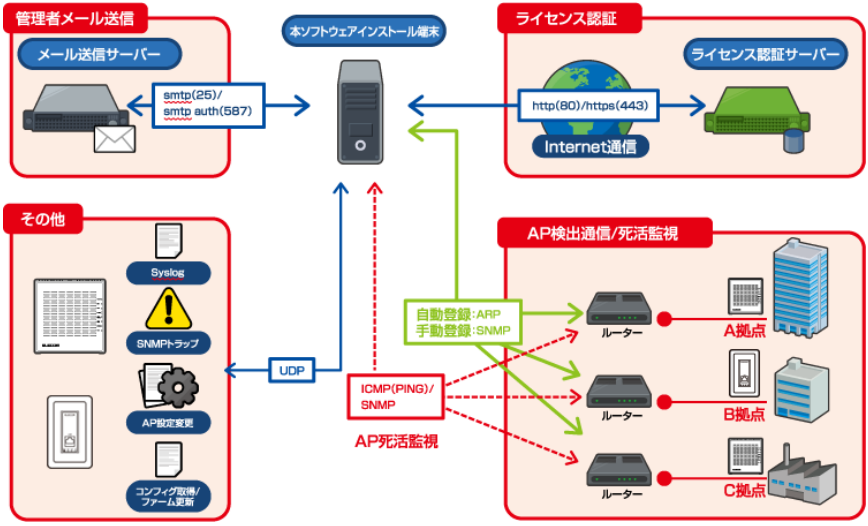
本ソフトウェアは 30 日間無料でお使いいただけます。

30 日間を越えてご使用される場合には、弊社営業担当者よりライセンスカードをご購入いただき、シリアルナンバーとキーコードをご登録ください。登録方法は Chapter 1 説明編「5 製品登録について（→ P17）」を参照ください。

本ソフトウェアは、定期的にインターネット上のサーバーへライセンス認証を実行します。インターネットに接続できる環境でご利用ください。

2 通信環境について

本ソフトウェアは下記の通信を用いて、法人アクセスポイントの設定や死活監視などの管理を行います。
ご利用いただく前に下記の通信環境が社内ネットワークでご利用できるか、事前にご確認ください。



3 事前準備

3-1 アクセスポイントの設定

本ソフトウェアをご利用いただくために、アクセスポイントの設定を確認してください。
Web ブラウザーで設定ユーティリティを起動し、「ツールボックス」→「管理者」をクリックします。

詳細設定が以下の設定（デフォルト値）であることを確認してください。
もし管理プロトコルと SNMP バージョンが変更されている場合は、以下の設定値に変更してください。

項目	設定値
管理プロトコル	SNMP にチェック
SNMP バージョン※1	v1/v2
SNMP 取得コミュニティ※1	public
SNMP 設定コミュニティ※1	private

※ 1　SNMP 設定は、対応する AP の場合、SNMP v3/ 認証 / 暗号化ありの状態に設定変更してからの運用をお勧めいたします。また、SNMP v3 非対応の AP は、SNMP 取得コミュニティ /SNMP 設定コミュニティの設定値を変更してからの運用をお勧めします。設定変更後、WAB-MAT 側も設定変更が必要となります。
WAB-MAT によるアクセスポイントの設定変更方法は、Chapter 2 設定編「25 SNMP 設定（→ P107）」・Chapter 2 設定編「26 SNMP コミュニティ設定（→ P110）」を参照ください。
WAB-MAT 側の設定変更方法は、10 管理ツールのオプション設定（→ P156）を参照ください。

3-2 インストール

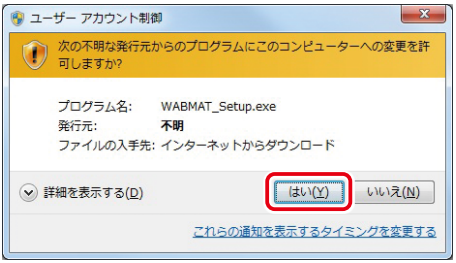
管理者権限のあるユーザーでログインし、以下の手順でインストールしてください。

1 以下の URL にアクセスし、「許諾書に同意してダウンロードする」をクリックして、インストーラーをダウンロードします。

https://www.elecom.co.jp/r/WAB-MAT

2 「WABMAT_Setup.exe」をダブルクリックします。

ユーザーアクセスコントロールの画面が出た場合は「はい」をクリックしてください。



3 .NET Framework 4.5 をインストールします

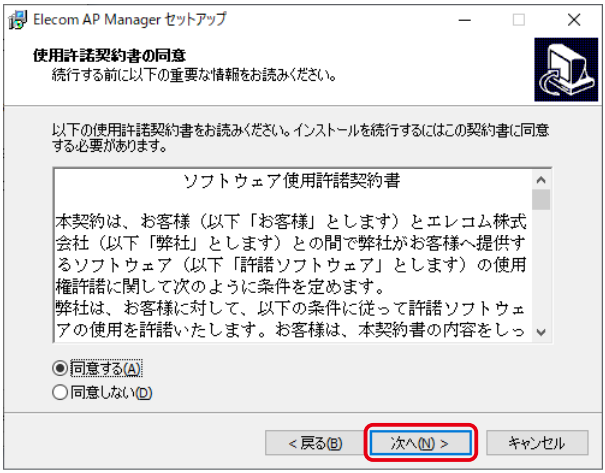
.NET Framework 4.5 のセットアップダイアログの「OK」をクリックします。
既に .NET Framework 4.5 がインストールされている場合は表示されません。

4 セットアップウィザードの開始

他の起動中のアプリケーションをすべて終了し、「次へ」をクリックします。

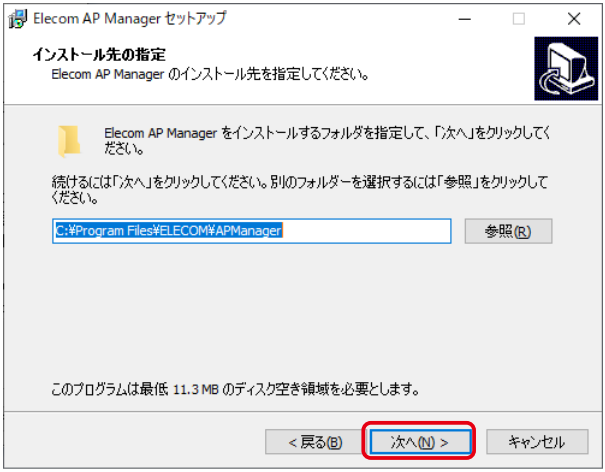
5 使用許諾契約書の同意

使用許諾の同意が求められますので、ご確認の上「同意する」をチェックし、「次へ」をクリックします。



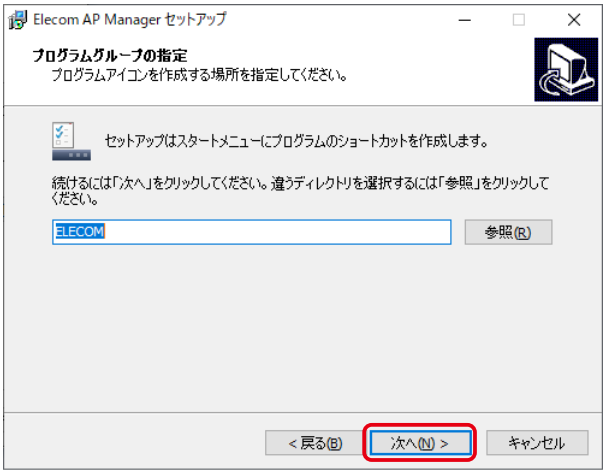
6 インストール先の指定

インストール先を指定して「次へ」をクリックします。



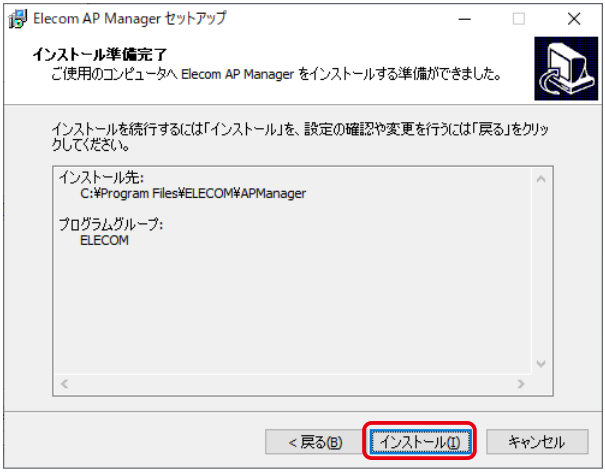
7 プログラムグループの指定

プログラムアイコンを作成する場所を指定します。違うディレクトリを選択する場合は、参照から任意に指定して「次へ」をクリックします。



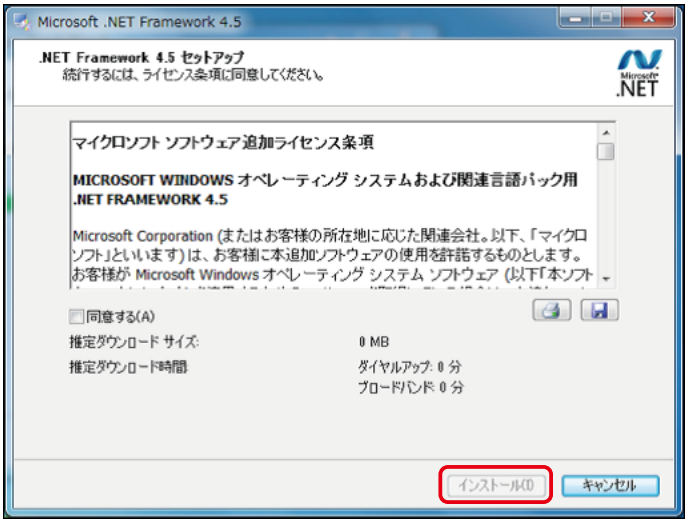
8 インストール準備完了

インストールの内容を確認し、変更の必要がなければ「インストール」をクリックします。



9 .NET Framework 4.5 セットアップ

.NET Framework 4.5 のセットアップのため、ライセンス条項に同意する必要があります。
確認の上、「同意する」にチェックし、「インストール」をクリックしてください。



既に .NET Framework 4.5 がインストールされている場合は表示されません。

10 .NET Framework 4.5 インストールの完了

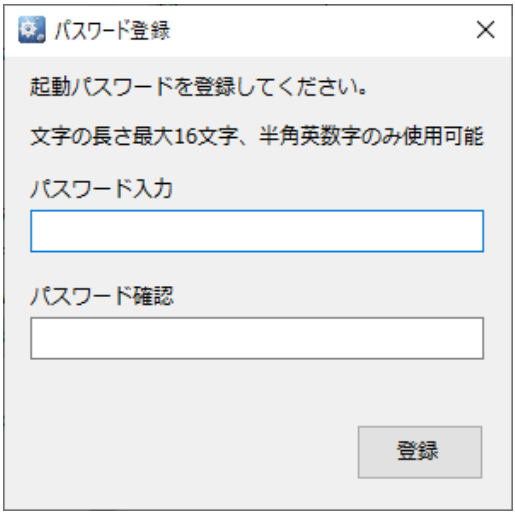
.NET Framework 4.5 のインストールが完了したら、「完了」をクリックします。

11 セットアップウィザードの完了

セットアップが完了しましたら、「完了」をクリックします。

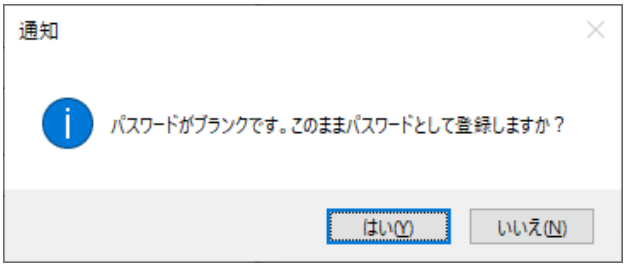
4 ソフトの起動

本ソフトウェアの初回起動時は、パスワード登録画面が表示されます。



パスワードを入力し、「登録」ボタンをクリックしてください。
使用可能な文字は半角英数字のみ、16 文字以内です。
ここで登録したパスワードは、2 回目以降の起動時に入力が必要となります。

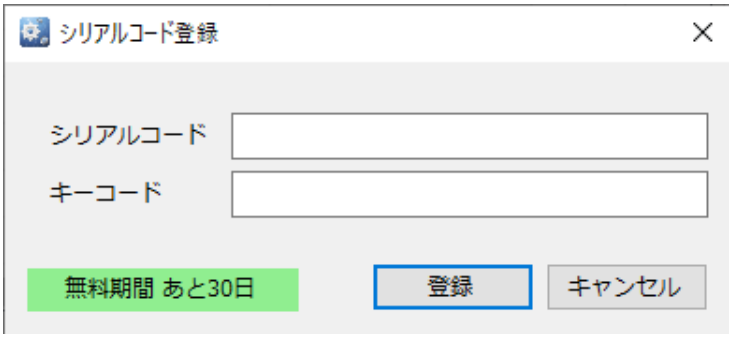
パスワードを入力せずに「登録」ボタンをクリックすると、下記のダイアログが表示されます。



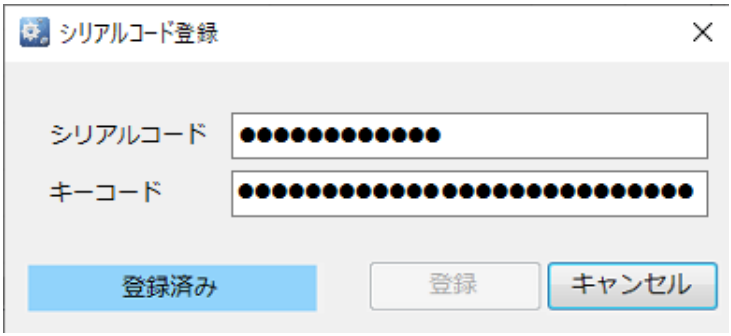
5 製品登録について

本ソフトウェアはライセンスカードをご購入いただくことで、30 日間の無料使用期間を過ぎてもご使用いただけます。

お手元にライセンスカードをご用意いただき、メイン画面のバージョンメニューから製品の登録を選択いただくとシリアルコード登録画面が表示されます。



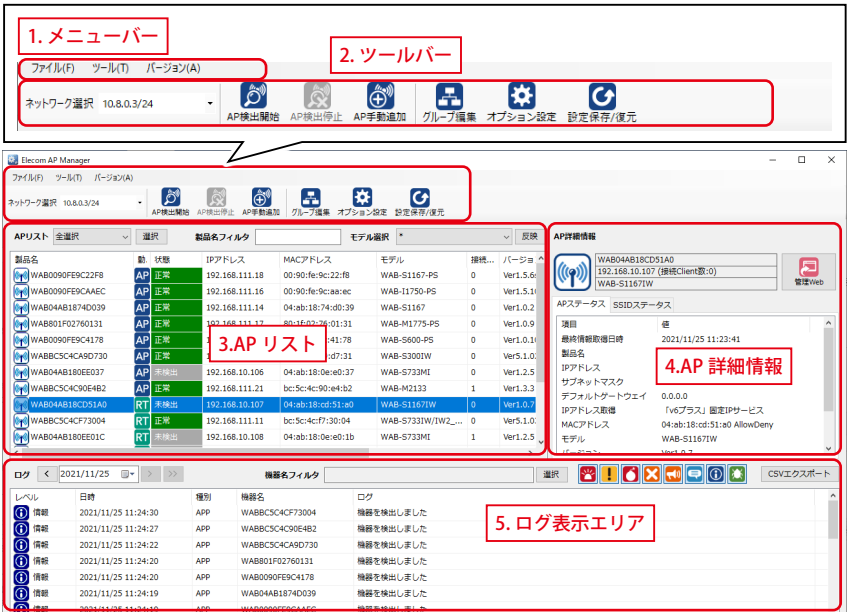
ライセンスカードに書かれたシリアルコードとキーコードを入力し､｢登録｣ボタンをクリックしてください。登録が正常に完了すると下記の通りになります。



注意 ライセンス登録を行ったユーザー以外から WAB-MAT のバージョンアップを行うと、ライセンス情報を引き継げずに「無料使用期間」状態になる場合があります。その場合はお手数ですが、再度ライセンス登録を実施してください。

6 メイン画面

ソフトウェアを起動した際に表示されるメイン画面について説明します。



6-1 メニューバー

メニューバーの概要について説明します。

①ファイル(F) ②ツール(T) ③バージョン(A)

リスト	項目	説明
①ファイル	終了	ソフトウェアを終了します。
②ツール	オプション	アプリケーション / メールについて設定します。詳細については Chapter 3 運用編（→ P119）を参照ください。
	グループ編集	アクセスポイントをグループ分けします。Chapter 2 設定編「2 グループ編集（→ P37）」を参照してください。
	設定ファイル保存 / 復元	設定ファイルの保存、設定ファイルからの設定値の復元を行います。Chapter 3 運用編「12　管理ツールのメンテナンス（→ P167）」を参照してください。
③バージョン	製品登録	製品登録を行います。詳細については Chapter 1 説明編「5 製品登録について（→ P17）」を参照ください。
	バージョン情報	ソフトウェアのバージョン情報を表示します。

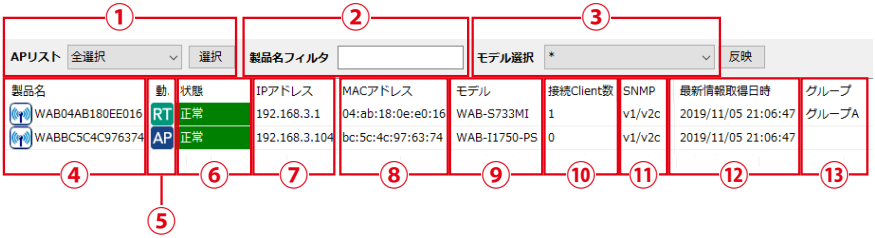
6-2 ツールバー

ツールバーの機能について説明します。

ツールバー	説明
①ネットワーク選択	本ソフトウェアをインストールされている端末のネットワークリストを表示します。使用するネットワークを選択します。
② AP 自動検出開始	ネットワークリストで選択されているセグメント内に設置されているアクセスポイントを自動検出します。
③ AP 自動検出停止	アクセスポイント自動検出処理を停止します。
④ AP 手動追加	アクセスポイントの固定 IP を直接入力し、手動で登録します。
⑤グループ編集	管理対象のアクセスポイントをグループ設定します。
⑥オプション設定	オプション設定を行います。詳細については「運用編」を参照ください。
⑦設定保存 / 復元	本ソフトウェアに設定した情報の保存や復元を行います。

6-3 AP リスト

AP リストは、検出されたアクセスポイントおよび過去に検出されたアクセスポイントをリスト表示します。表示項目を以下に説明します。



アイコン	説明
① AP リスト	グループ名を選択しデータを絞り込み表示します。事前にグループ登録が必要です。
②製品名フィルタ	アクセスポイントの製品名を入力し、データを表示します。
③モデル選択	アクセスポイントの製品モデルでデータを絞り込み表示します。
④製品名	アクセスポイントの製品名を表示します。
⑤動作モード	アクセスポイントの動作モードを表示します。 ・AP：アクセスポイントモード ・RT：ルーターモード
⑥状態	アクセスポイントの状態について表示します。 ・正常：検出され、死活監視で正常に活動できているアクセスポイント ・未検出：現在は検出されていないが、過去に検出されたことがあるアクセスポイント ・エラー：死活監視で通信が確認できていないアクセスポイント ・災害モード：災害用統一 SSID「00000JAPAN」が起動しているアクセスポイント
⑦ IP アドレス	アクセスポイントの LAN 側の IP アドレスを表示します。
⑧ MAC アドレス	アクセスポイントの LAN 側の MAC アドレスを表示します。
⑨モデル	アクセスポイントの製品モデル名を表示します。
⑩接続 Client 数	アクセスポイントに接続されているクライアント（端末）数を表示します。
⑪ SNMP	アクセスポイントに設定されている SNMP のバージョンを表示します。
⑫最新情報取得日	アクセスポイントを検出した最新日時を表示します。
⑬グループ	アクセスポイントが所属しているグループです。

※ AP リストを右クリックすると設定メニューが表示されます。各設定については Chapter 2 設定編（→ P32）を参照ください。

6-4 AP 詳細情報

AP リストのアクセスポイントをクリックすると、アクセスポイントの詳細情報が表示されます。

1 AP ステータス

アクセスポイントの情報を表示します。

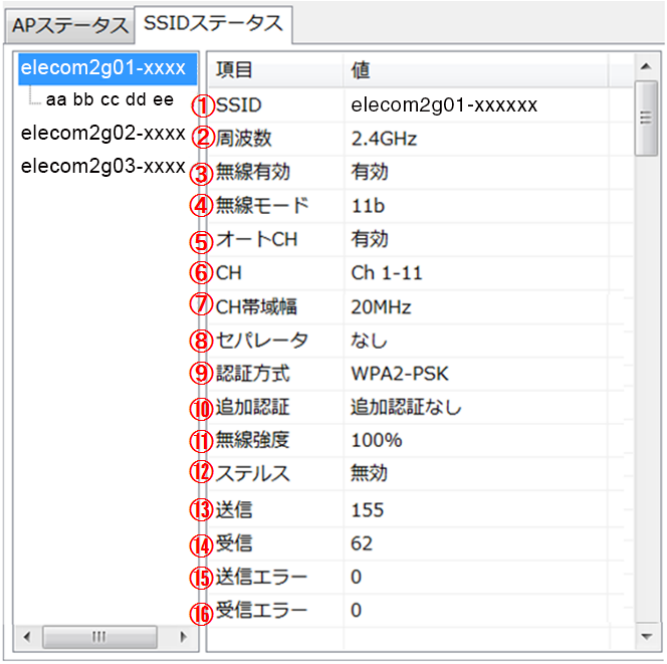
表示項目について説明します。

項目	説明
①最終情報取得日時	表示している情報を取得した日時を表示します。
②製品名	アクセスポイントの製品名を表示します。
③ IP アドレス	アクセスポイントの LAN 側の IP アドレスを表示します。
④サブネットマスク	アクセスポイントの LAN 側のサブネットマスクを表示します。
⑤デフォルトゲートウェイ	アクセスポイントの LAN 側のデフォルトゲートウェイアドレスを表示します。
⑥ IP アドレス取得	アクセスポイントの LAN 側の IP アドレスの取得方法を表示します。
⑦ MAC アドレス	アクセスポイントの LAN 側の MAC アドレスを表示します。
⑧モデル名	アクセスポイントの製品モデル名を表示します。
⑨バージョン	アクセスポイントのファームウェアのバージョンを表示します。
⑩接続 Client 数	アクセスポイントへ接続されているクライアント数を表示します。
⑪災害モード	アクセスポイントが災害モード（00000JAPAN）の起動状況を表示します。

2 SSID ステータス

アクセスポイントに設定されている各 SSID の情報を表示します。また、SSID ごとに接続されているクライアントの MAC アドレスを表示します。SSID をクリックすると、クライアントの MAC アドレスが表示されます。

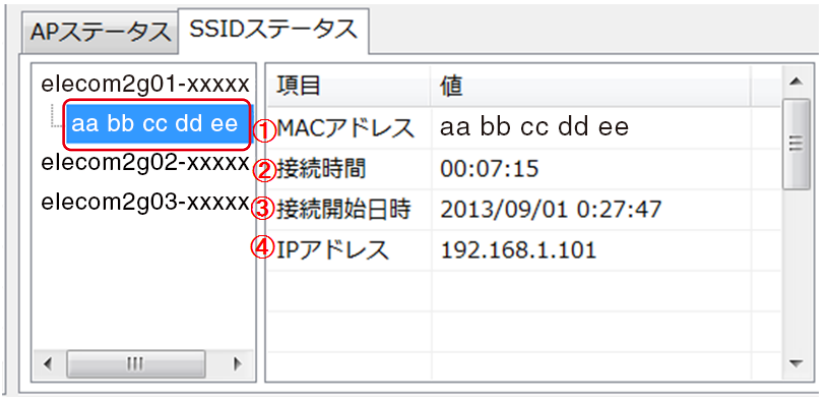
【SSID 情報の表示】



項目	説明
① SSID	SSID 名を表示します。
②周波数	無線周波数（2.4GHz / 5GHz）を表示します。
③無線有効	無線の有効 / 無効を表示します。
④無線モード	無線通信モード（11b / 11a など）を表示します。
⑤オート CH	オートチャンネルの有効 / 無効を表示します。
⑥ CH	チャンネルを表示します。
⑦ CH 帯域幅	チャンネル帯域幅を表示します。
⑧セパレータ	セパレータの設定値（なし /Station/SSID/STA & SSID）を表示します。
⑨認証方式	セキュリティ設定の認証方式を表示します。
⑩追加認証	セキュリティ設定の追加認証を表示します。
⑪無線強度	無線の送信出力を表示します。
⑫ステルス	セキュリティ設定のブロードキャスト SSID の On/Off を表示します。

⑬送信	送信パケット数を表示します。
⑭受信	受信パケット数を表示します。
⑮送信エラー	送信エラーパケット数を表示します。
⑯受信エラー	受信エラーパケット数を表示します。

【接続クライアント情報の表示】



項目	詳細
① MAC アドレス	クライアントの MAC アドレスを表示します。
②接続時間	クライアントの SSID に接続している経過時間を表示します。
③接続開始日時	クライアントが SSID に接続を開始した日時を表示します。
④ IP アドレス	クライアントの IP アドレスを表示します。

3 管理 Web

AP リストのアクセスポイントを選択し、「管理 Web」ボタンをクリックするとアクセスポイントの設定ユーティリティの Web ブラウザーが起動します。

6-5 ログ表示エリア

ログの表示エリアには、本ソフトウェアの動作ログ・アクセスポイントが出力する Syslog のメッセージが表示されます。Syslog のメッセージを表示するには、Syslog サーバーを設定する必要があります。詳しくは、Chapter 3 運用編「1 アクセスポイントログ（Syslog）（→ P120）」を参照してください。

1 表示項目

表示項目を説明します。

項目	詳細
①レベル	メッセージの重要度を表示します。
②日時	メッセージが発生した日時を表示します。
③種別	メッセージの出力元を表示します。 APP：本ソフトウェア Syslog：アクセスポイントからの Syslog メッセージ
④機器名	アクセスポイントの機器名
⑤ ログ	メッセージ

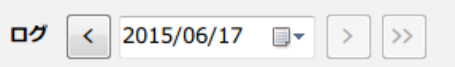
2 レベル

レベルについて説明します。レベルの重要度は、レベル 0 が最も高くレベル 7 が最も低いことを表します。

アイコン	表示	詳細
	緊急	重要度レベル 0
	警戒	重要度レベル 1
	注意	重要度レベル 2
	エラー	重要度レベル 3
	警告	重要度レベル 4
	通知	重要度レベル 5
	情報	重要度レベル 6
	デバック	重要度レベル 7

3 発生日指定

指定した日付のログを表示します。

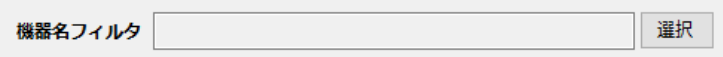


日付を直接指定することができます。　また、カレンダーアイコンをクリックし、カレンダーから指定することもできます。

アイコン	説明
<	前日のログを表示します。
>	翌日のログを表示します。
>>	最新日のログを表示します。

4 機器名フィルタ

指定した機器名のみログ表示します。



5 フィルタボタン

各ボタンをクリックすることで、表示するログレベルを指定します。初期値はすべて指定されています。

■すべてのログレベルが指定されている場合：各ボタンがカラー表示されます。

■すべてのログレベルが指定されていない場合：各ボタンがグレーアウトされます。

6 ファイル出力

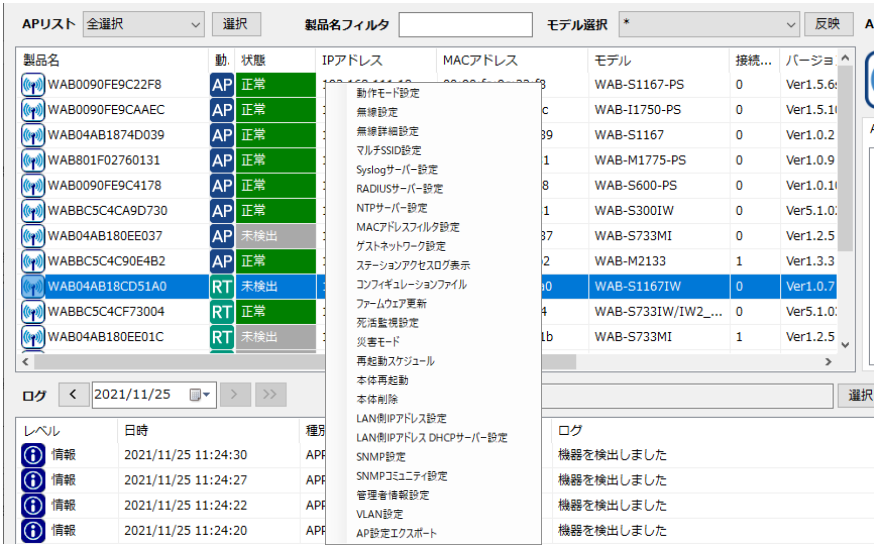
ログ情報を CSV ファイルに出力します。

「CSV エクスポート」ボタンをクリックすると、ファイル名を指定する画面が表示されますので、ファイル名を入力して保存をクリックします。

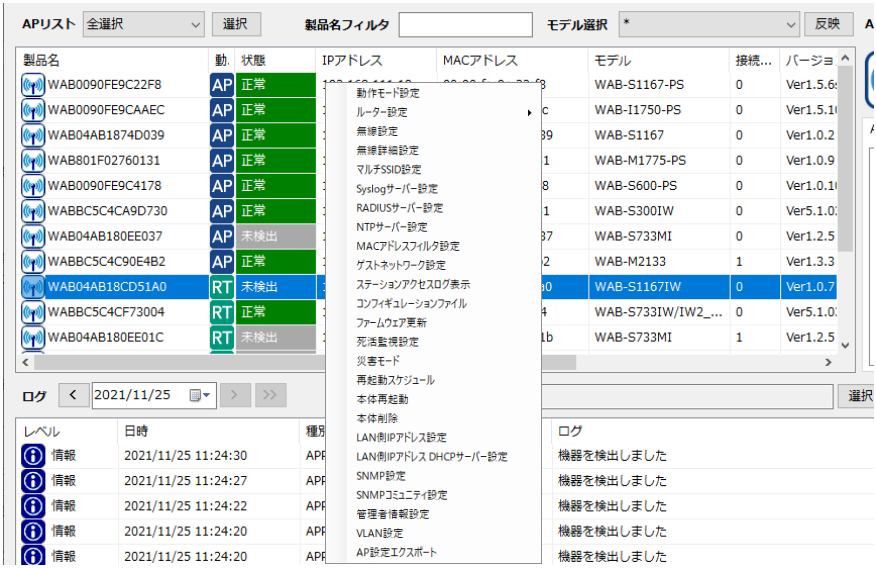
6-6 AP リスト詳細設定メニュー

AP リストに表示されたアクセスポイント情報の上で右クリックをすると、詳細設定メニューが表示されます。
選択したアクセスポイントの動作モードにより、表示されるメニューは異なります。

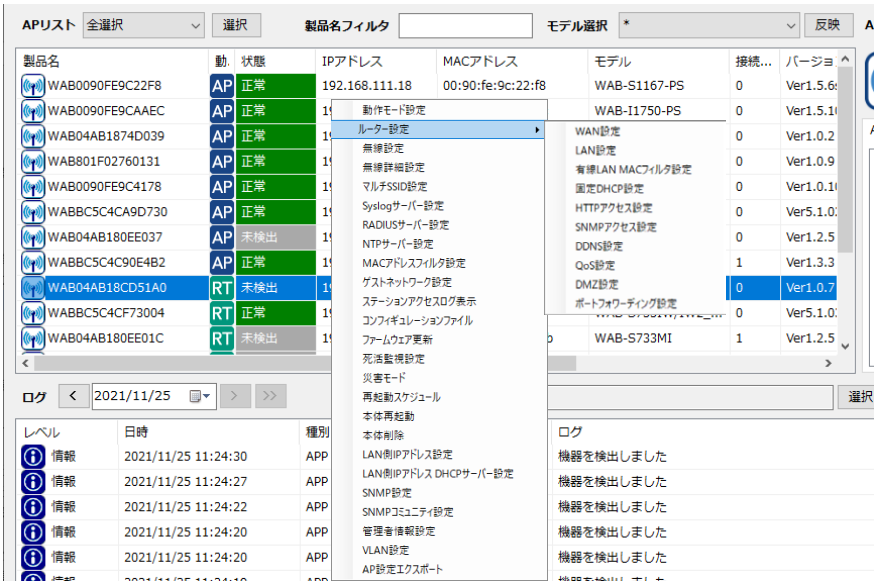
■ アクセスポイントモードで動作している製品を 1 つ、または複数選択している場合。



■ 複数のアクセスポイントを選択した状態で、ルーターモードが混在している場合。



■ ルーターモードで動作している製品を 1 つ選択している場合、または選択した製品のすべてがルーターモードで動作している場合。



各メニューは設定対象のアクセスポイントに搭載された機能により表示が異なります。
対応機能の詳細は下記 URL より別紙の「WAB-MAT 機能対応表 (PDF)」をご確認ください。
https://www.elecom.co.jp/products/WAB-MAT.html

【各メニュー】

設定項目名称		説明	設定可能な動作モード		複数台同時設定	制限事項	ページ
			AP 時	RT 時			
動作モード設定		選択したアクセスポイントの動作モードを「アクセスポイントモード」、または「ルーターモード」に変更します。	●	●	一括	※ 1	→ P41
ルーター設定	WAN 設定	ルーターモードで動作している製品の WAN 設定を行います。WAN アクセスタイプは「DHCP」「静的 IP アドレス」「PPPoE」の設定が可能です。	―	●	一括	―	→ P44
	LAN 設定	選択したアクセスポイントの LAN 設定を行います。	―	●	一括	―	→ P50
	有線 LAN MAC フィルタ設定	選択したアクセスポイントの有線 LAN の MAC アドレスフィルタ設定を行います。	―	●	一括	※ 2	→ P52
	固定 DHCP 設定	選択したアクセスポイントの固定 DHCP 設定を行います。	―	●	個別	―	→ P55
	HTTP アクセス設定	選択したアクセスポイントの WAN 側からの HTTP アクセス設定を行います。	―	●	一括	―	→ P57
	SNMP アクセス設定	選択したアクセスポイントの SNMP アクセス設定を行います。	―	●	一括	―	→ P59
	DDNS アクセス設定	選択したアクセスポイントの DDNS 設定を行います。	―	●	一括	―	→ P61
	QoS 設定	選択したアクセスポイントの QoS 設定を行います。	―	●	一括	―	→ P63
	DMZ 設定	選択したアクセスポイントの DMZ 設定を行います。	―	●	一括	※ 3	→ P65
	ポートフォワーディング設定	選択したアクセスポイントのポートフォワーディング設定を行います。	―	●	一括	※ 4	→ P67
無線設定		選択したアクセスポイントの SSID 設定を行います。	●	●	一括	―	→ P69
無線詳細設定		選択したアクセスポイントの無線の細かなオプションを設定します。	●	●	一括	―	→ P77
マルチ SSID 設定		選択したアクセスポイントのマルチ SSID 設定を行います。	●	●	一括	―	→ P81
Syslog サーバー設定		選択したアクセスポイントの Syslog サーバー設定を行います。	●	●	一括	―	→ P84

設定項目名称	説明	設定可能な動作モード		複数台同時設定	制限事項	ページ
		AP 時	RT 時			
RADIUS サーバー設定	選択したアクセスポイントの RADIUS サーバー設定を行います。	●	●	一括	―	→ P85
NTP 設定	選択したアクセスポイントの NTP サーバー設定を行います。	●	●	一括	―	→ P91
MAC アドレスフィルタ設定	選択したアクセスポイントの MAC アドレスフィルタ設定を行います。	●	●	一括	―	→ P92
ゲストネットワーク設定	選択したアクセスポイントのゲストネットワーク SSID の設定を行います。	●	●	一括	※ 5	→ P95
ステーションアクセスログ表示	選択したアクセスポイントのステーションアクセスログを表示します。また表示されたログを CSV ファイルに出力します。	●	●	切替	―	→P124
コンフィギュレーションファイル	選択したアクセスポイントのコンフィギュレーションファイルの設定やファイルの保存を行います。	●	●	個別	―	→P126
ファームウェア更新	選択したアクセスポイントのファームウェアを更新します。	●	●	一括	―	→P132
死活監視設定	選択したアクセスポイント の死活監視設定を行います。監視方式は「PING 形式」「SNMP 形式」から選択できます。	●	●	一括	―	→P136
災害モード	選択したアクセスポイントの災害用 SSID「00000JAPAN」の有効 / 無効設定を行います。	●	●	一括	―	→P139
再起動スケジュール	選択したアクセスポイントの再起動スケジュールを設定します。	●	●	一括	―	→P147
本体再起動	選択したアクセスポイントの再起動を行います。	●	●	一括	―	→P150
本体削除	アクセスポイントの状態が「エラー」や「未検出」のアクセスポイントをリストから削除します。	●	●	一括	―	→P153
LAN 側 IP アドレス設定	選択したアクセスポイントの LAN 側 IP アドレスを設定します。「DHCP クライアント」「静的 IP アドレス」の設定が可能です。	●	―	一括	―	→ P99
LAN 側 IP アドレス DHCP サーバー設定	選択したアクセスポイントの LAN 側 IP アドレス DHCP サーバー設定を行います。	●	―	一括	―	→P104
SNMP 設定	選択したアクセスポイントの SNMP 設定を行います。	●	●	一括	―	→P107

設定項目名称	説明	設定可能な動作モード		複数台同時設定	制限事項	ページ
		AP 時	RT 時			
SNMP コミュニティ設定	選択したアクセスポイントの SNMP コミュニティ設定を行います。	●	●	一括	―	→P110
管理者情報設定 （旧名称:AP ロケーション設定）	選択したアクセスポイントの管理者情報を設定します。	●	●	一括	―	→P112
VLAN 設定	選択したアクセスポイントの VLAN 設定を行います。	●	―	一括	※ 5	→P114
AP 設定エクスポート	選択した AP の設定情報を Excel 形式でエクスポートします。	●	―	一括	―	→P117

※ 1 WAB-S733IW シリーズは Ver.5.1.03 以降のみ対応。WAB-S300IW シリーズは Ver.5.1.02 以降のみ対応。
※ 2 WAB-S733MI は非対応。
※ 3 DMZ 設定が有効になるとアクセスポイントが本ソフトウェアから管理不可となります。アクセスポイント本体の Web UI からアクセスしてください。
※ 4 SNMP のポート（161）を設定するとアクセスポイントが本ソフトウェアから管理不可となります。アクセスポイント本体の Web UI からアクセスしてください。
※ 5 アクセスポイントが異なる型番の場合は個別設定のみ可能です。

Chapter 2

設定編

1 アクセスポイントの登録

本ソフトウェアでは管理対象となるアクセスポイントを「自動検出」による登録と、「手動」による登録の 2 つの方法で実行することができます。

アクセスポイント自動検出：

本ソフトウェアがインストールされている端末と同一ネットワークセグメント内（※）にあるアクセスポイントを自動的に検出し登録していきます。

アクセスポイント手動登録：

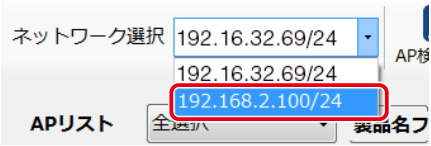
本ソフトウェアがインストールされている端末と異なるネットワークセグメント（※）にあるアクセスポイントは、アクセスポイントのIPアドレスを指定して登録することができます。

※初期設定状態では、インストールされている PC の IP アドレスと 24 ビットサブネットが同じ IP アドレスを、同一セグメント範囲として自動検出を行っています。16 ビットサブネットなどでご利用の場合は、同一サブネット内のアクセスポイントが自動検出されない場合があります。その場合は、手動登録を行ってください。オプション設定画面で「端末検索サブネット範囲を 24bit 限定とする」のチェックを外すと、実際のサブネット範囲内すべてが検出対象となりますが、検出に必要な時間が非常に長くなる場合があります。ご注意ください。

1-1 アクセスポイントの自動検出

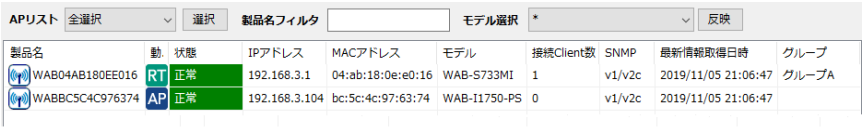
1 アクセスポイント検出対象のネットワークを選択

アクセスポイントの自動検出の対象となるネットワークを選択してください。



2 アクセスポイントの自動検出

選択したネットワーク内に存在するアクセスポイントを自動検出し、APリストに表示されます。



1-2 「AP 検出開始」によるアクセスポイントの自動検出

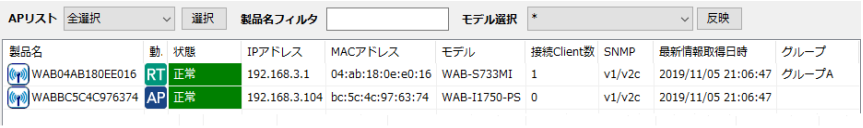
ツールバーの「AP 検出開始」をクリックした場合も、アクセスポイントの自動検出をはじめます。

1 ツールバー内の「AP 検出開始」ボタンをクリック

インストールされた管理端末と同一ネットワーク内に存在するアクセスポイントを自動検出します。

2 検出されたアクセスポイントの登録

自動検出されたアクセスポイントが自動的に登録されます。



製品名	動.	状態	IPアドレス	MACアドレス	モデル	接続Client数	SNMP	最新情報取得日時	グループ
WAB04AB180EE016	RT	正常	192.168.3.1	04:ab:18:0e:e0:16	WAB-S733MI	1	v1/v2c	2019/11/05 21:06:47	グループA
WABBC5C4C976374	AP	正常	192.168.3.104	bc:5c:4c:97:63:74	WAB-I1750-PS	0	v1/v2c	2019/11/05 21:06:47	

3 アクセスポイントの自動検出の停止

「AP 検出停止」をクリックすると、アクセスポイントの検出作業が停止します。

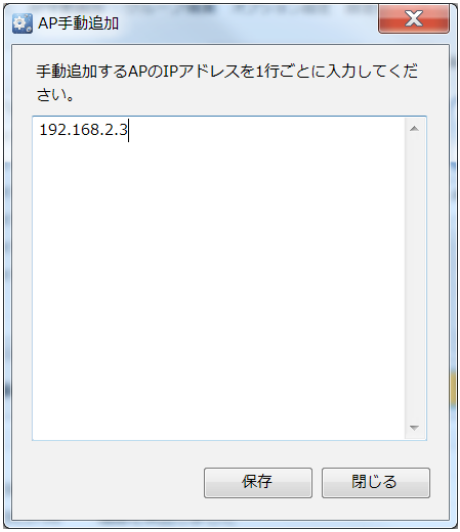
1-3 アクセスポイントの手動登録

1 ツールバー内の「AP 手動追加」ボタンをクリック

アクセスポイントの自動検出で登録できない、異なるネットワークセグメントに存在するアクセスポイントがある場合は、こちらのメニューから登録します。

2 AP 手動追加画面に、追加したいアクセスポイントの IP アドレスを入力

表示された画面に、追加したいアクセスポイントの IP アドレスを登録してください。IP アドレスは 1 行ずつ登録いたします。

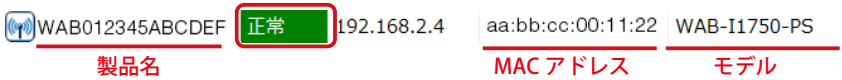


IP アドレスは 1 行ずつ登録してください。また IP アドレス以外の文字列、空白行、同じ IP アドレスは登録できないのでご注意ください。

3 手動追加したアクセスポイントが確認できない場合

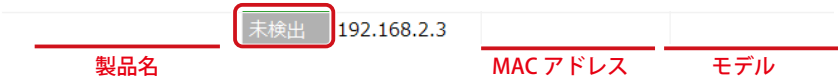
アクセスポイントへの通信が確認できた場合は、アクセスポイント内の製品名や MAC アドレスが表示されます。検出されない場合は、未検出という形で AP リストに表示されます。

【正常にアクセスポイントが確認できた場合の表示】



- ステータス表示が「正常」になっている
- 「製品名」、「MAC アドレス」、「モデル」などの情報が表示されている

【アクセスポイントが確認できない場合の表示】



- ステータス表示が「未検出」になっている
- 「製品名」、「MAC アドレス」、「モデル」などの情報が表示されていない

2 グループ編集

本ソフトウェアに登録されたアクセスポイントを任意のグループに設定します。

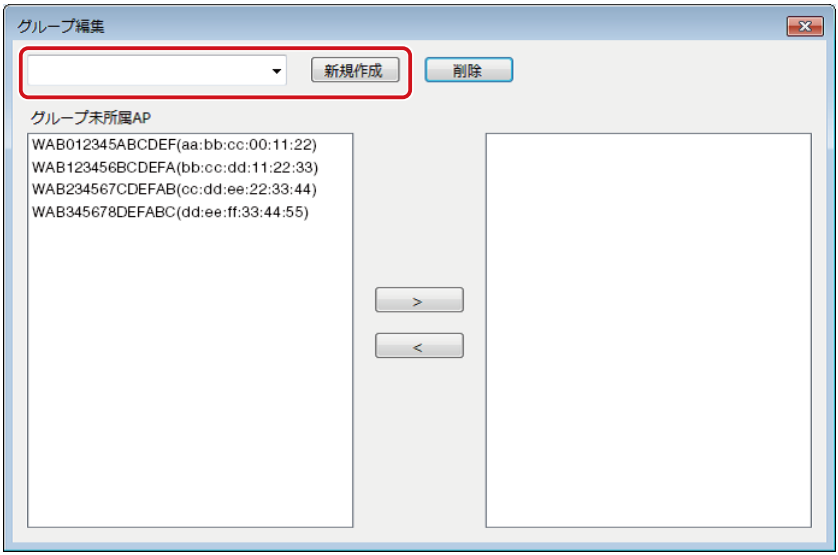
2-1 アクセスポイントのグループ編集

1 ツールバー内の「グループ編集」ボタンをクリック

新規グループを設定するグループ編集画面を表示します。

2 新規グループ作成

新しいグループを作成する場合は、「新規作成」ボタンの左横のテキストボックスにグループ名を入力し、「新規作成」をクリックします。



3 アクセスポイントのグループへの追加、削除

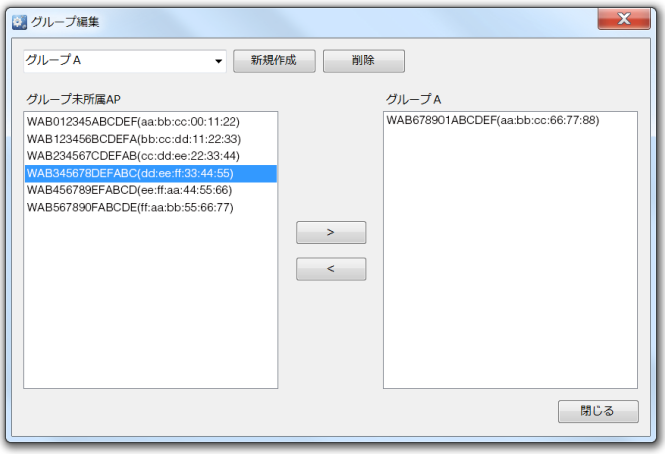
グループが作成されるとグループ名が選択できます。選択すると、グループ名が右側に表示されます。

【アクセスポイントのグループへの追加】

「グループ未所属 AP」のアクセスポイントを選択し、 > ボタンをクリックするとグループに追加されます。

【アクセスポイントのグループからの削除】

設定したグループ内にあるアクセスポイントを選択し、 < ボタンをクリックすると、グループから削除されます。

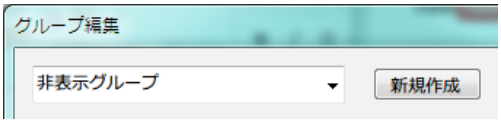


4 グループの削除

グループを選択し、「削除」をクリックするとグループが削除されます。グループに登録されていたアクセスポイントは、グループ未所属 AP に割り当てられます。

2-2 アクセスポイント非表示グループ設定

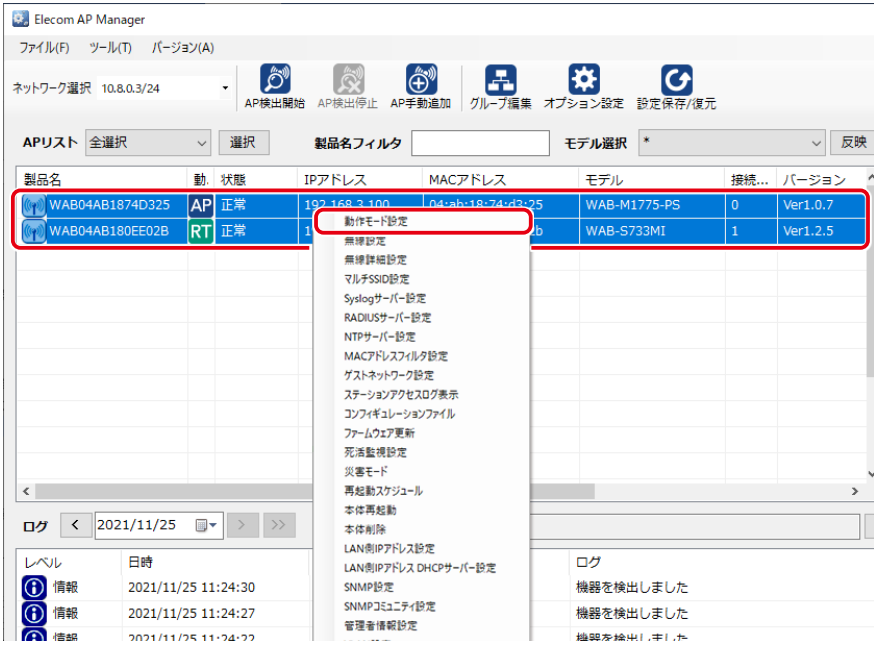
AP リスト一覧にアクセスポイントを表示させたくない場合は、非表示グループ設定にあらかじめ設定する必要があります。グループ編集では、グループが作成されていない状況でも「非表示グループ」が作成されております。



非表示グループアクセスポイントは、AP リスト非表示と死活監視対象外となります。

3 アクセスポイントの複数選択

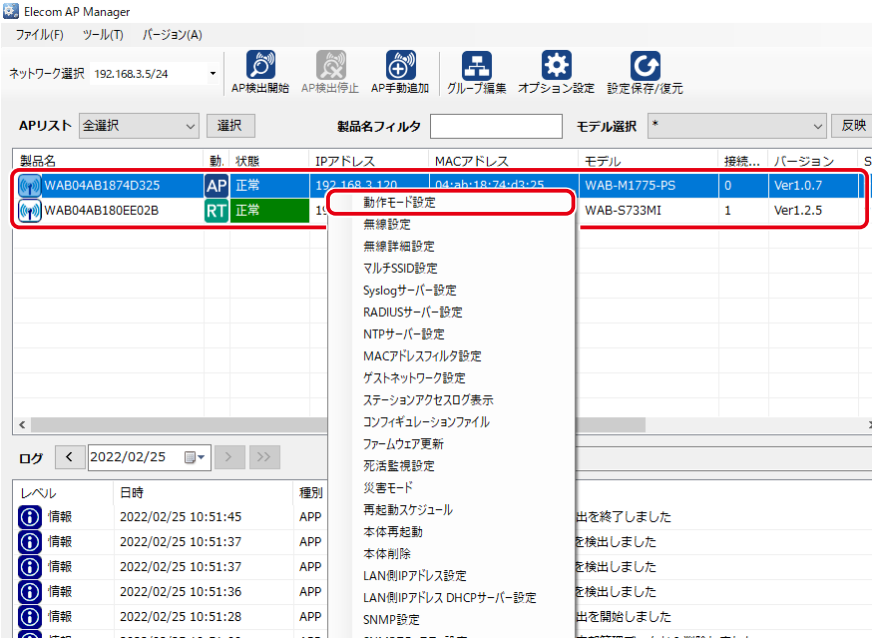
本ソフトウェアに登録されたアクセスポイントに対して設定を行う際、SHIFT キーを押しながらアクセスポイントをクリックすると、複数のアクセスポイントを選択することができます。
その後、右クリックでメニューを表示して設定すると、選択された複数のアクセスポイントに同一の設定を一括で設定可能です。



異なるモデルを複数選択した場合、設定内容により一括設定ができない場合もあります。その場合は各モデルごとに設定を行ってください。

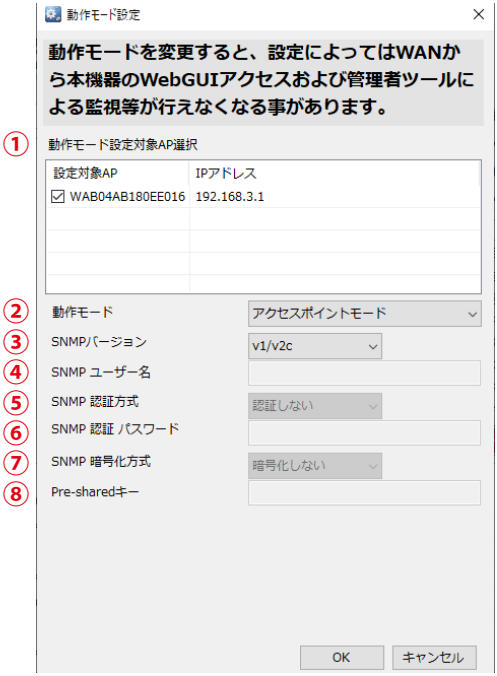
4 動作モード設定

本ソフトウェアに登録されたアクセスポイントの動作モードを設定します。
設定を行うアクセスポイントを選択し、右クリックでメニューを表示します。
表示されたメニュー内の「動作モード設定」をクリックします。

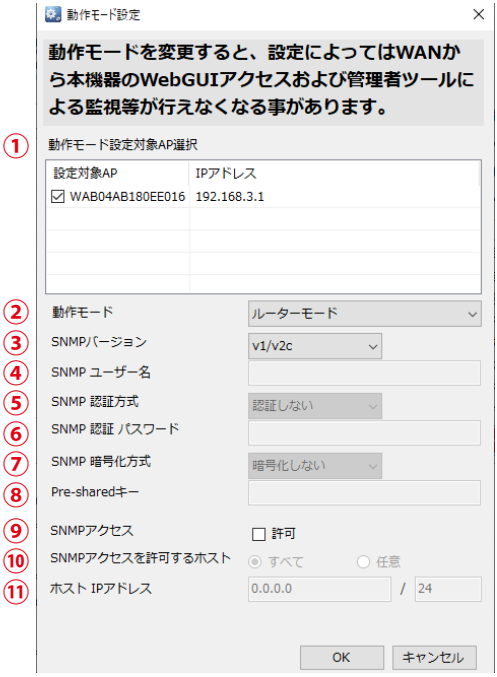


管理対象のアクセスポイントをルーターモードに変更して使用する際は、以下のいずれかの設定を行ってください。
以下の設定がされていない場合、アクセスポイントの「状態」表示が「正常」・「エラー」と繰り返し表示されます。

- 「WAN 側からの ping に対する応答」を有効に設定する。
  1) 管理対象のアクセスポイント本体の管理画面の「WAN 設定」から設定する。
  2) 本ソフトウェアの Chapter 2 設定編「5 WAN 設定（→ P44）」から設定する。
- 本ソフトウェアの Chapter 3 運用編「5 死活監視設定（→ P136）」から「監視方式」を「SNMP」に変更する。



■ 選択したアクセスポイントが「ルーターモード」で動作している場合



項目	詳細
① 動作モード設定対象 AP 選択	選択したアクセスポイントがリストで表示されます。設定するアクセスポイントにチェックを入れてください。
② 動作モード	選択したアクセスポイントの動作モードを「アクセスポイントモード」または「ルーターモード」のどちらかに変更します。
③ SNMP バージョン	SNMP プロトコルのバージョンを「v1/v2c」または「v3」から選択します。（初期値：v1/v2c） 「v1/v2c」を選択した場合、MIB のアクセスにはコミュニティ（SNMP 取得コミュニティ、SNMP 設定コミュニティ、SNMP トラップコミュニティ）を使用します。
④ SNMP ユーザー名	「SNMP バージョン」に「v3」を選択した場合、入力します。 使用可能な文字は、英数字と記号、32 文字以内です。
⑤ SNMP 認証方式	「SNMP バージョン」に「v3」を選択した場合、「MD5」、「SHA」、「認証しない」から選択します。
⑥ SNMP 認証パスワード	「SNMP バージョン」に「v3」を選択した場合、入力します。 使用可能な文字は、英数字と記号、32 文字以内です。
⑦ SNMP 暗号化方式	「SNMP バージョン」に「v3」を選択した場合、「DES」、「3DES」、「AES128」、「AES192」、「AES256」、「暗号化しない」から選択します。 アクセスポイントの機種により、選択可能な暗号化方式が異なります。設定する機種に合わせて、選択してください。 「暗号化しない」を選択した場合は、「Pre-shared キー」の入力は不要です。
⑧ Pre-shared キー	「SNMP バージョン」に「v3」を選択し、「SNMP 暗号化方式」に「暗号化しない」以外を選択した場合、入力します。 使用可能な文字は、英数字と記号、32 文字以内です。
「ルーターモード」選択時のみ	
⑨ SNMP アクセス	チェックをすると選択したアクセスポイントの WAN（インターネット）側からの SNMP アクセスを許可します。
⑩ SNMP アクセスを許可するホスト	すべて：インターネット側から選択したアクセスポイントへすべての機器でアクセスが可能になります。 任意：インターネット側から選択したアクセスポイントへ任意の機器のみアクセスが可能になります。
⑪ ホスト IP アドレス	アクセスを許可する機器の IP アドレスとサブネットマスクを入力します。（「SNNP アクセスを許可するホスト」で「任意」を選択した場合のみ） ＜設定例 1 ＞ IP アドレス：192.168.2.1 サブネットマスク：255.255.255.0 192.168.2.1 ～ 192.168.2.254 の同一セグメントの IP アドレスを持つ端末からアクセスが可能になります。 ＜設定例 2 ＞ IP アドレス：192.168.2.1 サブネットマスク：255.255.255.255 192.168.2.1 の IP アドレスを持つ端末のみアクセスが可能になります。

注意

ルーターモードで WAN 側インターフェースから WAB-MAT でアクセスする場合、必ず SNMP バージョンは v3 を選択してください。
セキュリティを考慮して、SNMP v1/v2c の場合は、LAN 側からのみアクセス可能となります。

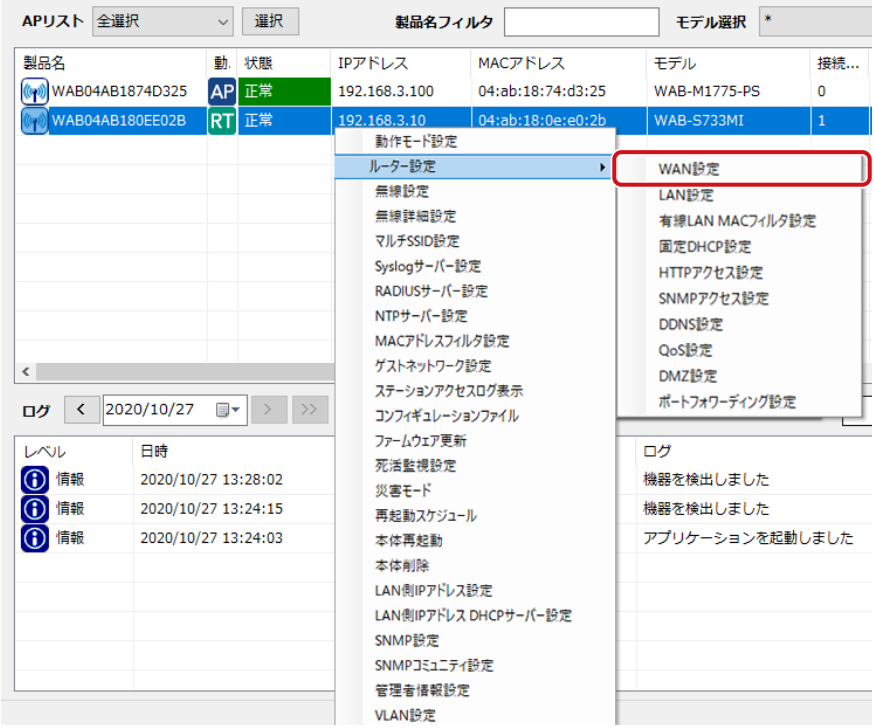
5 WAN 設定

ルーターモード

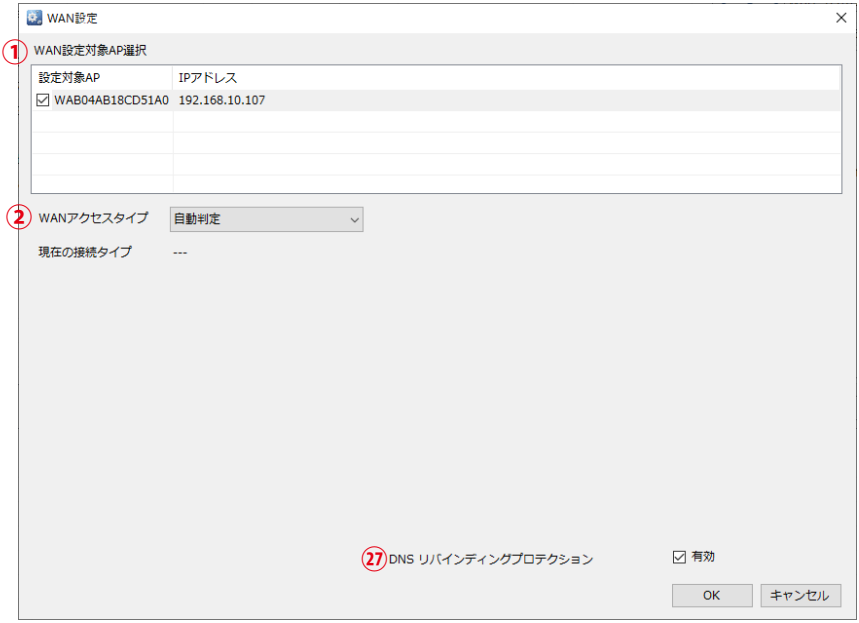
本ソフトウェアに登録されたルーターモードで動作しているアクセスポイントの WAN 設定を行います。

設定を行うアクセスポイントを選択し、右クリックでメニューを表示します。

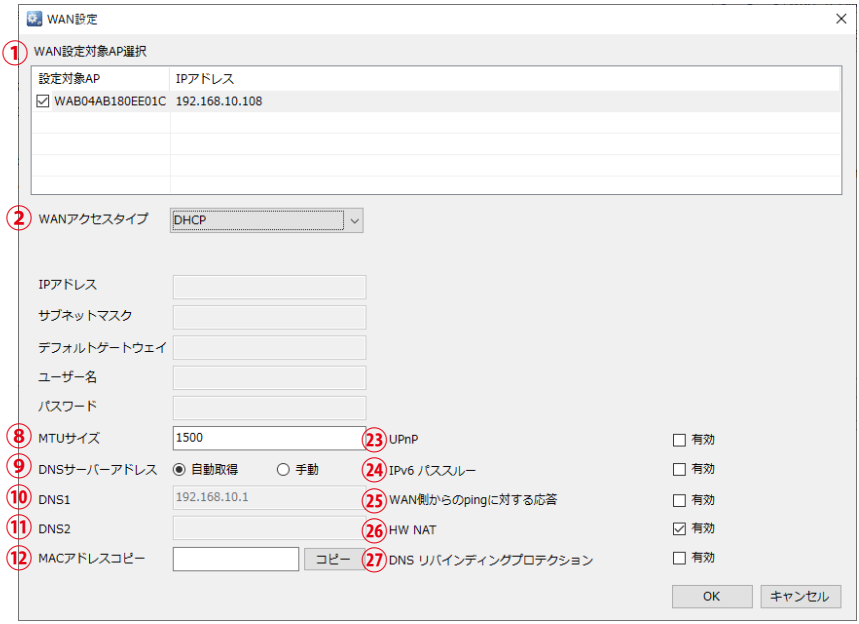
表示されたメニュー内の「ルーター設定」→「WAN 設定」をクリックします。



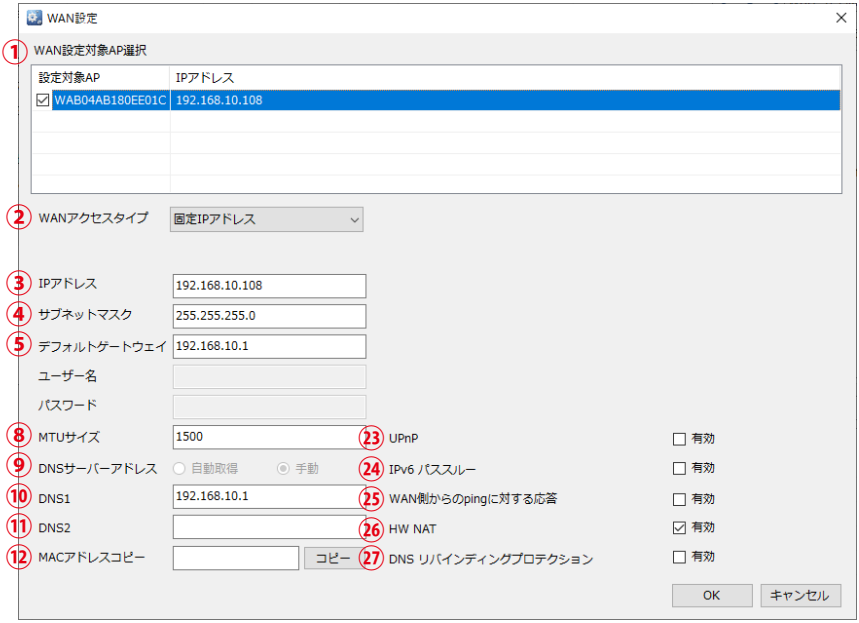
■ 自動判定を選択した場合



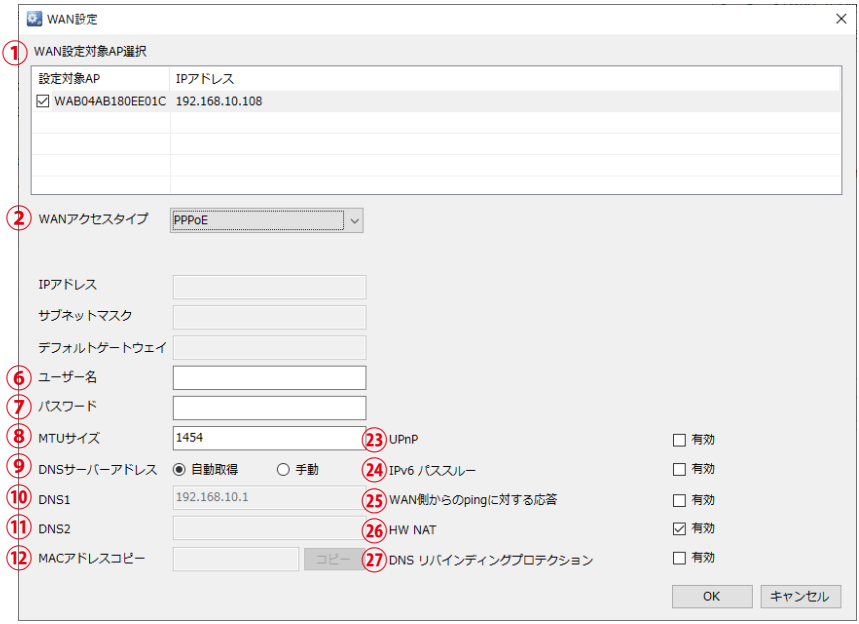
■ DHCP を選択した場合



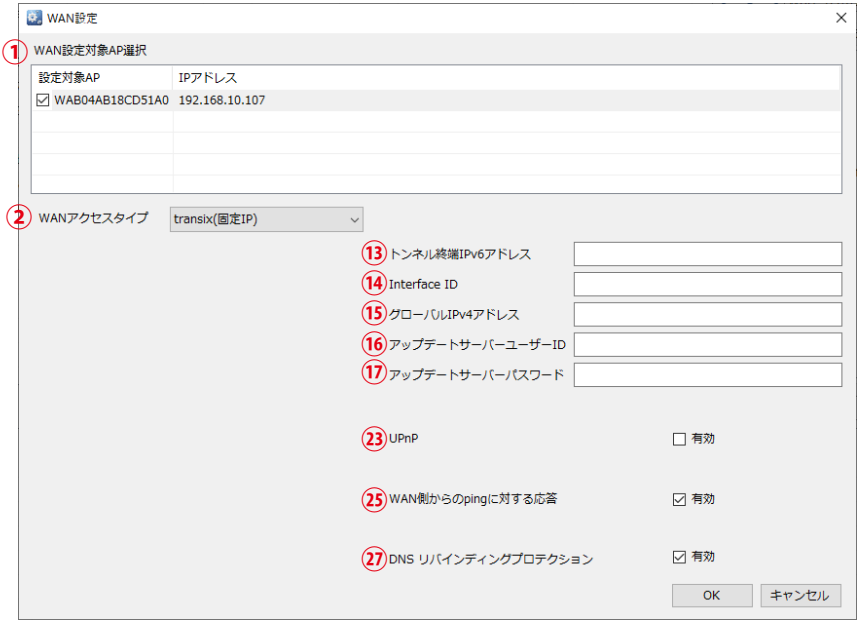
■ 固定 IP アドレスを選択した場合



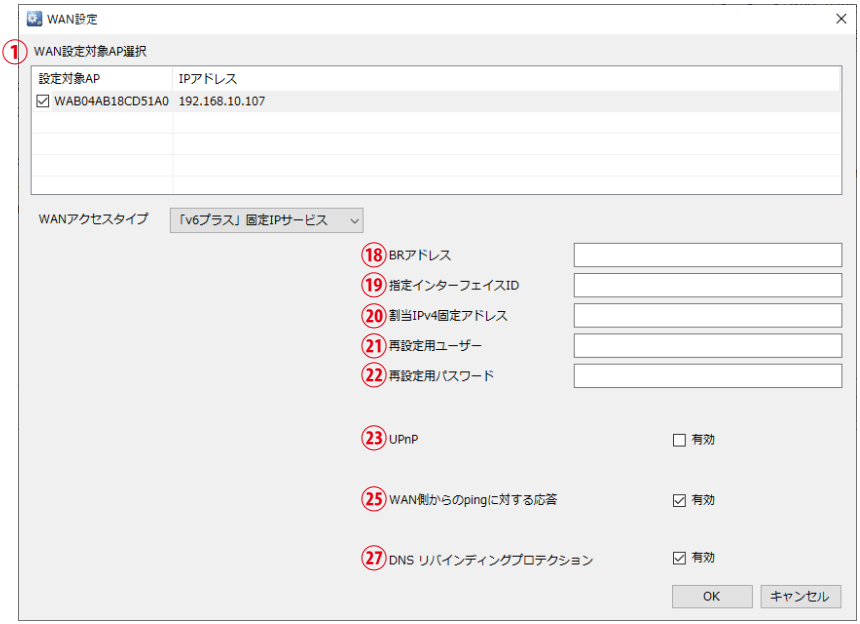
■ PPPoE を選択した場合



■ transix（固定 IP）を選択した場合



■「v6 プラス」固定 IP サービスを選択した場合



項目	詳細
① WAN 設定対象 AP 選択	選択したアクセスポイントがリストで表示されます。設定するアクセスポイントにチェックを入れてください。
② WAN アクセスタイプ	WAN（インターネット）側の設定を行います。 選択しているアクセスポイントで対応している WAN アクセスタイプのみ表示します。 ・自動判定　・DHCP　・固定 IP アドレス　・PPPoE ・transix(固定 IP)　・「v6 プラス」固定 IP サービス
「固定 IP アドレス」選択時のみ	
③ IP アドレス	プロバイダーから提供された情報を入力します。
④ サブネットマスク	
⑤ デフォルトゲートウェイ	
「PPPoE」選択時のみ	
⑥ ユーザー名	プロバイダーから提供されたユーザー名を入力します。 （最大 57 文字） ユーザー ID に「@」がある場合、ユーザー名のあとに、「@」とご契約のプロバイダーの識別子を入力する必要があります。 （例）userID123@elecom.net ユーザー名　プロバイダー識別子
⑦ パスワード	プロバイダーから提供されたパスワードを入力します。（最大 57 文字）
⑧ MTU サイズ	MTU ＝ Maximum Transmission Unit 1 回の転送で送信できるデータの最大値（単位バイト）を設定します。通常は変更する必要はありません。 初期値 ・「DHCP」、「固定 IP アドレス」選択時：1500 バイト ・「PPPoE」選択時：1454 バイト
「DHCP」、「PPPoE」選択時のみ	
⑨ DNS サーバーアドレス	プロバイダーより自動的に DNS サーバーのアドレスを取得する場合に「自動取得」を選択します。プロバイダーより指定がある場合は「手動」を選択します。
⑩ DNS1	プロバイダーから DNS アドレスの指示が 1 個の場合は、こちらにだけ入力します。プロバイダーから DNS アドレスの指示が 2 個の場合は、プライマリの DNS アドレスを入力します。
⑪ DNS2	プロバイダーから DNS アドレスの指示が 2 個の場合は、セカンダリの DNS アドレスを入力します。
「DHCP」、「固定 IP アドレス」選択時のみ	
⑫ MAC アドレスコピー （WAB-S733MI のみ対応）	インターネット側に通知する MAC アドレスを区切り記号なしで入力します。 「Copy」をクリックすると、接続中の PC の MAC アドレスをコピーして入力します。

項目	詳細
「transix（固定）」選択時のみ	
⑬ トンネル終端 IPv6 アドレス	IPv6 アドレスを入力します。
⑭ Interface ID	Interface ID を入力します。
⑮ グローバル IPv4 アドレス	IPv4 アドレスを入力します。
⑯ アップデートサーバー ユーザー ID	ユーザー ID を入力します。
⑰ アップデートサーバー パスワード	パスワードを入力します。
「v6 プラス」固定 IP サービス	
⑱ BR アドレス	IPv6 アドレスを入力します。
⑲ 指定インターフェイス ID	Interface ID を入力します。
⑳ 割当 IPv4 固定アドレス	IPv4 アドレスを入力します。
㉑ 再設定用ユーザー	ユーザー ID を入力します。
㉒ 再設定用パスワード	パスワードを入力します。
㉓ UPnP	UPnP（Universal Plug and Play）機能の有効／無効を設定します。UPnP を有効にすると、UPnP 対応 OS で UPnP に対応するネットワーク機器を使用した場合に、自動的に LAN 内の機器を検出して、正常に認識できるようにします。（初期値：無効）
㉔ IPv6 パススルー	プロバイダーから提供される IPv6 サービスを、本製品を経由して利用できるようにする「IPv6 ブリッジ」機能の有効／無効を設定します。 IPv6 サービスを利用する場合でも、本製品を経由しない場合は無効のままでかまいません。（初期値：無効）
㉕ WAN 側からの ping に対する応答	WAN（インターネット）側からの ping に対して応答するかどうかを設定します。 有効にすると、WAN 側からの ping に対して応答します。（初期値：無効）
㉖ HW NAT	有効にすると、ハードウェアで通信処理を行います。ソフトウェアでの通信処理に比べ、パケットロスを抑えて高速スループットを実現します。光回線などの高速通信を維持したまま、無線を利用できるため、スマートフォンなどの Wi-Fi 接続に最適です。 （初期値：有効）
㉗ DNS リバインディング プロテクション	DNS リバインディングプロテクション機能の有効 / 無効を設定します。

※ ユーザー名およびパスワードには、以下の文字を使用できます。
「a ～ z」、「A ～ Z」、「0 ～ 9」、「 」（スペース）、「.」、「_」（アンダースコア）、「@」、「$」、「:」、「;」、「*」、「#」、「%」、「/」、「-」、「+」、「!」、「=」（すべて半角文字）

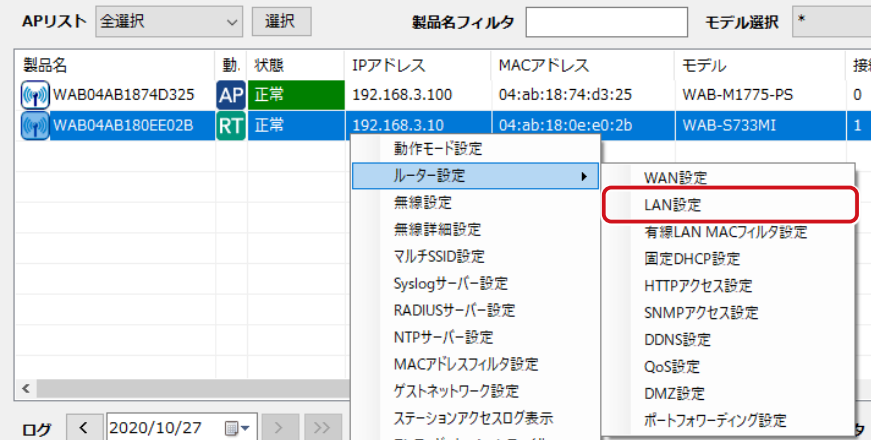
6 LAN 設定

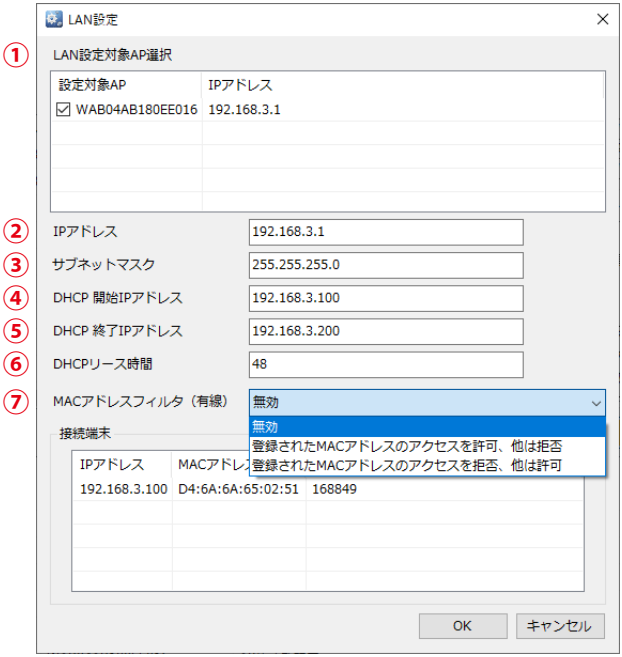
ルーターモード

本ソフトウェアに登録されたルーターモードで動作しているアクセスポイントの LAN 設定を行います。

設定を行うアクセスポイントを選択し、右クリックでメニューを表示します。

表示されたメニュー内の「ルーター設定」→「LAN 設定」をクリックします。

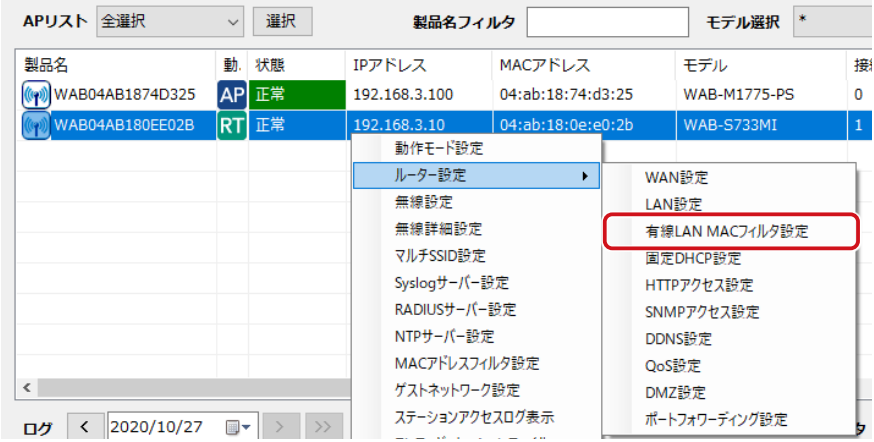


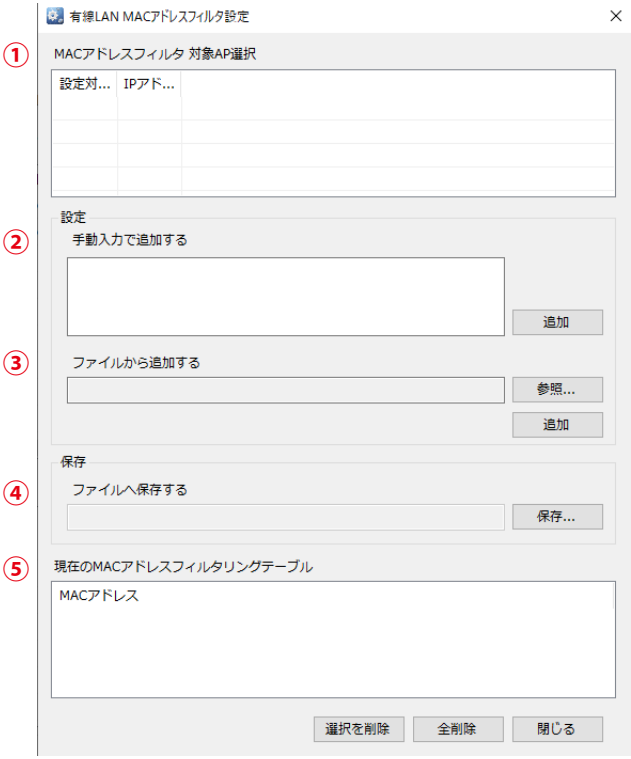


項目	詳細
① LAN 設定対象 AP 選択	選択したアクセスポイントがリストで表示されます。設定するアクセスポイントにチェックを入れてください。
② IP アドレス	選択されたアクセスポイントの LAN 側の IP アドレスです。初期値は「192.168.3.1」です。
③ サブネットマスク	使用中のネットワークのサブネットマスクを入力します。初期値は「255.255.255.0」です。
④ DHCP 開始 IP アドレス	DHCP サーバーがクライアントに自動的に割り付ける IP アドレスの範囲を指定します。開始 IP アドレス～終了 IP アドレスの範囲でクライアントに IP アドレスが自動的に割り当てられます。 「DHCP 開始 IP アドレス」の初期値：192.168.3.100 「DHCP 終了 IP アドレス」の初期値：192.168.3.200
⑤ DHCP 終了 IP アドレス	
⑥ DHCP リース時間	DHCP サーバーによりクライアントに割り当てられる IP アドレスのリース時間を設定します。1 ～ 168 時間までの範囲で設定できます。初期値は 48 時間です。 指定時間を過ぎると DHCP サーバーより IP アドレスを再取得します。
⑦ MAC アドレスフィルタ（有線）	選択されたアクセスポイントの MAC アドレスフィルタ（有線）の設定を以下から設定します。 ・無効（初期値） ・登録された MAC アドレスのアクセスを許可、他は拒否 ・登録された MAC アドレスのアクセスを拒否、他は許可

7 有線 LAN MAC フィルタ設定 ルーターモード

本ソフトウェアに登録されたルーターモードで動作しているアクセスポイントの有線 LAN MAC フィルタ設定を行います。
設定を行うアクセスポイントを選択し、右クリックでメニューを表示します。
表示されたメニュー内の「ルーター設定」→「有線 LAN MAC フィルタ設定」をクリックします。





項目	詳細
① MAC アドレスフィルタ対象 AP 選択	選択したアクセスポイントがリストで表示されます。設定するアクセスポイントにチェックを入れてください。
② 手動入力で追加する	登録したい有線子機の MAC アドレスを入力します。入力後、「追加」をクリックしてください。 改行で区切って複数の MAC アドレスを一度に追加することも可能です。
③ ファイルから追加する	MAC アドレスフィルタ登録は CSV ファイルから登録することもできます。 事前に下記レイアウトにて、MAC アドレスフィルタ対象となる MAC アドレスを登録してください。 **00:22:44:66:88:AA,** **22:44:66:88:AA:CC,** ※ MAC アドレスと MAC アドレスは［,］（カンマ）で区切ってください。 ●「参照 ...」ボタンをクリックするとファイル選択の画面が表示されますので登録用ファイルを選択してください。 ●「追加」ボタンをクリックすると、ファイル内の MAC アドレスがアクセスポイントに追加されます。

④ ファイルへ保存する	登録されているMACアドレスを一覧でファイルに保存します。 ●「保存 ...」ボタンをクリックすると保存の画面が表示されます。ファイル名を入力して「保存」をクリックしてください。
⑤ 現在の MAC アドレスフィルタリングテーブル	登録されている MAC アドレスを一覧で表示します。

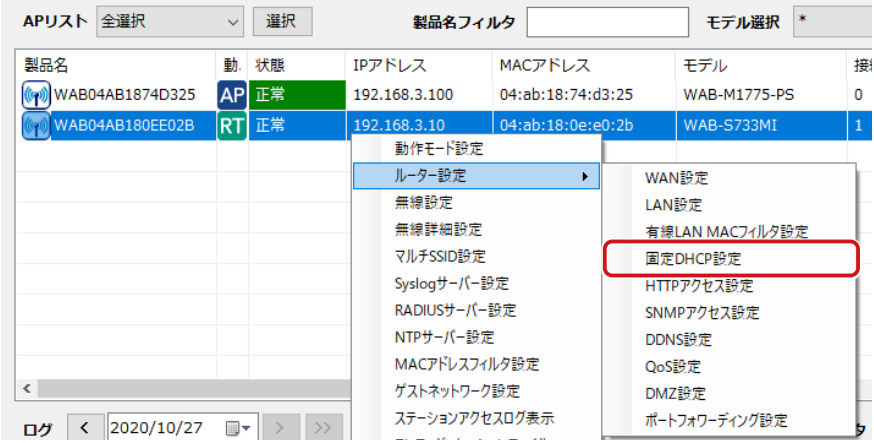
8 固定 DHCP 設定

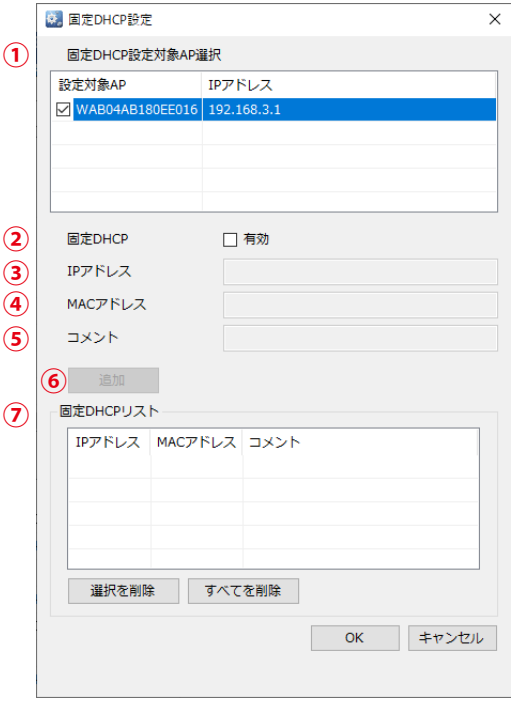
ルーターモード

本ソフトウェアに登録されたルーターモードで動作しているアクセスポイントの固定 DHCP 設定を行います。

設定を行うアクセスポイントを選択し、右クリックでメニューを表示します。

表示されたメニュー内の「ルーター設定」→「固定 DHCP 設定」をクリックします。

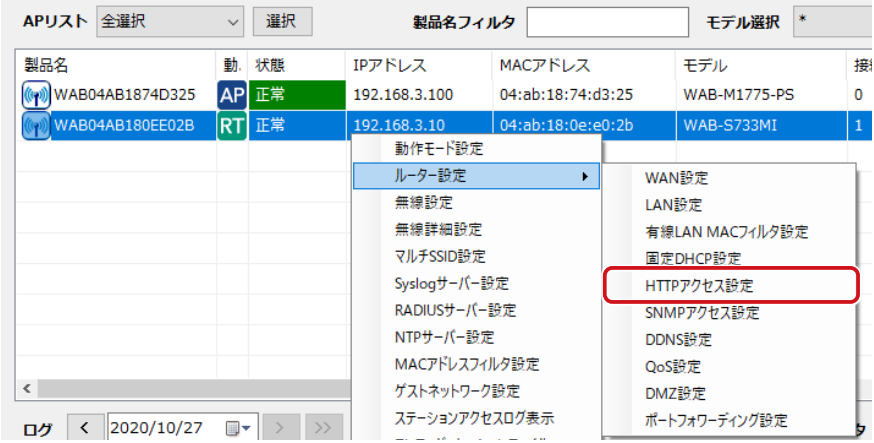




項目	詳細
① 固定 DHCP 設定対象 AP 選択	選択したアクセスポイントがリストで表示されます。設定するアクセスポイントにチェックを入れてください。
② 固定 DHCP	有効にチェックすると、固定 DHCP リストにある内容が有効になりクライアントの IP アドレスが固定されます。
③ IP アドレス	クライアントに割り当てる IP アドレスを入力します。 （例：192.168.3.100） ※ DHCP 範囲以外の IP アドレスでも設定可能ですが、割り当て範囲外のため設定は無効となります。
④ MAC アドレス	IP アドレスを固定するクライアントの MAC アドレスを入力します。 （例：00:90:fe:01:23:ab）
⑤ コメント	機器を区別するための名称などを必要に応じて入力します。 （最大半角 20 文字または全角 10 文字）
⑥ 追加	入力した値が「固定 DHCP リスト」に追加されます。
⑦ 固定 DHCP リスト	IP アドレスを固定設定したクライアントのリストが表示されます。リストから削除したい場合は対象をチェック後、「選択を削除」または「すべてを削除」をクリックします。

9 HTTP アクセス設定 ルーターモード

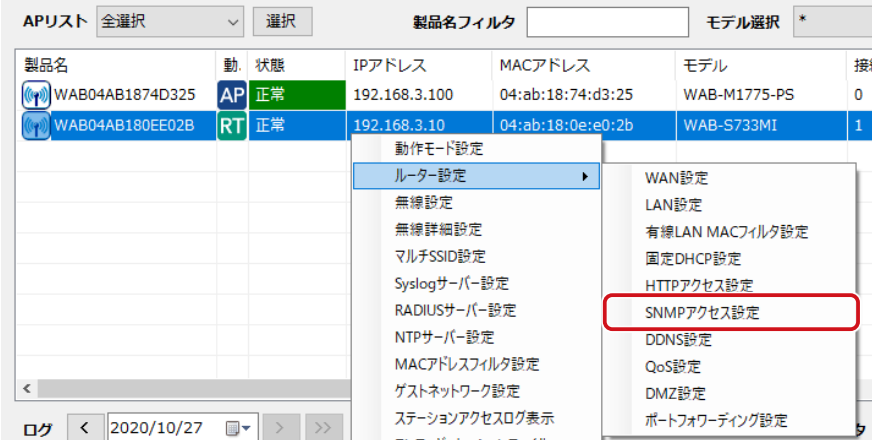
本ソフトウェアに登録されたルーターモードで動作しているアクセスポイントの HTTP アクセス設定を行います。
設定を行うアクセスポイントを選択し、右クリックでメニューを表示します。
表示されたメニュー内の「ルーター設定」→「HTTP アクセス設定」をクリックします。

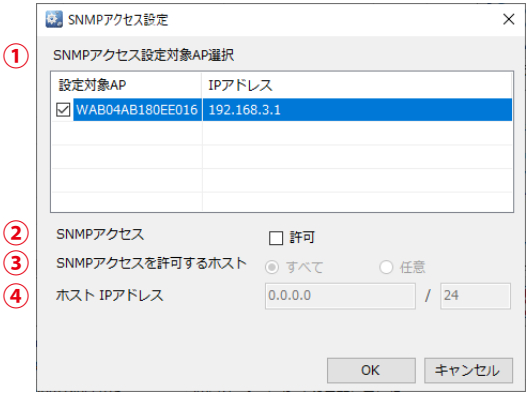


<table>
<tr><th>項目</th><th>詳細</th></tr>
<tr><td>① HTTP アクセス設定対象 AP 選択</td><td>選択したアクセスポイントがリストで表示されます。設定するアクセスポイントにチェックを入れてください。</td></tr>
<tr><td>② HTTP アクセス</td><td>チェックをすると選択したアクセスポイントの WAN（インターネット）側からの HTTP アクセスを許可します。</td></tr>
<tr><td>③ HTTP アクセスを許可するホスト</td><td>・すべて：インターネット側から本製品へすべての機器でアクセスが可能になります。
・任意：インターネット側から本製品へ任意の機器のみアクセスが可能になります。</td></tr>
<tr><td>④ ホスト 1 ～ 3 IP アドレス
（「HTTP アクセスを許可するホスト」で「任意」を選択した場合のみ）</td><td>アクセスを許可する機器の IP アドレスとサブネットマスクを入力します。
＜設定例 1 ＞
<table>
<tr><td>IP アドレス</td><td>192.168.2.1</td></tr>
<tr><td>サブネットマスク</td><td>255.255.255.0</td></tr>
</table>
192.168.2.1 ～ 192.168.2.254 の同一セグメントの IP アドレスを持つ端末からアクセスが可能になります。
＜設定例 2 ＞
<table>
<tr><td>IP アドレス</td><td>192.168.2.1</td></tr>
<tr><td>サブネットマスク</td><td>255.255.255.255</td></tr>
</table>
192.168.2.1 の IP アドレスを持つ端末のみアクセスが可能になります。</td></tr>
</table>

10 SNMP アクセス設定 ルーターモード

本ソフトウェアに登録されたルーターモードで動作しているアクセスポイントの SNMP アクセス設定を行います。
設定を行うアクセスポイントを選択し、右クリックでメニューを表示します。
表示されたメニュー内の「ルーター設定」→「SNMP アクセス設定」をクリックします。



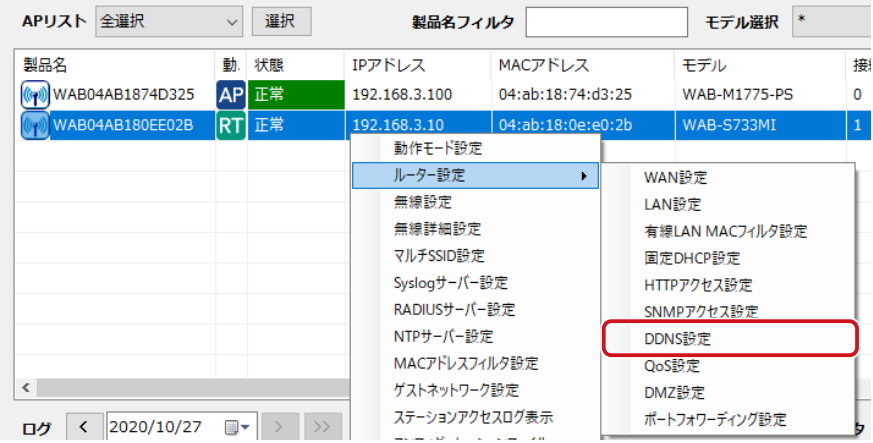


<table>
<tr><th>項目</th><th>詳細</th></tr>
<tr><td>① SNMP アクセス設定対象 AP 選択</td><td>選択したアクセスポイントがリストで表示されます。設定するアクセスポイントにチェックを入れてください。</td></tr>
<tr><td>② SNMP アクセス</td><td>チェックをすると選択したアクセスポイントの WAN（インターネット）側からの SNMP アクセスを許可します。</td></tr>
<tr><td>③ SNMP アクセスを許可するホスト</td><td>「すべて」インターネット側から選択したアクセスポイントのへすべての機器でアクセスが可能になります。
「任意」インタネット側から選択したアクセスポイントへ任意の機器のみアクセスが可能になります。</td></tr>
<tr><td>④ ホスト IP アドレス
（「SNNP アクセスを許可するホスト」で「任意」を選択した場合のみ）</td><td>アクセスを許可する機器の IP アドレスとサブネットマスクを入力します。
＜設定例 1 ＞
<table>
<tr><td>IP アドレス</td><td>192.168.2.1</td></tr>
<tr><td>サブネットマスク</td><td>255.255.255.0</td></tr>
</table>
192.168.2.1 ～ 192.168.2.254 の同一セグメントの IP アドレスを持つ端末からアクセスが可能になります。
＜設定例 2 ＞
<table>
<tr><td>IP アドレス</td><td>192.168.2.1</td></tr>
<tr><td>サブネットマスク</td><td>255.255.255.255</td></tr>
</table>
192.168.2.1 の IP アドレスを持つ端末のみアクセスが可能になります。</td></tr>
</table>

11 DDNS 設定

ルーターモード

本ソフトウェアに登録されたルーターモードで動作しているアクセスポイントの DDNS 設定を行います。
設定を行うアクセスポイントを選択し、右クリックでメニューを表示します。
表示されたメニュー内の「ルーター設定」→「DDNS 設定」をクリックします。



DDNS（ダイナミック DNS）を利用すると、WAN 側が固定 IP アドレスでなくても、ホスト名を使ってサーバーなどを利用できるようになります。この機能を利用するには、ダイナミック DNS のサービス提供者に登録する必要があります。
ダイナミック DNS はサービスプロバイダリストに表示されるサービスでご利用いただけます。

●あらかじめ DDNS サービスに登録してください。

DDNS サイトにアクセスしてユーザー登録し、ドメイン名やアカウントなどを取得しておいてください。

● DDNS サービスを利用するにあたって

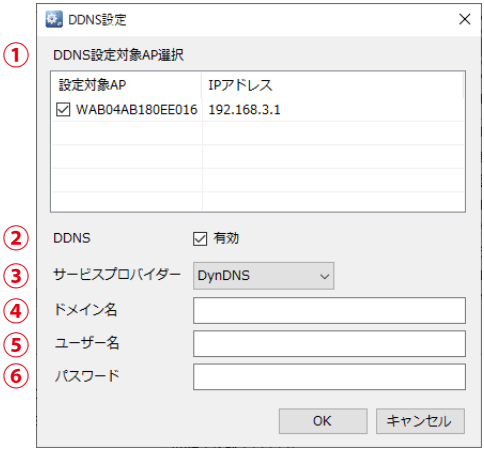
他社 DDNS サービスへの登録については、弊社のサポート対象外となります。登録に関しては、一切責任を負いかねます。

・SkyLink DDNS とは、対象のエレコムまたはロジテック製品をユーザー登録してご利用いただいている方に無償で提供されるダイナミック DNS サービスです。
SkyLink DDNS への登録については、下記 URL で詳細をご確認のうえ、ご利用ください。
http://www.clear-net.jp/

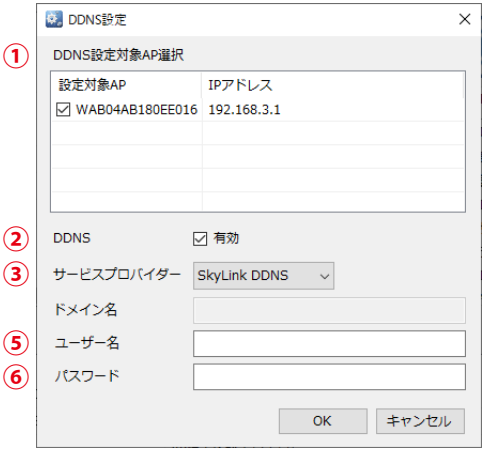
・DDNS サービスによっては、定期的に更新をしないと登録が削除されてしまうことがあります。登録の更新は、本製品がインターネットに接続されているときに自動的に行われるほか、手動で更新する場合があります。更新時期などの詳細はご利用になる DDNS サイトをご覧ください。

・DDNS サービスを使用する場合、本製品の WAN 側の IP アドレスにプロバイダーからのグローバル IP が割り当てられている状態でご利用ください。

■ DynDNS を選択した場合



■ SkyLink DDNS を選択した場合



項目	詳細
① DDNS 設定対象 AP 選択	選択したアクセスポイントがリストで表示されます。設定するアクセスポイントにチェックを入れてください。
② DDNS	ダイナミック DNS 機能の有効／無効を設定します。(初期値:無効)
③ サービスプロバイダー	リストからサービスを選択します。 「SkyLinkDDNS」または「Dyn DNS」が選択可能です。
④ ドメイン名 (「サービスプロバイダー」で「DynDNS」を選択した場合のみ)	登録したドメイン名を入力します。
⑤ ユーザー名	登録したアカウントを入力します。DDNS サービスによってはアカウントが E メールアドレスの場合があります。
⑥ パスワード	設定したパスワードを入力します。

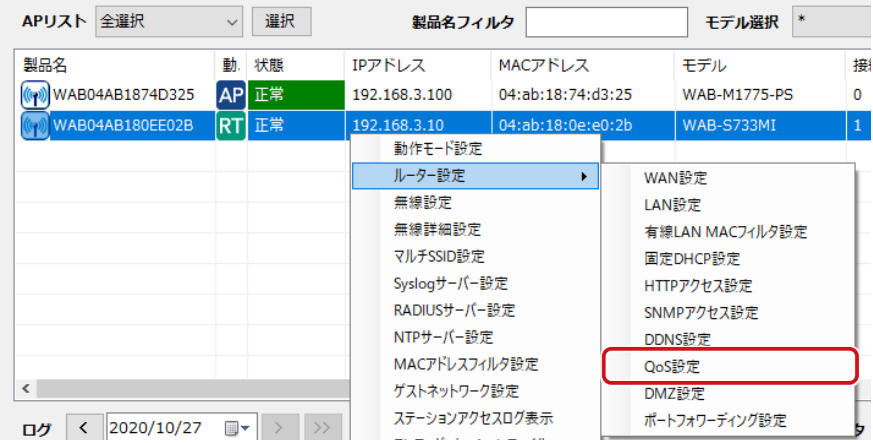
12 QoS 設定

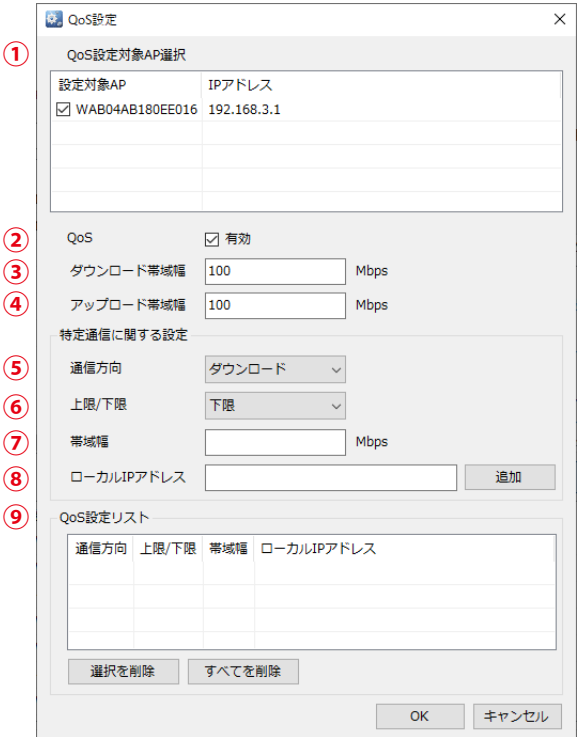
ルーターモード

本ソフトウェアに登録されたルーターモードで動作しているアクセスポイントの QoS 設定を行います。

設定を行うアクセスポイントを選択し、右クリックでメニューを表示します。

表示されたメニュー内の「ルーター設定」→「QoS 設定」をクリックします。



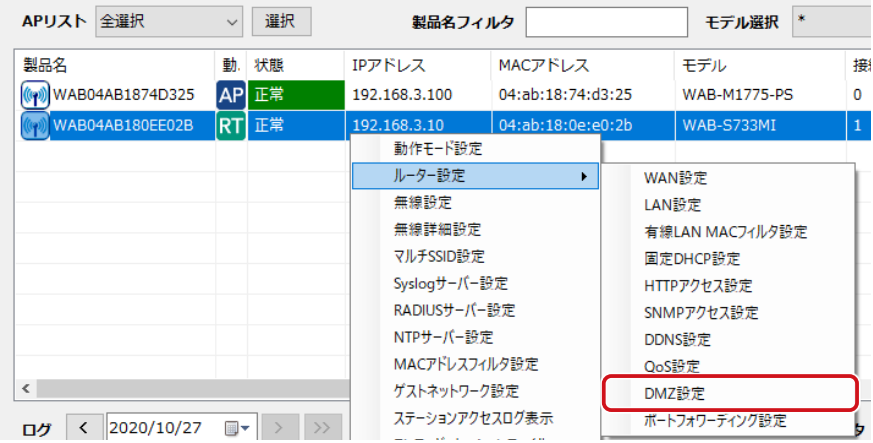


項目	詳細
① QoS 設定対象 AP 選択	選択したアクセスポイントがリストで表示されます。設定するアクセスポイントにチェックを入れてください。
② QoS	QoS 設定の有効／無効を選択します。（初期値：無効）
③ ダウンロード帯域幅	ダウンロードで確保する全体の帯域幅を選択します。（初期値：100Mbps）
④ アップロード帯域幅	アップロードで確保する全体の帯域幅を選択します。（初期値：100Mbps）
⑤ 通信方向	通信方向を選択します。（ダウンロード／アップロード／両方）（初期値：ダウンロード）
⑥ 上限 / 下限	最大帯域（上限）か、最低帯域保証（下限）かの設定をします。（初期値：下限）
⑦ 帯域幅	通信で確保する帯域幅を選択します。
⑧ ローカル IP アドレス	この帯域を適用する端末の IP アドレスを入力します。
⑨ QoS 設定リスト	QoS 設定したクライアントのリストが表示されます。 リストから削除したい場合は対象をチェック後、「選択を削除」または「すべてを削除」をクリックします。

13 DMZ 設定

ルーターモード

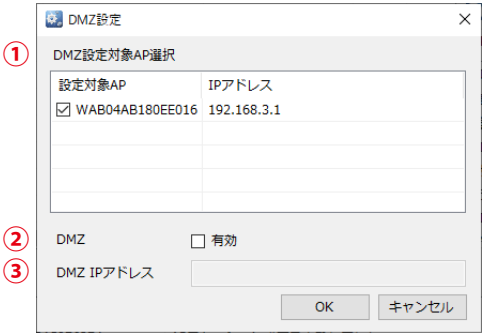
本ソフトウェアに登録されたルーターモードで動作しているアクセスポイントの DMZ 設定を行います。
設定を行うアクセスポイントを選択し、右クリックでメニューを表示します。
表示されたメニュー内の「ルーター設定」→「DMZ 設定」をクリックします。



注意 設定を行う前に、接続先の端末がセキュリティ設定済みであるか、確認してください。

注意 この機能を利用する場合で選択したアクセスポイントの DHCP サーバー機能を有効にしているときは、「8 固定 DHCP 設定（→ P55）」で、DMZ 設定の対象となるクライアントの IP アドレスを固定するようにしてください。
DHCP サーバー機能により動的に IP アドレスが変更されると、意図しない機器が WAN 側に開放される恐れがあります。

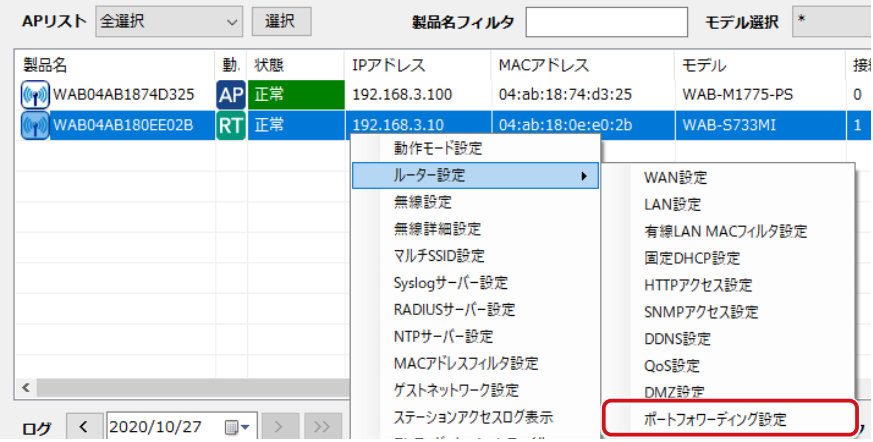
注意 DMZ 設定を有効にすると、WAN 側から WAB-MAT によるアクセスポイントへの通信が正しく行えない状態になります。
設定の際はご注意ください。



項目	詳細
① DMZ 設定対象 AP 選択	選択したアクセスポイントがリストで表示されます。設定するアクセスポイントにチェックを入れてください。
② DMZ	DMZ 機能の有効 / 無効を設定します。（初期値：無効）
③ DMZ IP アドレス	インターネット（外部）に公開する LAN 側に存在するクライアントの IP アドレスを入力します。「.」で区切る必要があります。 例 192.168.2.131

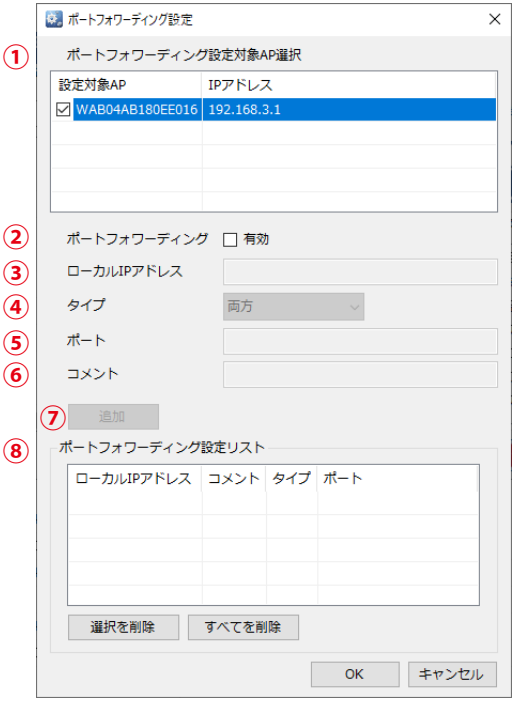
14 ポートフォワーディング設定 ルーターモード

本ソフトウェアに登録されたルーターモードで動作しているアクセスポイントのポートフォワーディング設定を行います。
設定を行うアクセスポイントを選択し、右クリックでメニューを表示します。
表示されたメニュー内の「ルーター設定」→「ポートフォワーディング設定」をクリックします。



注意 この機能を利用する場合で選択したアクセスポイントの DHCP サーバー機能を有効にしているときは、「8 固定 DHCP 設定（→ P55）」で、ポートフォワーディングの対象となるクライアントの IP アドレスを固定するようにしてください。
DHCP サーバー機能により動的に IP アドレスが変更されると、意図しない機器が WAN 側に開放される恐れがあります。

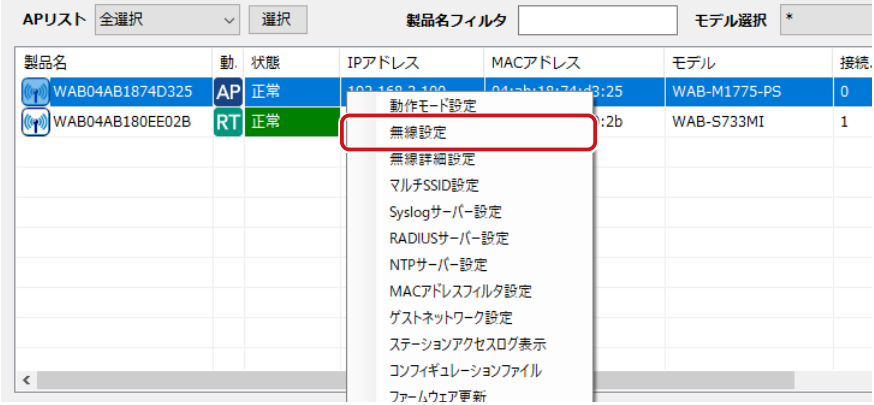
注意 SNMP のポート（161）をポートフォワーディング設定すると、WAN 側から WAB-MAT によるアクセスポイントへの通信が正しく行えない状態になります。
設定の際はご注意ください。



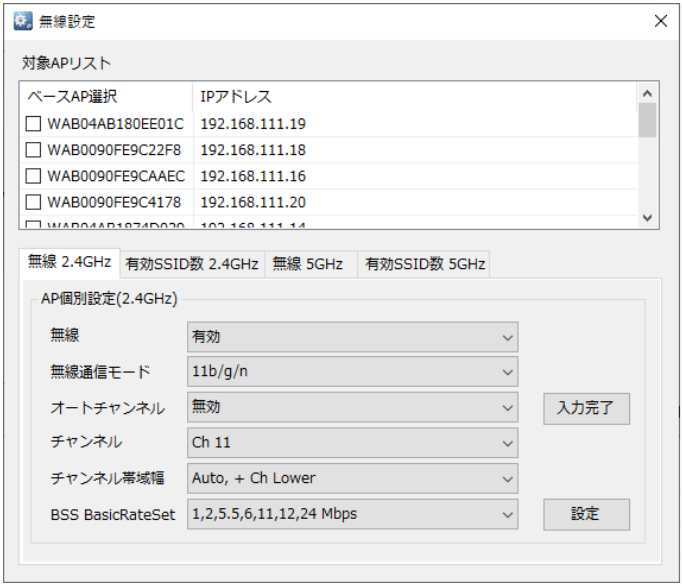
項目	詳細
① ポートフォワーディング設定対象 AP 選択	選択したアクセスポイントがリストで表示されます。設定するアクセスポイントにチェックを入れてください。
② ポートフォワーディング	ポートフォワーディング機能の有効 / 無効を設定します。（初期値：無効）
③ ローカル IP アドレス	ポートフォワーディングの対象となるクライアントの IP アドレスを入力します。
④ タイプ	プロトコルのタイプを設定します。タイプは「両方」、「TCP」、「UDP」から選択します。（初期値：両方）
⑤ ポート	インターネット側から見た送信先のポート番号（1-65535）を入力します。ポート番号の範囲指定は行えません。
⑥ コメント	自由にコメントを入力できます。登録したクライアントを区別するのに便利です。半角英数字で入力してください。
⑦ 追加	設定した内容を確定し、リストに追加します。
⑧ ポートフォワーディング設定リスト	入力画面で設定した内容をリストとして表示します。 QoS 設定したクライアントのリストが表示されます。 リストから削除したい場合は対象をチェック後、「選択を削除」または「すべてを削除」をクリックします。

15 無線設定

本ソフトウェアに登録されたアクセスポイントの SSID を設定します。
AP リストから SSID の設定が必要となるアクセスポイントを選択し、右クリックでメニューを表示します。
表示されたメニュー内の「無線設定」をクリックします。



アクセスポイントを設定する「無線設定」画面が表示されます。

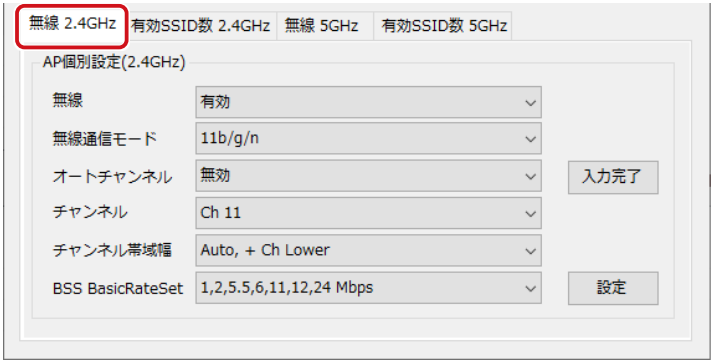


1 対象 AP リスト

アクセスポイントを選択すると、そのアクセスポイントをベースとして設定することができます。
編集後、「設定」をクリックすると、リストに表示されているすべてのアクセスポイントに設定が反映されます。

2 無線 2.4GHz

2.4GHz 帯無線 LAN の設定を行います。



項目	説明
無線	無線 LAN 機能の「有効」または「無効」を設定します。（初期値：無効） 無線通信を有効にするには、「有効」に設定します。
無線モード	無線通信モードを次の中から選択します。無線 LAN の帯域によって設定できる項目が異なります。 11b：IEEE802.11b 規格だけを使用します。 11g：IEEE802.11g 規格だけを使用します。 11b/g：IEEE802.11b 規格と IEEE802.11g 規格を使用します。 11g/n：IEEE802.11g 規格と IEEE802.11n 規格を使用します。 11b/g/n：IEEE802.11b 規格、IEEE802.11g 規格、IEEE802.11n 規格を使用します。 11b/g/n/ax：IEEE802.11b 規格、IEEE802.11g 規格、IEEE802.11n 規格、IEEE802.11ax（draft）規格を使用します。※1
オートチャンネル	オートチャンネル機能の「有効」または「無効」を設定します。 「有効」に設定すると空きチャンネルを自動検出します。
チャンネル	**■オートチャンネル　有効時：** 使用する周波数帯を「Ch1 - 11」または「Ch1 - 13」から選択します。※2 **■オートチャンネル　無効時：** 使用する周波数帯を「Ch1」～「Ch13」から選択します。
チャンネル帯域幅※2	帯域幅を選択します。選択項目は、上部設定項目で異なります。
BBS Basic Rate Set※2	アクセスポイントと無線機器の管理・制御通信フレームの通信速度を次の中から選択します。 「1,2 Mbps」、「1,2,5.5,11 Mbps」、「1,2,5.5,6,11,12,24 Mbps」、「all」

※ 1：IEEE802.11ax に対応していない機種ではご利用いただけません。
※ 2：WAB-S300P/S1167P では、本項目の設定はサポートしておりません。

3 有効 SSID 数 2.4GHz

項目	説明
有効 SSID 数	各アクセスポイントで有効にする SSID 数を設定します。設定できる SSID 数は製品により異なります。 **各 SSID への設定は、「マルチ SSID 設定」メニューより設定してください。**

4 無線 5GHz

5GHz 帯無線 LAN の設定を行います。

項目	説明
無線	無線 LAN 機能の「有効」または「無効」を設定します。（初期値：無効） 無線通信を有効にするには、**「有効」**に設定します。
無線モード	無線通信モードを次の中から選択します。無線 LAN の帯域によって設定できる項目が異なります。 11a：IEEE802.11a 規格だけを使用します。 11a/n：IEEE802.11a 規格と IEEE802.11n 規格を使用します。 11n/a/ac：IEEE802.11n 規格、IEEE802.11a 規格、IEEE802.11ac 規格を使用します。※1 11a/n/ac/ax：IEEE802.11a 規格、IEEE802.11n 規格、IEEE802.11ac 規格、IEEE802.11ax（draft）規格を使用します。※2
オートチャンネル	オートチャンネル機能の「有効」または「無効」を設定します。 「有効」に設定すると空きチャンネルを自動検出します。

項目	説明
チャンネル	オートチャンネルで使用する周波数帯を次の中から選択します。 **■オートチャンネル　有効時** 「W52」、「W52+W53」、「W52+W53+W56」※3 ・W52：36/40/44/48ch ・W53：52/56/60/64ch ・W56：100/104/108/112/116/120/124/128/132/136/140ch **■オートチャンネル　無効時：** 使用する周波数帯を選択します。
チャンネル帯域幅※3	帯域幅を選択します。選択項目は、上部設定項目で異なります。
BBS Basic Rate Set ※3	アクセスポイントと無線機器の管理・制御通信フレームの通信速度を次の中から選択します。 「6,12,24 Mbps」、「all」
有効 SSID 数設定	各アクセスポイントで有効にする SSID 数を設定します。設定できる SSID 数は製品により異なります。

※ 1：IEEE802.11ac に対応していない機種ではご利用いただけません。

※ 2：IEEE802.11ax に対応していない機種ではご利用いただけません。

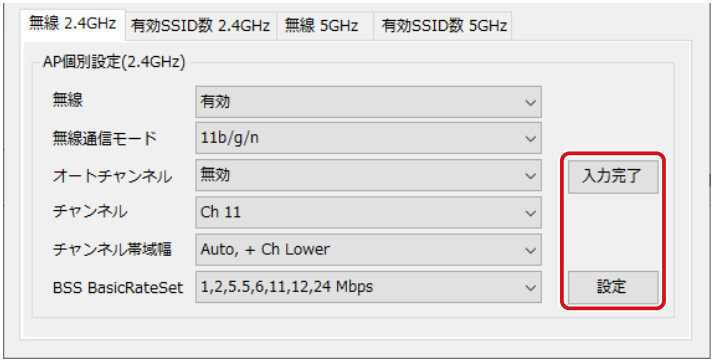
※ 3：WAB-S300P/S1167P では、本項目の設定はサポートしておりません。

5 有効 SSID 数 5GHz

項目	説明
有効 SSID 数	各アクセスポイントで有効にする SSID 数を設定します。設定できる SSID 数は製品により異なります。 **各 SSID への設定は、「マルチ SSID 設定」メニューより設定してください。**

6 設定送信

編集が完了したら「入力完了」ボタンをクリックし、「設定」をクリックします。



無線設定の確認画面が表示されますので、確認の上「OK」をクリックします。

対象のアクセスポイントに再起動します。設定完了画面が表示されるまでお待ちください。

15-1　無線設定

本ソフトウェアに登録されたアクセスポイントの無線設定を行います。

1 AP 個別設定：　無線

「無線設定」画面内の「無線」が「有効」になっているかご確認ください。

2 AP 個別設定：　無線通信各種設定

「無線設定」画面内の無線通信に関する各種設定が適切かご確認ください。

設定後は必ず「入力完了」をクリック！！

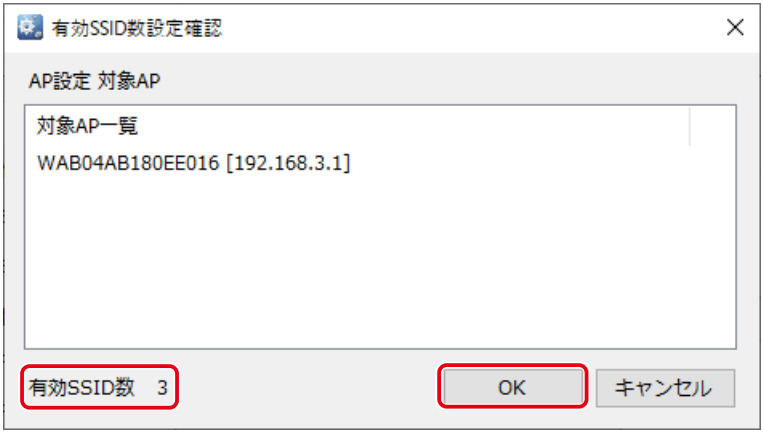
「入力完了」をクリックしないと、設定が完全に反映されません。

- 無線通信の各種設定が変更できなくなります
- 「編集」ボタンをクリックすると、「入力完了」前の状態に戻ります

3 AP 個別設定： 有効 SSID 数選択

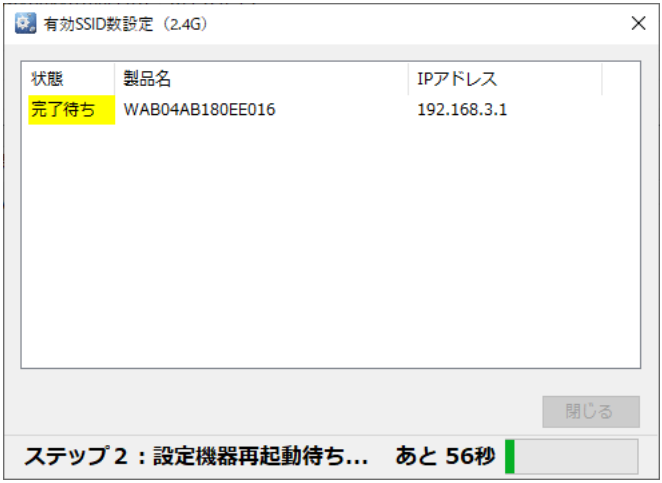
「無線設定」画面内の「有効 SSID 数設定」で利用したい SSID 数を選択してください。

有効 SSID 数設定の確認画面が表示されますので、確認の上「OK」をクリックします。

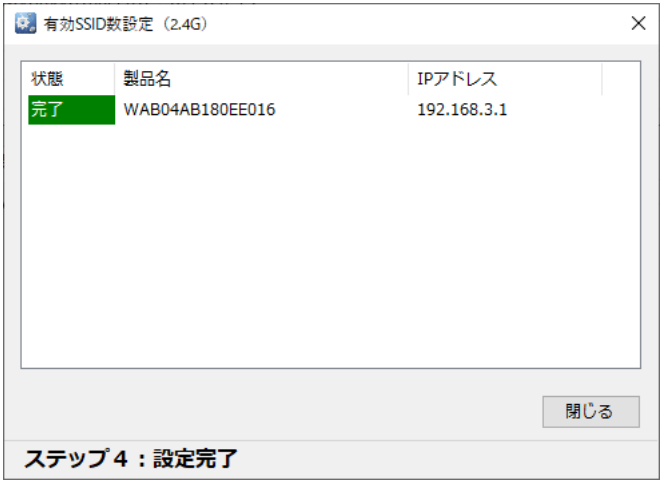


4 **AP 個別設定：　有効 SSID 数設定反映**

有効 SSID 数の設定変更を実施します。設定変更を実施している場合は下記の画面が表示されます。

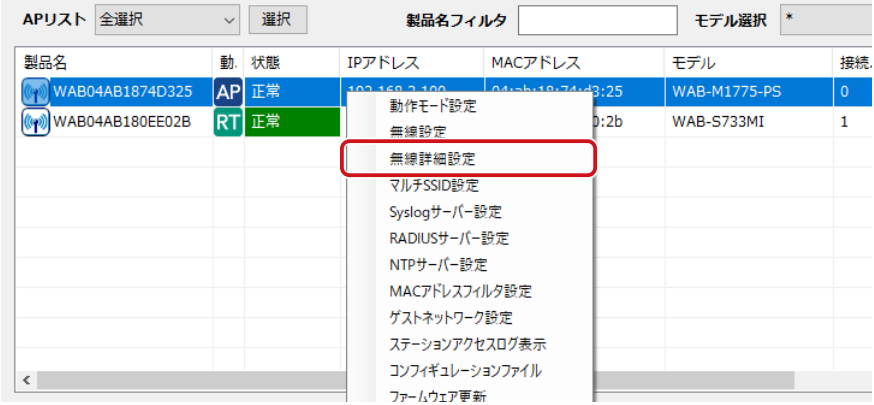


完了すると下記の画面が表示されます。

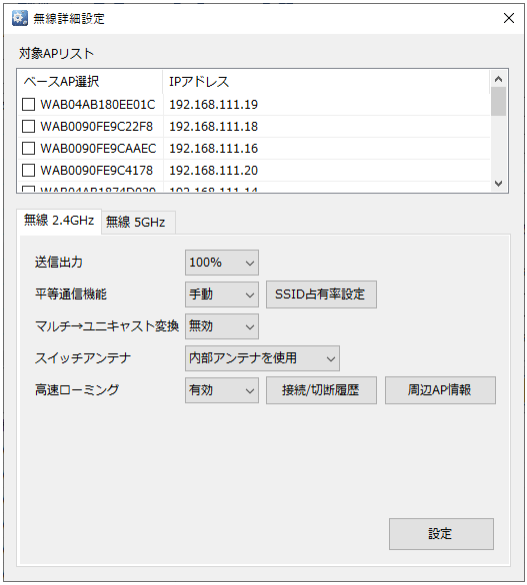


16 無線詳細設定

本ソフトウェアに登録されたアクセスポイントの SSID の詳細設定を行います。
AP リストから SSID の詳細設定が必要となるアクセスポイントを選択し、右クリックでメニューを表示します。
表示されたメニュー内の「無線詳細設定」をクリックします。



アクセスポイントを設定する「無線詳細設定」画面が表示されます。



1 対象 AP リスト

アクセスポイントを選択すると、そのアクセスポイントをベースとして設定することができます。
編集後、「設定」をクリックすると、リストに表示されているすべてのアクセスポイントに設定が反映されます。

2 無線詳細設定

無線 LAN の詳細設定を行います。

<table>
<tr><th>項目</th><th>説明</th></tr>
<tr><td>送信出力</td><td>送信出力を以下の中から選択します。
10%, 25%, 50%, 75%, 90%, 100%
送信出力が無効の場合は、0% と表示され、設定できません。</td></tr>
<tr><td>平等通信機能</td><td>接続した端末間の通信時間（AirTime）を平等化して、端末ごとの通信のバラツキを改善する機能です。（初期値：自動）
<table>
<tr><td>自動</td><td>各 SSID が SSID 数で等分した通信時間を占有できます。
各 SSID に接続された端末は、SSID ごとの通信時間を同一 SSID 接続数で等分された通信時間を占有可能です。
例 1：SSID が 1 つだけ有効、端末が 5 台の場合
SSID が 1 つだけのため、SSID1 が 100% 通信時間を占有できます。
接続した端末はそれぞれ 20% ずつ通信時間を占有できます。
例 2：SSID が 4 つ有効、SSID1 と 2 に 2 台、SSID3 と 4 に 5 台の端末の場合
SSID1 ～ 4 はそれぞれ 25% の通信時間を占有できます。
SSID1 と 2 の端末は 12.5% ずつ、SSID3 と 4 の端末は 5% ずつ通信時間の占有が可能になります。</td></tr>
<tr><td>手動</td><td>各 SSID が利用できる通信時間を設定可能です。「SSID 占有率設定」ボタンをクリックすると、SSID ごとの占有率を指定できます。
SSID に接続された端末は、SSID ごとの占有率を同一 SSID 接続数で等分された通信時間を占有可能です。
複数の SSID を有効にする場合、必ず「SSID 占有率設定」を設定してください。</td></tr>
<tr><td>無効</td><td>平等通信機能を使用しません。端末により、通信時間の差が出ることで、通信のバラツキが発生する可能性が高くなります。</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>マルチ→ユニキャスト変換</td><td>有効の場合、有線ポートからのマルチキャストパケットを、ユニキャストパケットに変換してクライアントに届けます。
マルチキャストパケットによる帯域不足が起きる場合、有効にすることで改善される場合があります。（初期値：無効）</td></tr>
<tr><td>スイッチアンテナ※</td><td>使用するアンテナを選択します。（初期値：内部アンテナを使用）</td></tr>
<tr><td>高速ローミング</td><td>高速ローミング有効・無効を選択します。
「接続 / 切断履歴」をクリックすると、接続切断履歴画面が表示されます。</td></tr>
</table>

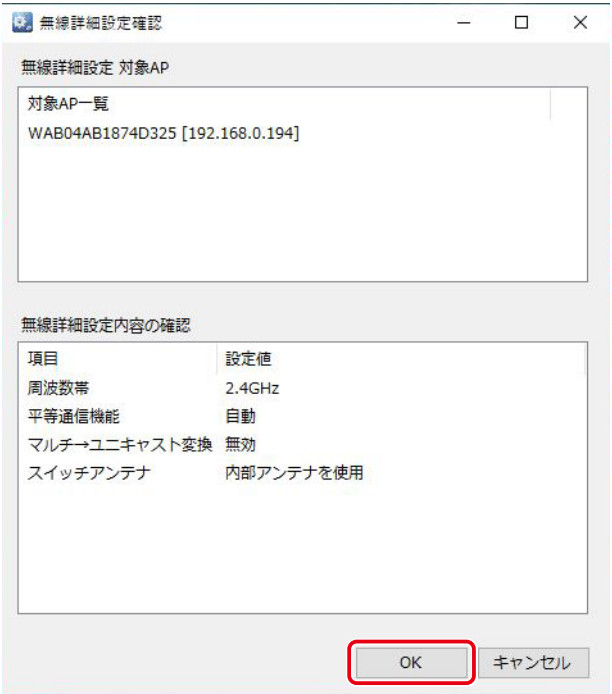
※ WAB-M1775-PS のみ対応。外部アンテナを使用する場合は別売のアンテナが必要です。（型番：WAB-EX-ANT1）

編集が完了したら、「設定」をクリックします。

注意

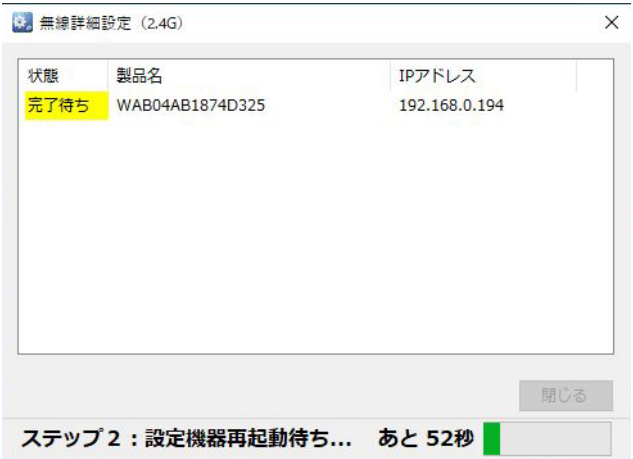
災害モードが起動しているときは、平等通信の設定を変更できません。

無線詳細設定の確認画面が表示されますので、確認の上「OK」をクリックします。

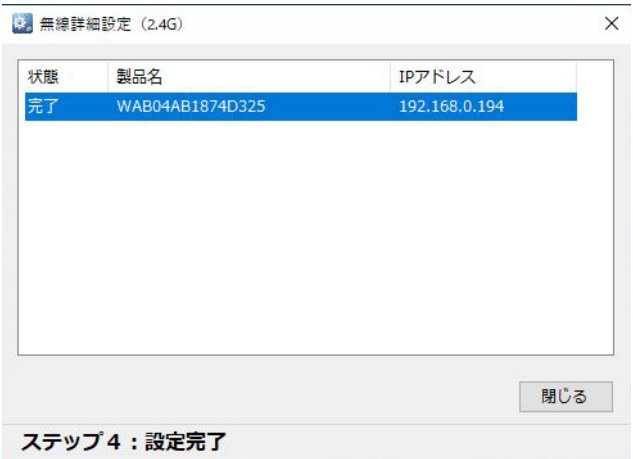


3 無線詳細設定反映

無線詳細設定変更を実施します。設定変更を実施している場合は下記の画面が表示されます。



完了すると下記の画面が表示されます。

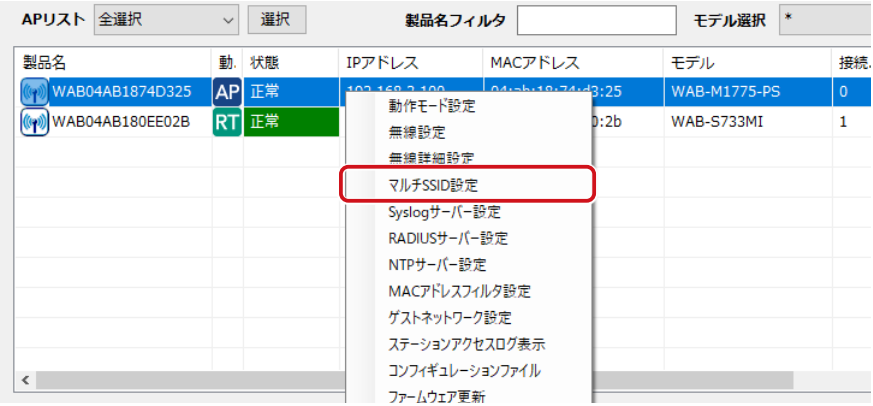


17 マルチ SSID 設定画面

SSID の暗号タイプや認証設定を設定します。

AP リストからアクセスポイントを選択し、右クリックでメニューを表示します。

表示されたメニュー内の「マルチ SSID 設定」をクリックします。

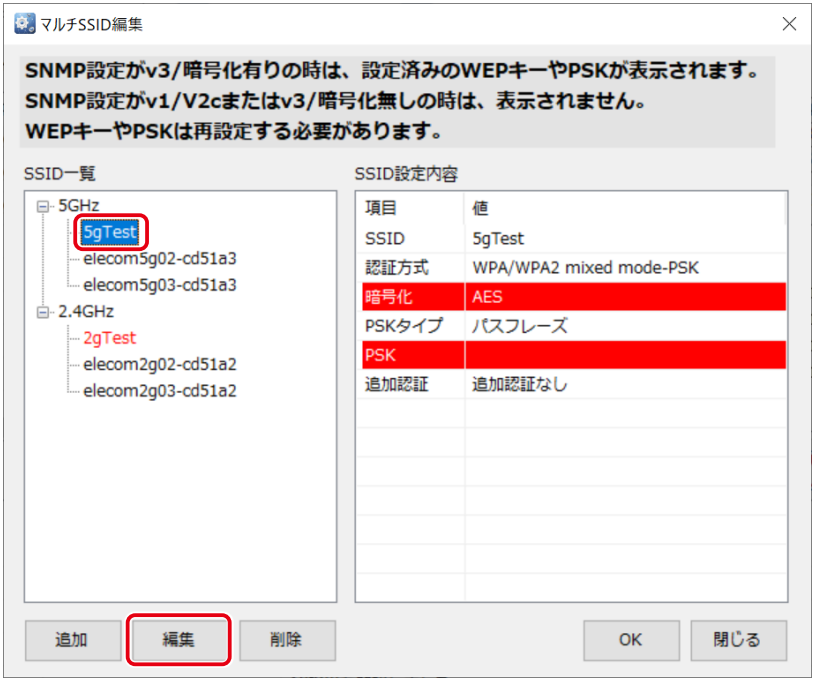


1 マルチ SSID 選択

「マルチ SSID 選択」画面で設定する端末を選択し「SSID 編集」ボタンをクリックします。

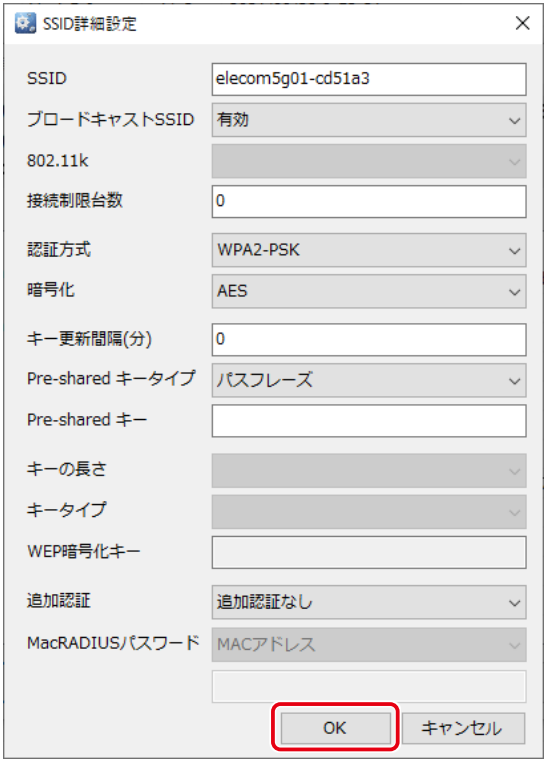
2 マルチ SSID 編集

「マルチ SSID 編集」画面で、編集したい SSID を選択し「編集」をクリックします。



3 SSID 詳細設定

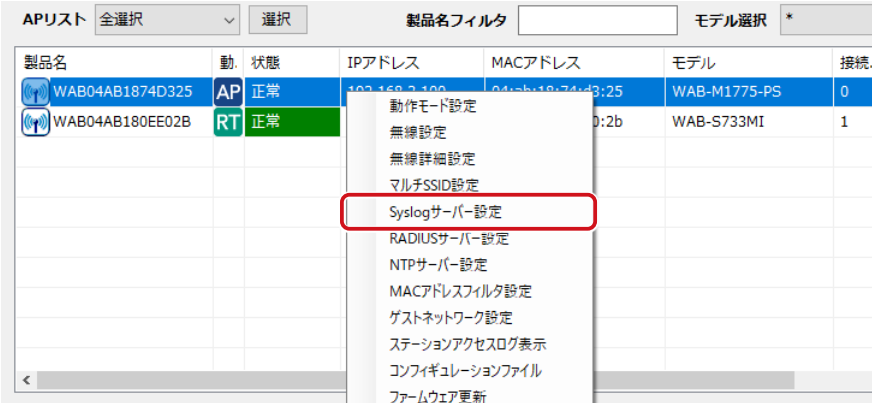
SSID 詳細設定画面で、認証方式や暗号化などの情報を設定し「OK」をクリックします。



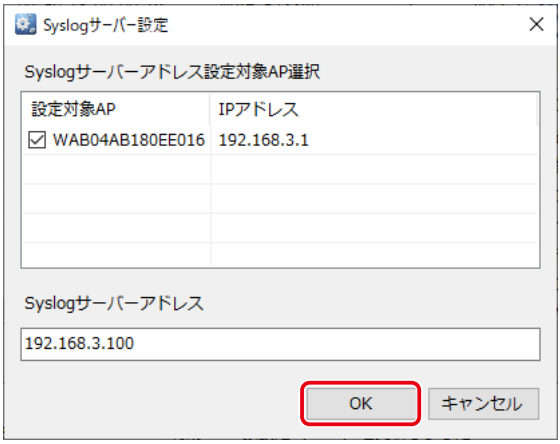
選択したアクセスポイントが SNMP v3・暗号化ありの場合のみ、設定されている Pre Shared キーが表示されます。
それ以外の場合はセキュリティを考慮して、AP から Pre Shared キーの取得が行えず、WAB-MAT 上にも表示されないため、再入力して設定が必要です。

18 Syslog サーバー設定

AP リストから Syslog サーバー設定が必要となるアクセスポイントを選択し、右クリックでメニューを表示します。
表示されたメニュー内の「Syslog サーバー設定」をクリックします。



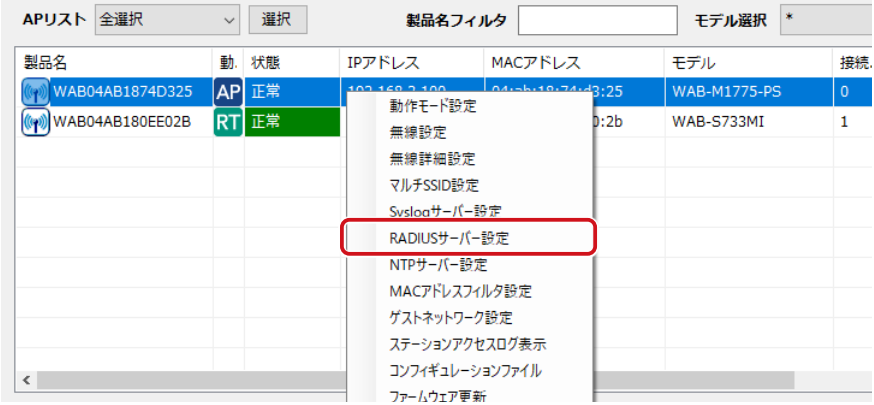
Syslog サーバー設定画面が表示されます。設定した IP アドレスの PC に Syslog 情報が転送されます。Syslog 情報を受信し、ログ情報を表示したい場合に指定します。複数のアクセスポイントを一度に設定することもできます。



Syslog サーバーアドレスを指定して、「OK」ボタンをクリックします。

19 RADIUS サーバー設定

本ソフトウェアを登録されたアクセスポイントの RADIUS サーバーへの接続を設定します。
AP リストから RADIUS サーバー設定が必要となるアクセスポイントを選択し、右クリックでメニューを表示します。
表示されたメニューから「RADIUS サーバー設定」をクリックします。



注意

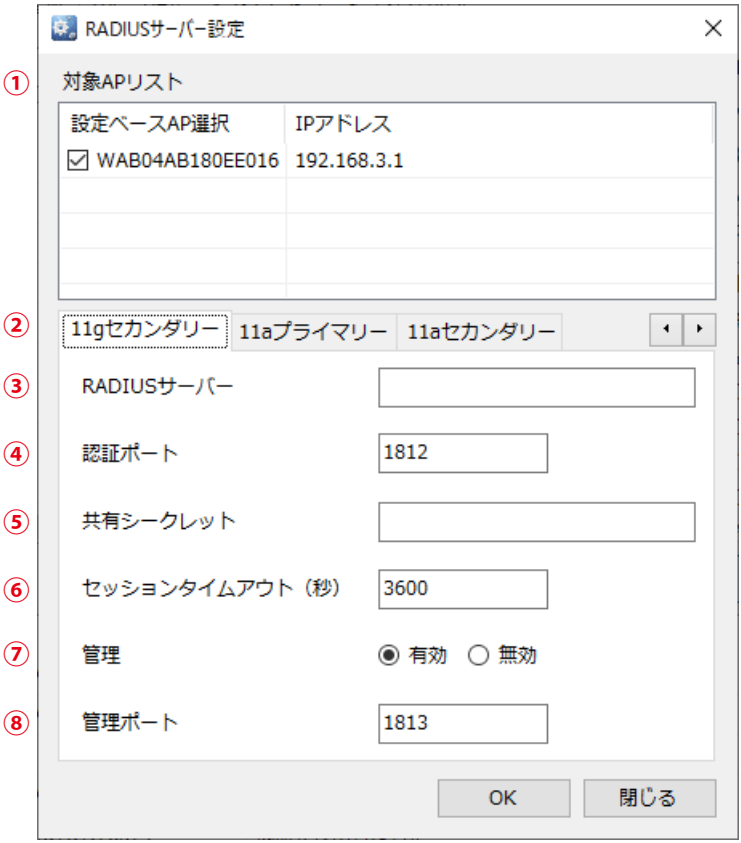
以下のアクセスポイントでは、RADIUS サーバーの設定はサポートしていない機能のため、設定できません。

- WAB-S1167P/S300P
- WAB-S733/300IW シリーズ
- WAB-S733MI

注意

WAB-M2133、WAB-M1775-PS の内部 RADIUS 機能の設定は、サポートしていません。

RADIUS サーバー設定では、無線機器の認証などで使用する RADIUS サーバーを設定します。2.4GHz 帯と 5GHz 帯で各 2 台（プライマリー、セカンダリー）の RADIUS サーバーを登録できます。
セカンダリーの RADIUS サーバーは、プライマリーのサーバーの障害時に自動的に切り替えて使用されます。



1 対象 AP リスト

本ソフトウェアに登録されているアクセスポイントが、一覧表示されます。RADIUS サーバー設定の対象となるアクセスポイントにチェックすることで設定することができます。

2 サーバー選択タブ

RADIUS サーバー設定は、11g 向けのプライマリーとセカンダリー、11a 向けのプライマリーとセカンダリーの 4 種類の設定が可能です。該当する RADIUS サーバーのタブを選択し設定します。

3 RADIUS サーバー

認証に使用する RADIUS サーバーの IP アドレスを設定します。

4 認証ポート

RADIUS プロトコルが使用する UDP ポート番号を設定します （初期値：1812）。

5 共有シークレット

認証に仕様する RADIUS サーバーの IP アドレスを設定します。

6 セッションタイムアウト

無線機器とのセッション時間の設定を 0 ～ 86400（秒）の範囲で設定します。（初期値：3600 秒）設定値が 0 の場合、セッションタイムアウトはありません。RADIUS サーバー側のセッションタイムアウトが、アクセスポイント側の設定より優先されます。

7 管理

管理機能の「有効」または「無効」を設定します。

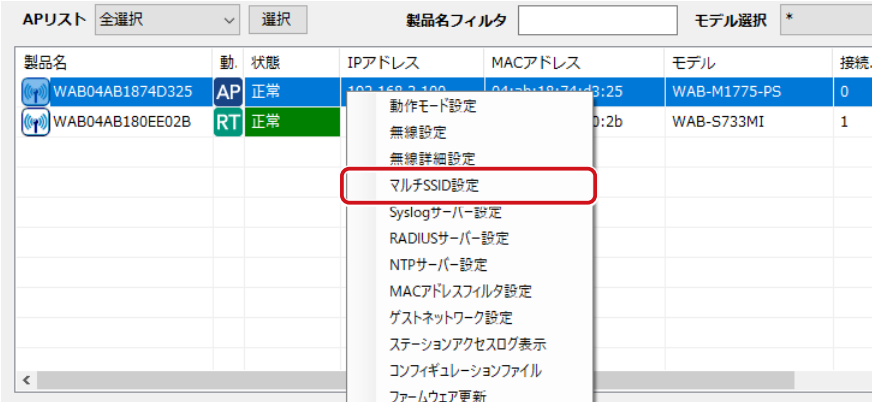
8 管理ポート

管理ポートとして使用するポート番号を設定します。

19-1 MAC RADIUS 認証設定

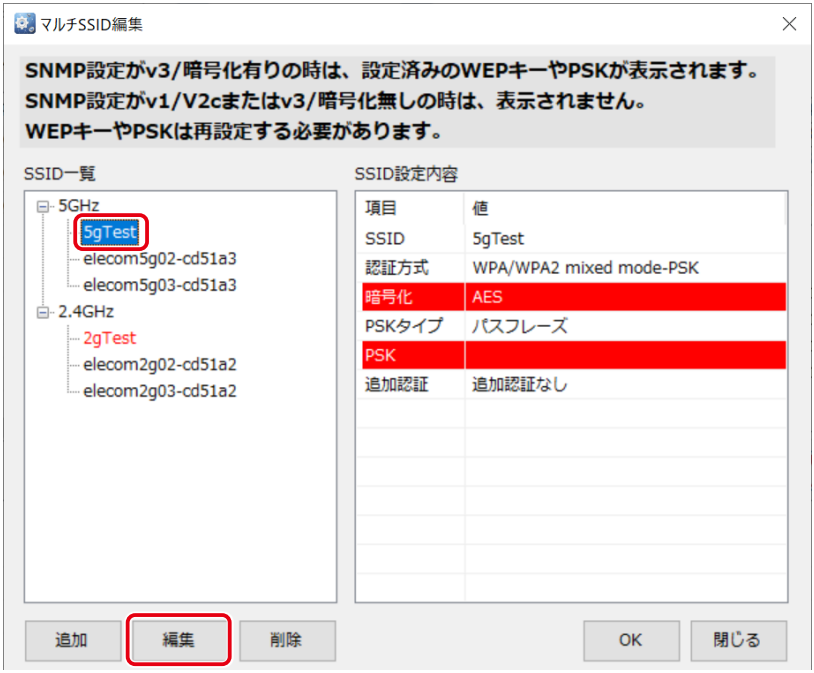
本ソフトウェアを登録されたアクセスポイントの MAC RADIUS サーバーへの接続を設定します。

AP リストから設定対象のアクセスポイントを選択し、右クリックでメニューを表示します。表示されたメニュー内の「マルチ SSID 設定」をクリックします。



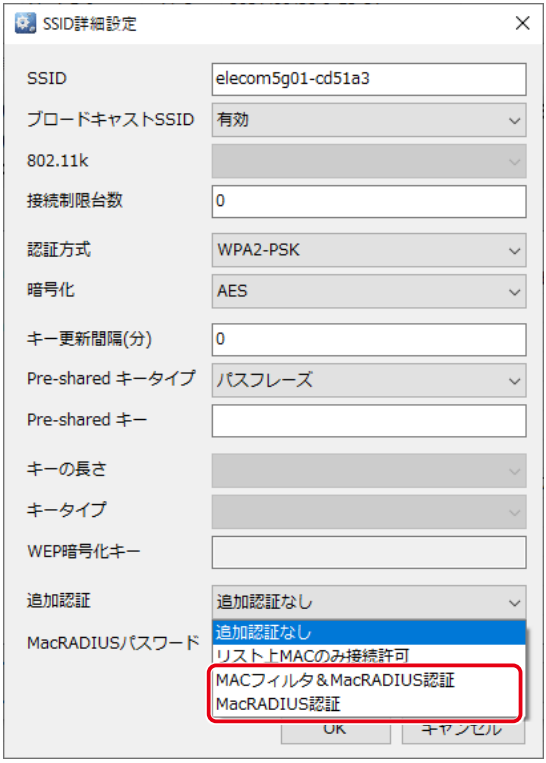
1 マルチ SSID 編集

マルチ SSID 編集画面にて、編集したい SSID を選択し、「編集」をクリックします。



2 追加認証の設定

SSID 詳細設定画面にて、追加認証項目で「MAC フィルタ & Mac RADIUS 認証」、または「Mac RADIUS 認証」を選択します。



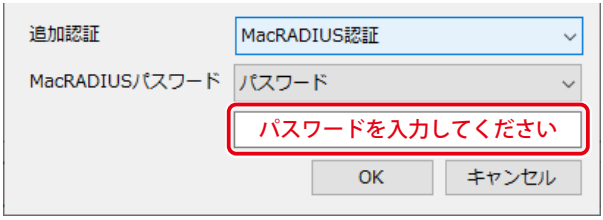
3 Mac RADIUS サーバーの認証方法の設定

Mac RADIUS サーバーの認証方法を「MAC アドレス」で認証するか、「パスワード」で認証するか選択します。

注意 認証方式が「WPA2-EAP」、「WPA/WPA2-EAP mixed Mode-EAP」の時は、MacRADIUS 認証は使用できません。

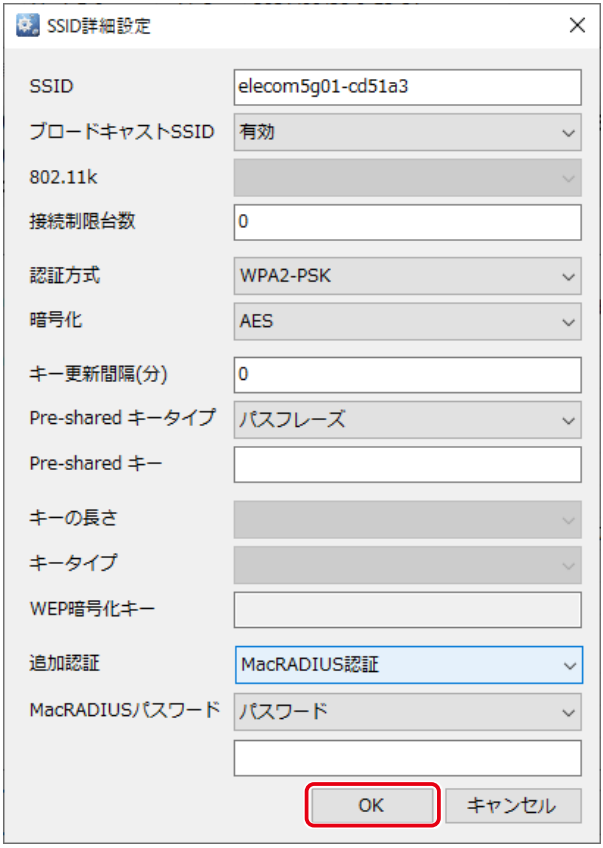
4 パスワードの設定

Mac RADIUS サーバーの認証方法を「パスワード」に選択した場合のみ、パスワードを入力欄に登録してください。



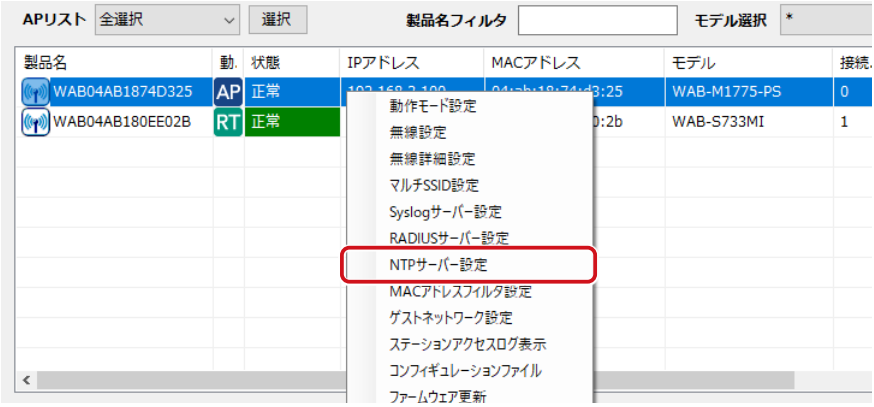
5 Mac RADIUS 認証の設定完了

Mac RADIUS サーバーの設定登録が完了しましたら「OK」をクリックしてください。



20 NTP サーバー設定

AP リストから NTP サーバー設定が必要となるアクセスポイントを選択し、右クリックでメニューを表示します。
表示されたメニュー内の「NTP サーバー設定」をクリックします。

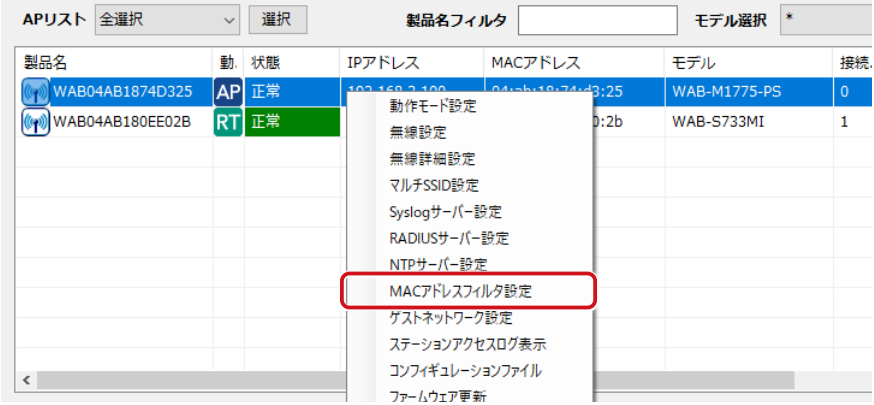


NTP サーバー設定画面が表示されます。この画面で NTP サーバー設定を複数のアクセスポイントを一度に設定することもできます。

NTP サーバーアドレスを指定して、「OK」ボタンをクリックします。

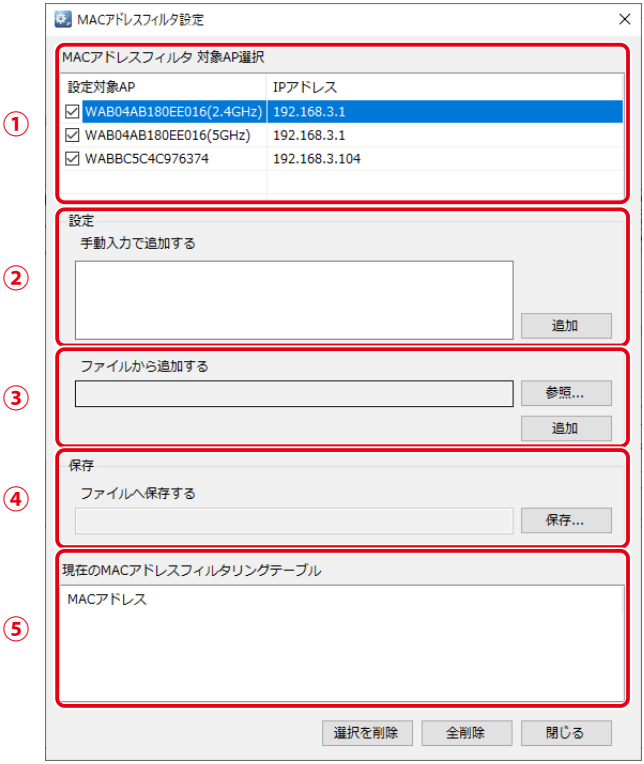
21 MAC アドレスフィルタ設定

本ソフトウェアを登録されたアクセスポイントの MAC アドレスフィルタを設定します。
AP リストから MAC アドレスフィルタ設定が必要となるアクセスポイントを選択し、右クリックでメニューを表示します。
表示されたメニュー内の「MAC アドレスフィルタ設定」をクリックします。



本設定では MAC アドレスの登録設定のみとなります。「17 マルチ SSID 設定画面（→ P81）」から登録した MAC アドレスの無線子機に対して追加の接続認証設定を行ってください。

登録したMAC アドレスを持つ無線子機とのみ通信し、その他の登録されていない無線子機との接続を拒否できます。第三者の無線子機からの不正アクセスを防止するのに役立ちます。



1 対象 AP 一覧

選択されたアクセスポイントが一覧で表示されます。複数のアクセスポイントを一度に設定することができます。

2 MAC アドレスを追加

追加する無線子機の MAC アドレスを直接入力して追加します。入力後、「追加」ボタンをクリックしてください。

3 ファイルからの追加

MAC アドレスフィルタ登録は **CSV ファイル**にて登録することもできます。
事前に下記レイアウトにて、MAC アドレスフィルタ対象となる MAC アドレスを登録してください。MAC アドレスと MAC アドレスは［,］（カンマ）で区切ってください。

```
00:22:44:66:88:AA,
22:44:66:88:AA:CC,
```

「参照」ボタンをクリックすると、ファイルを開く画面が表示されます。
先ほど準備した CSV ファイルを選択して、「開く」をクリックしてください。
ファイルを開く画面が表示されます。ファイルを選択して、「開く」をクリックしてください。
ファイル名が表示されましたら、「追加」をクリックしてください。

4 ファイルへの保存

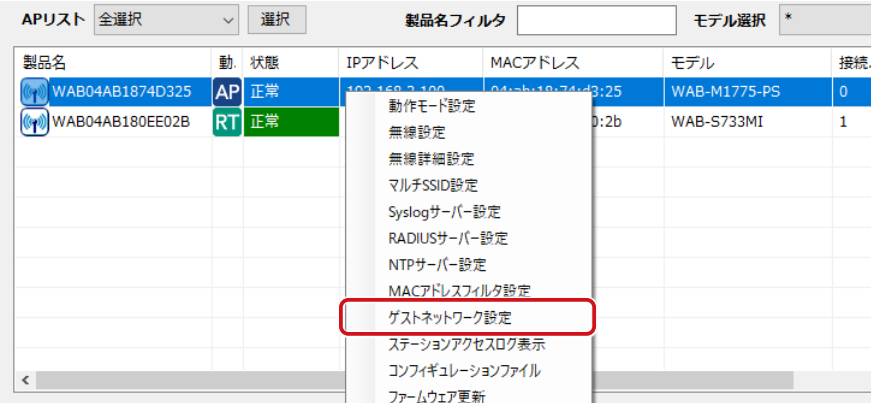
ファイルへ保存する場合は、アクセスポイントを 1 つだけ選択します。対象 AP 一覧から 1 つだけチェックボックスで選択してください。「保存先参照」ボタンをクリックすると保存の画面が表示されますので名前を付けて保存してください。
ファイル名を入力して「保存」をクリックします。

5 MAC アドレスフィルタリングテーブル

現在、設定されている MAC アドレスを表示します。
チェックボックスにチェックを付け「選択を削除」ボタンをクリックすると、選択した MAC アドレスを削除可能です。
「全削除」をクリックすると、登録されたすべての MAC アドレスを削除します。

22 ゲストネットワーク設定

AP リストからゲストネットワーク設定が必要となるアクセスポイントを選択し、右クリックでメニューを表示します。
表示されたメニュー内の「ゲストネットワーク設定」をクリックします。



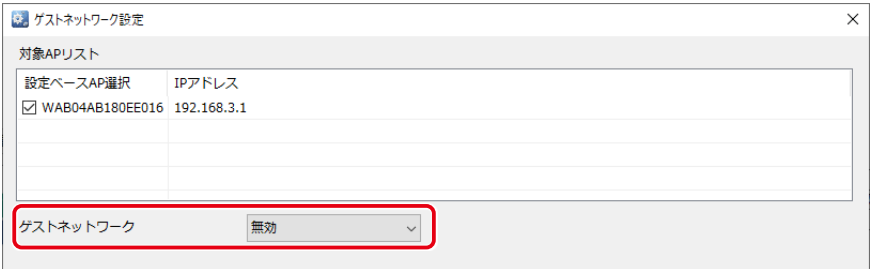
注意

以下のアクセスポイントでは、ゲストネットワークの設定はサポートされていない機能のため、設定できません。

- WAB-S1167P/S300P
- WAB-S733/300IW シリーズ
- WAB-S733MI

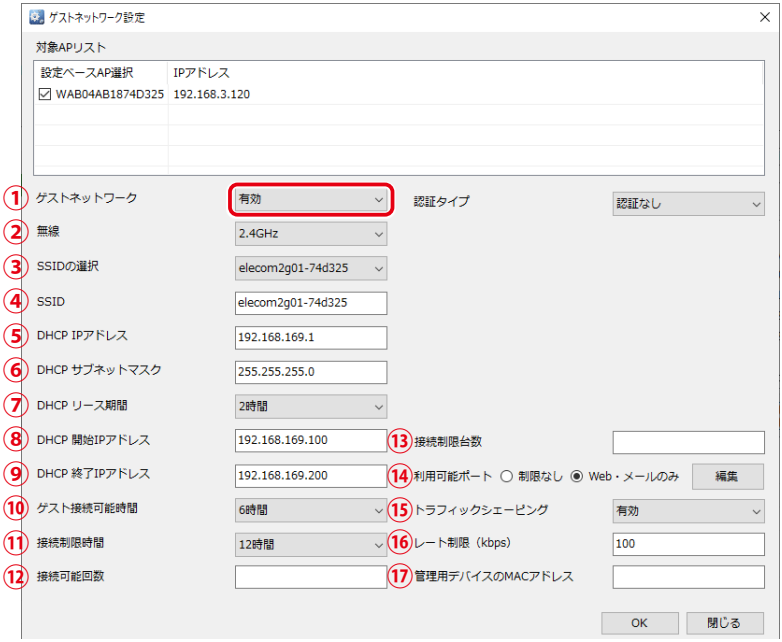
1 ゲストネットワークの有効／無効設定

選択した SSID のゲストネットワークを「有効」に設定します。



2 ゲストネットワークの詳細設定

ゲストネットワークを「有効」に設定すると、ゲストネットワークの設定項目が表示されます。各種必要となる項目を設定ください。

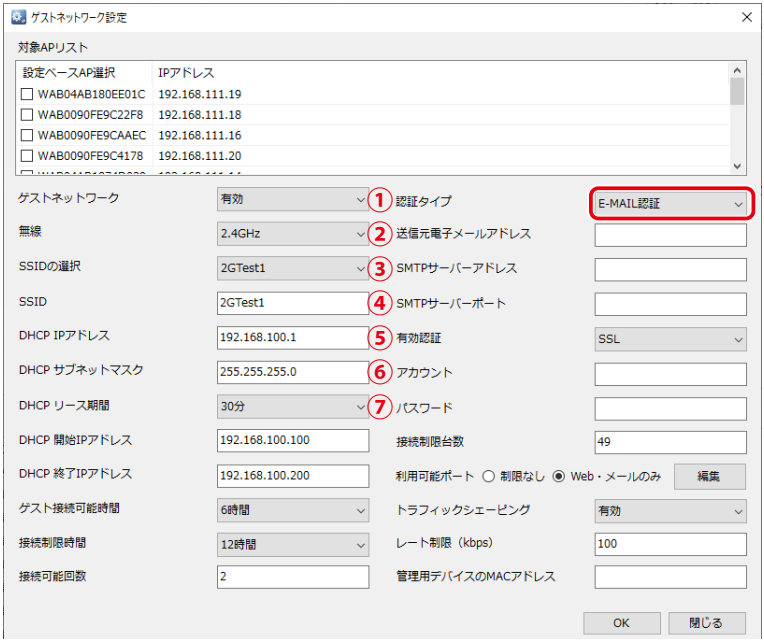


項目	詳細
①ゲストネットワーク	ゲストネットワーク機能の「有効」または「無効」を設定します。
②無線	無線 LAN の帯域を「2.4GHz」または「5GHz」を設定します。
③ SSID の選択	ゲストネットワークに使用する SSID を選択します。
④ SSID	ゲストネットワークの SSID を入力します。
⑤ DHCP IP アドレス	ゲストネットワークにアクセスしたクライアント向けの DHCP サーバーの IP アドレスを入力します。
⑥ DHCP サブネットマスク	DHCP サーバーのサブネットマスクを入力します。
⑦ DHCP リース期間	DHCP サーバーから割り当てられた IP アドレスのリース期間を設定します。
⑧ DHCP 開始 IP アドレス	DHCP サーバーで割り当てる IP アドレスの開始 IP を設定します。
⑨ DHCP 終了 IP アドレス	DHCP サーバーで割り当てる IP アドレスの終了 IP を設定します。
⑩ゲスト接続可能時間	ゲストネットワークの利用時間を設定します。
⑪接続制限時間	ゲストネットワークへアクセスしているユーザーを、接続可能時間経過後に、再接続できない時間を設定します。
⑫接続可能回数	ゲストネットワークから該当アクセスポイントへの管理設定を実行する端末の MAC アドレスを設定します。
⑬ 接続制限台数	接続制限台数を 1 ～ 50 の範囲で設定します。 接続制限台数は対応機種のみ設定値が反映されます。

⑭利用可能ポート	利用可能ポートを以下の中から選択します。 ・制限なし ・Web・メールのみ 利用可能ポートは対応機種のみ設定値が反映されます。 「編集」ボタンをクリックすると、利用可能にするポートを選択できます。
⑮トラフィックシェーピング	トラフィックシェーピング機能の「有効」または「無効」を設定します。 トラフィックシェーピング機能有効時は、「レート制限」に制限する通信量（kbps）を入力します。
⑯レート制限（kbps）	トラフィックシェーピング有効を選択した場合、レート制限を 100 ～ 43000（kbps）の範囲で入力します。
⑰管理デバイスの MAC アドレス	管理用デバイスの MAC アドレスを入力します。 MAC アドレスは「:」（コロン）区切り、または「-」（ハイフン）区切り、区切りなしのいずれかで入力してください。

3 ゲストネットワークの認証設定

ゲストネットワークに参加するユーザーに対して認証を行う「認証タイプ」を設定します。「E-MAIL 認証」を選択した場合は、設定項目が表示されます。



項目	詳細
①認証タイプ	ゲストネットワークで適用する認証タイプを設定します。 「認証なし」：認証なしでゲストネットワークを利用可能です。 「認証画面」：接続したクライアントのブラウザーで接続登録を行います。 「E-MAIL 認証」：接続したクライアントのブラウザーで指定したE-MAIL アドレスに、ユーザー名とパスワードが送信されます。ユーザー名とパスワードを入力すると、ゲストネットワークからインターネットに接続可能になります。
②送信元電子メールアドレス	ID とパスワードを送付する際の送信元メールアドレスを設定します。
③ SMTP サーバーアドレス	メールを送信する SMTP サーバーのアドレスを設定します。
④ SMTP サーバーポート	SMTP サーバーで使用するポートを設定します。 （SSL の場合は「465」、TLS の場合は「587」）
⑤有効認証	SMTP サーバーで使用する認証を設定します。認証は「無効」、「SSL」、「TLS」から選択します。
⑥アカウント	SMTP サーバーを使用するためのアカウント名を設定します。
⑦パスワード	SMTP サーバーを使用するためのパスワードを設定します。

23 LAN 側 IP アドレス設定

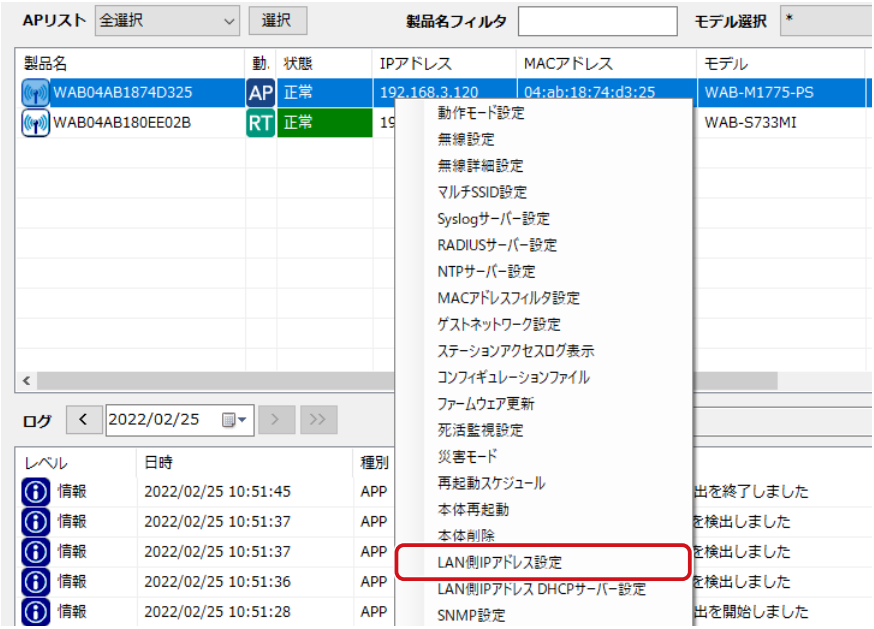
アクセスポイントの LAN 側 IP アドレス（IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイ、DNS サーバーのアドレス）について設定を行います。

注意 本画面で入力した IP アドレス設定によっては、アクセスポイントとの通信が行えない状態になります。また、メイン画面でエラーが表示される場合もあります。ご注意ください。

23-1 LAN 側 IP アドレス設定（静的 IP アドレス）

1 IP アドレス設定をしたいアクセスポイントを選択

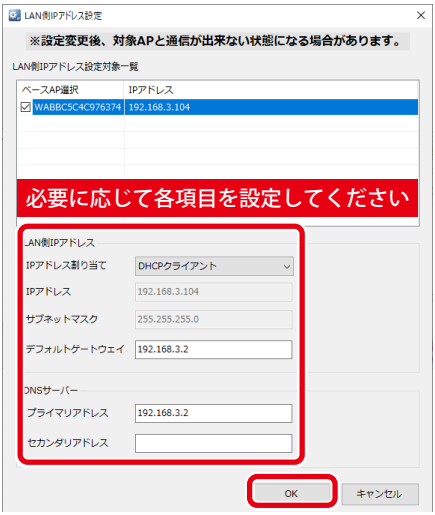
AP リストから IP アドレスの設定を行いたいアクセスポイントを選択し、右クリックでメニューを表示します。「LAN 側 IP アドレス設定」をクリックしてください。



注意 アクセスポイントがルーターモードで動作している場合は、右クリックメニューの「ルーター設定」→「LAN 設定」から設定を行ってください。

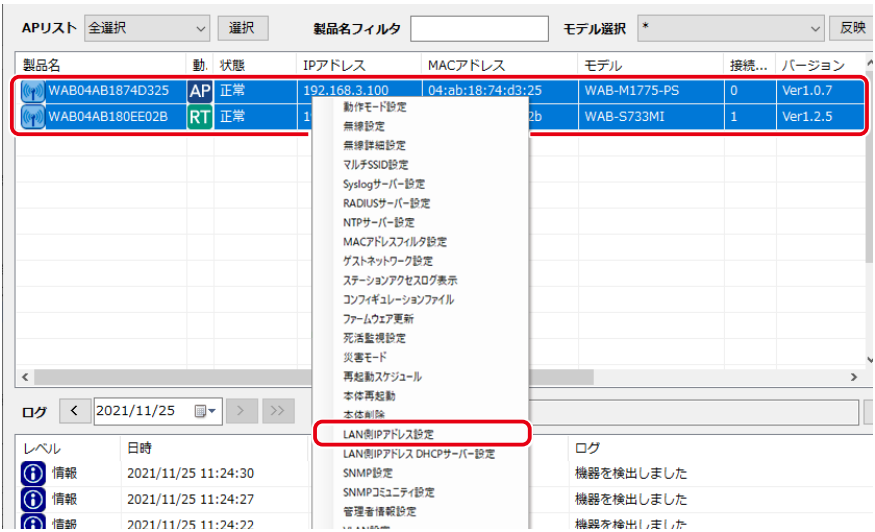
2 静的 IP アドレス設定

アクセスポイントに静的な IP アドレスを割り当てる場合は、IP アドレス割り当てを「静的 IP アドレス」にして、各パラメータを設定して、「OK」ボタンをクリックします。
入力した IP アドレス設定がアクセスポイントに設定されます。



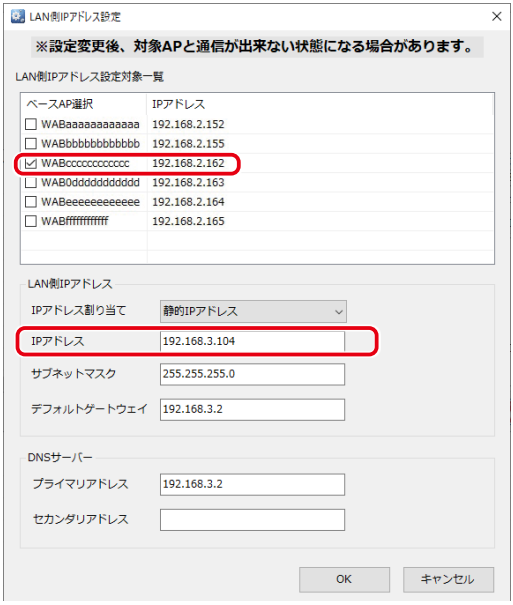
3 IP アドレス一括設定

複数のアクセスポイントを選択していた場合は、IP アドレス割り当てを「静的 IP アドレス」にすると、アクセスポイントに IP アドレスを連番で一括設定可能です。

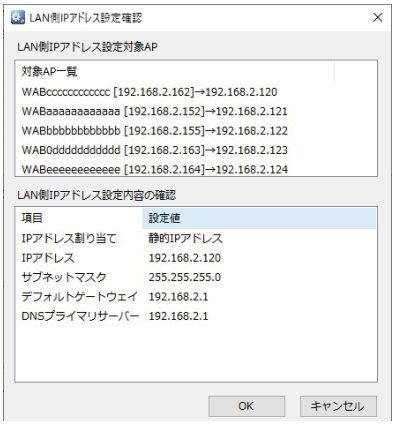


チェックを付けたアクセスポイントには、画面で設定された IP アドレスが設定されます。他のアクセスポイントにはリストに掲載されている上から順に、入力したアドレスから起算した連番で IP アドレスが設定されます。
IP アドレス以外の項目については選択した各アクセスポイントに同じ値が設定変更されます。

【設定例】3 番目のアクセスポイントを選択して設定した場合



IP アドレスに「192.168.2.120」を設定すると、以下のようにアドレス設定が行われます。



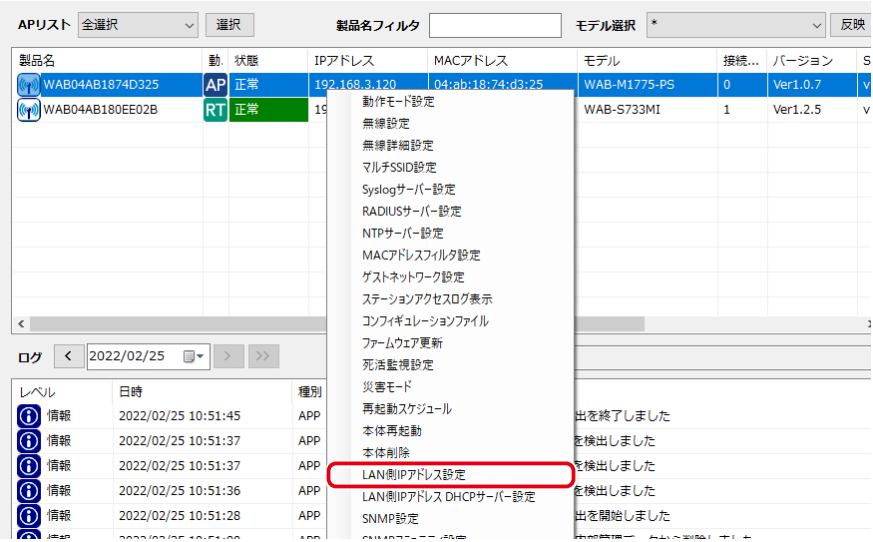
LAN 側 IP アドレス設定画面には、メイン画面で表示されている順番のまま表示されます。メイン画面でソートを行うことで、IP アドレスを割り当てる順番を変えることも可能です。

23-2 LAN 側 IP アドレス設定（DHCP クライアント）

1 IP アドレス設定をしたいアクセスポイントを選択

AP リストから IP アドレスの設定を行いたいアクセスポイントを選択し、右クリックでメニューを表示します。

「LAN 側 IP アドレス設定」をクリックしてください。

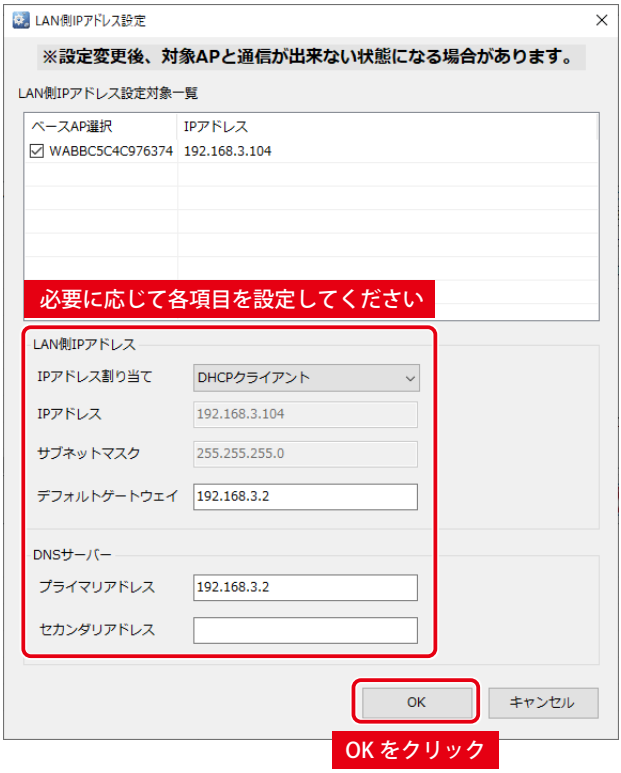


2 DHCP クライアント設定

アクセスポイントに対して DHCP サーバーから自動的に IP アドレスを割り当てる場合は、IP アドレス割り当てを「DHCP クライアント」にします。
IP アドレス割り当てを DHCP クライアントにすると、すべての項目について選択した各アクセスポイントに共通の値が設定変更されます。

デフォルトゲートウェイ、DNS サーバーを指定する事も可能です。
この場合は、IP アドレス / サブネットマスクは DHCP サーバーが割り当てた値、デフォルトゲートウェイ、DNS サーバーは指定した値が設定されます。

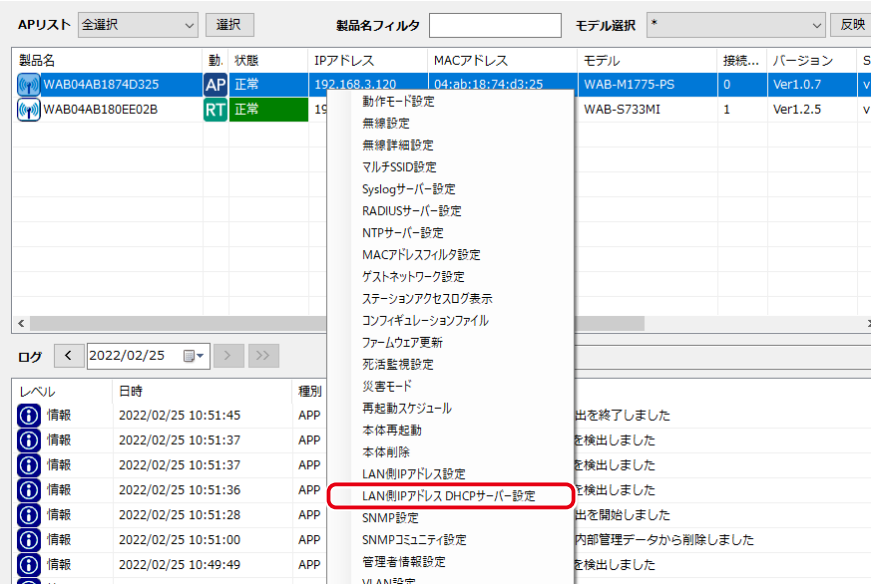
各パラメータを設定して、「OK」ボタンをクリックします。



24 LAN 側 IP アドレス DHCP サーバー設定

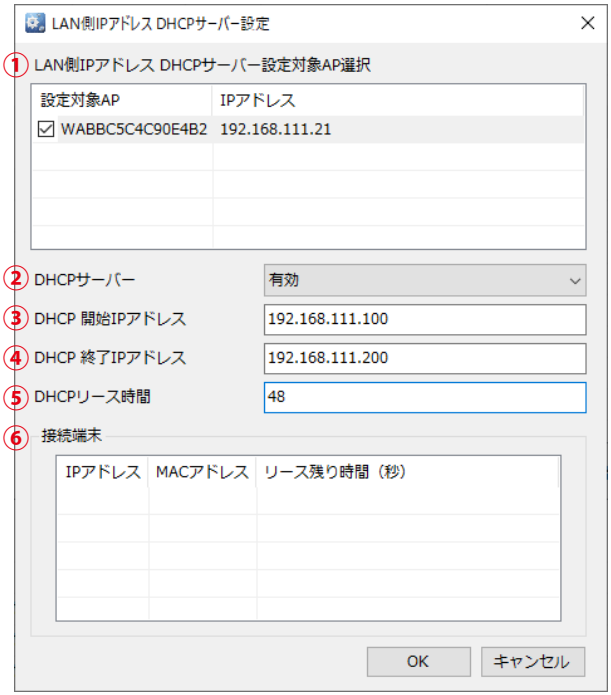
AP リストから LAN 側 IP アドレス DHCP サーバー設定が必要となるアクセスポイントを選択し、右クリックでメニューを表示します。

表示されたメニュー内の「LAN 側 IP アドレス DHCP サーバー設定」をクリックします。



1 LAN 側 IP アドレス DHCP サーバー設定

設定対象となるアクセスポイントを選択し、各パラメータを設定して、「OK」ボタンをクリックします。

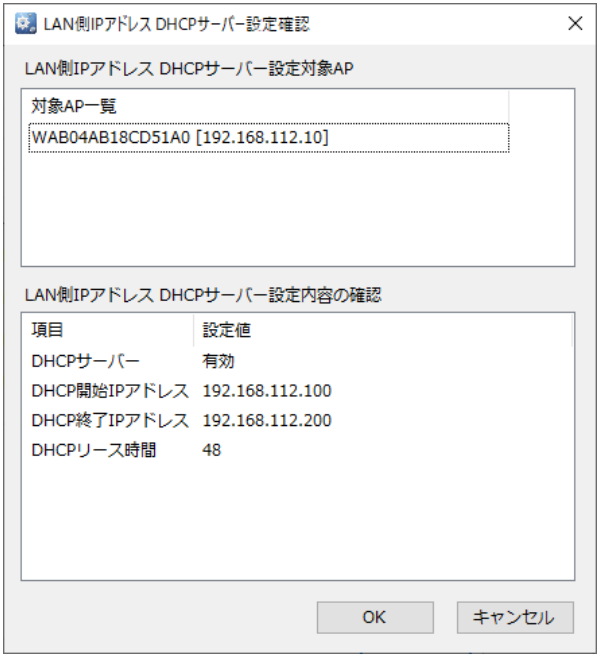


項目	説明
① LAN 側 IP アドレス DHCP サーバー設定対象 AP 選択	単一のアクセスポイントを選択することで、そのアクセスポイントをベースとして設定します。 複数のアクセスポイントを選択してから設定項目を適宜編集して「OK」ボタンを押すと、選択したアクセスポイントへ同一の設定を一括で行うことができます。
② DHCP サーバー	DHCP サーバーの有効・無効を選択します。
DHCP サーバー「有効」選択時のみ	
③ DHCP 開始 IP アドレス	DHCP 開始 IP アドレスを入力します。 LAN 側 IP アドレスと同じネットワークに設定してください。
④ DHCP 終了 IP アドレス	DHCP 終了 IP アドレスを入力します。 LAN 側 IP アドレスと同じネットワークに設定してください。
⑤ DHCP リース時間	DHCP リース時間を設定します。1～168 時間までの範囲で設定できます。
⑥ 接続端末	接続端末の IP アドレス、MAC アドレス、リース残り時間（秒）を一覧で表示します。

LAN 側 IP アドレス DHCP サーバー設定に対応していないアクセスポイントを選択した場合、「OK」ボタンを押すとエラーが出ます。

2 LAN 側 IP アドレス DHCP サーバー設定内容確認

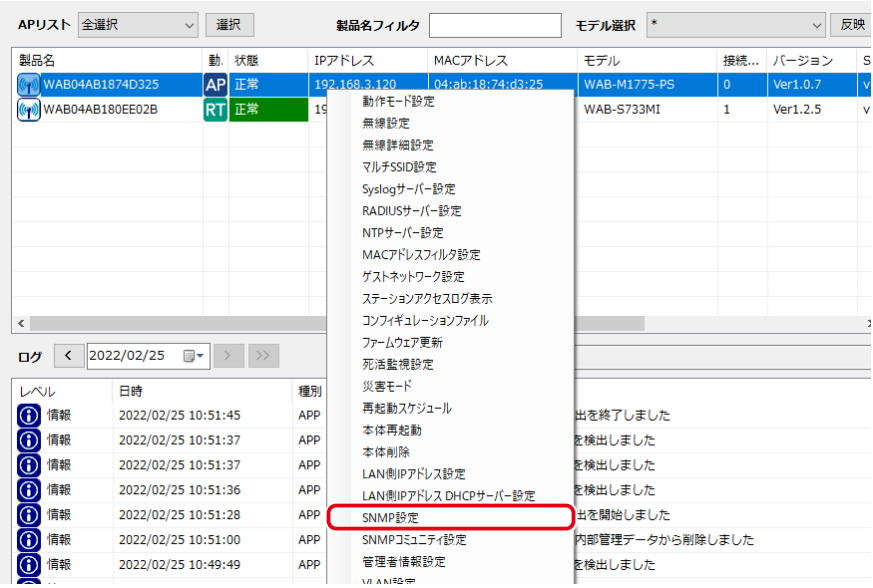
設定内容が反映されていることを確認し、「OK」ボタンをクリックします。

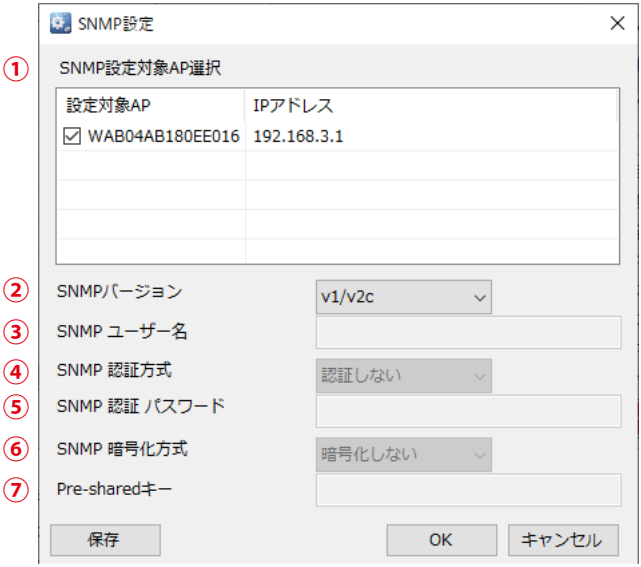


項目	説明
LAN 側 IP アドレス DHCP サーバー設定対象 AP	設定対象となるアクセスポイントの製品名と IP アドレスが表示されます。
LAN 側 IP アドレス DHCP サーバー設定内容の確認	各設定値が表形式で表示されます。

25 SNMP 設定

本ソフトウェアに登録されたアクセスポイントの SNMP 設定を行います。
設定を行うアクセスポイントを選択し、右クリックでメニューを表示します。
表示されたメニュー内の「SNMP 設定」をクリックします。





項目	詳細
① SNMP 設定対象 AP 選択	選択したアクセスポイントがリストで表示されます。設定するアクセスポイントにチェックを入れてください。
② SNMP バージョン	SNMP プロトコルのバージョンを「v1/v2c」または「v3」から選択します。（初期値：v1/v2c） 「v1/v2c」を選択した場合、MIB のアクセスにはコミュニティ（SNMP 取得コミュニティ、SNMP 設定コミュニティ、SNMP トラップコミュニティ）を使用します。
③ SNMP ユーザー名	「SNMP バージョン」に「v3」を選択した場合、入力します。 使用可能な文字は、英数字と記号、32 文字以内です。
④ SNMP 認証方式	「SNMP バージョン」に「v3」を選択した場合、「MD5」、「SHA」、「認証しない」から選択します。
⑤ SNMP 認証パスワード	「SNMP バージョン」に「v3」を選択した場合、入力します。 使用可能な文字は、英数字と記号、32 文字以内です。
⑥ SNMP 暗号化方式	「SNMP バージョン」に「v3」を選択した場合、「DES」、「3DES」、「AES128」、「AES192」、「AES256」、「暗号化しない」から選択します。 ● アクセスポイントの機種により、選択可能な暗号化方式が異なります。設定する機種に合わせて、選択してください。 ●「暗号化しない」を選択した場合は、「Pre-shared キー」の入力は不要です。
⑦ Pre-shared キー	「SNMP バージョン」に「v3」を選択し、「SNMP 暗号化方式」に「暗号化しない」以外を選択した場合、入力します。 使用可能な文字は、英数字と記号、32 文字以内です。

注 意

SNMP 設定を実施すると、その変更内容でアクセスポイント側の SNMP 設定が変更されますが、アクセスポイント側に設定した内容と、WAB-MAT オプションの SNMP 設定内容が一致していない場合、WAB-MAT とアクセスポイントの SNMP 通信が正常に行えない状態になるため、確認時にエラーが出ます。
エラーとなる場合は、アクセスポイントの SNMP 設定が一致するように、WAB-MAT オプションの SNMP 設定を変更してください。

26 SNMP コミュニティ設定

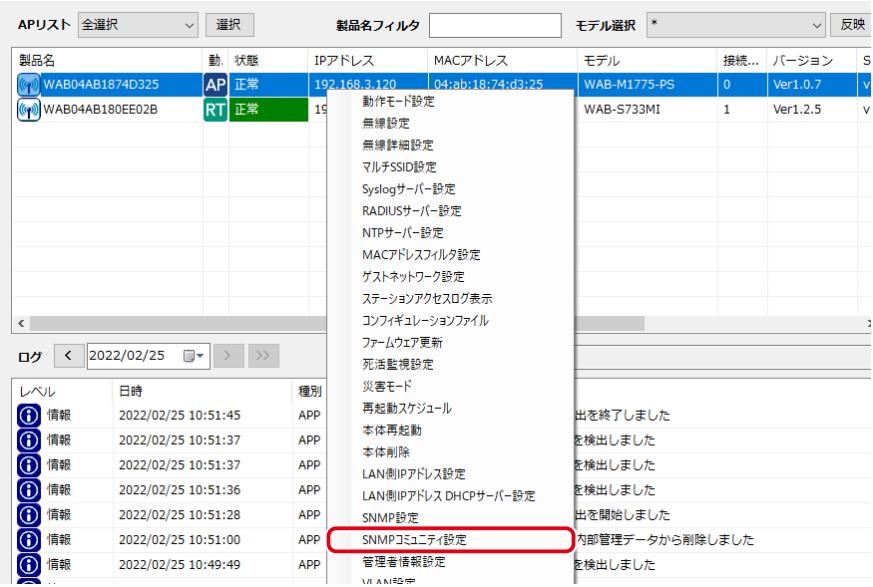
SNMP 取得コミュニティと SNMP 設定コミュニティの設定を行います。

注意

本画面で入力したコミュニティ設定によっては、アクセスポイントとの通信が行えない状態になります。また、メイン画面でエラーが表示される場合もあります。ご注意ください。

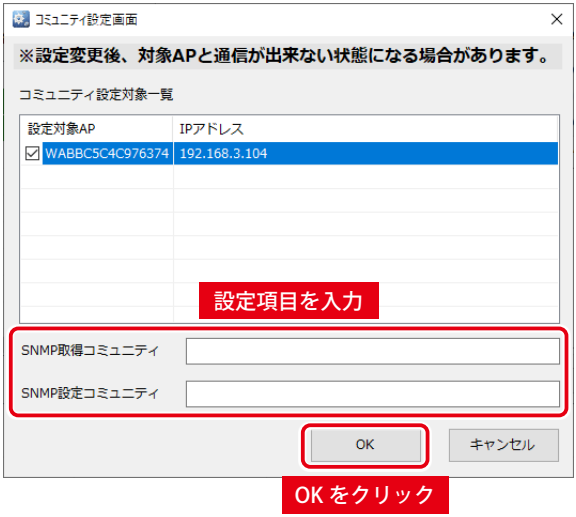
AP リストから SNMP コミュニティ設定を行うアクセスポイントを選択し、右クリックでメニューを表示します。

「SNMP コミュニティ設定」をクリックしてください。



1 SNMP 取得コミュニティ・SNMP 設定コミュニティ設定

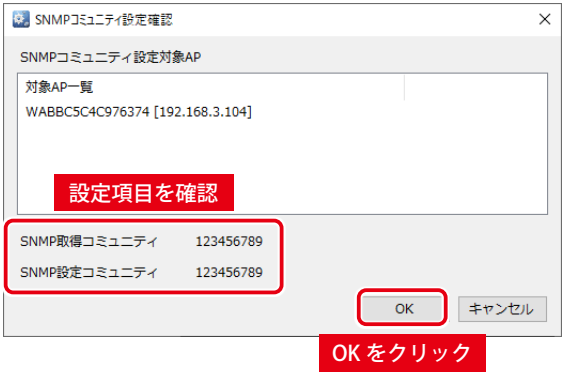
アクセスポイントに設定するSNMP取得コミュニティ･SNMP設定コミュニティを設定して、「OK」ボタンをクリックします。



コミュニティ名はセキュリティを考慮して、AP から現在の設定値を取得しないため、空欄が表示されます。

2 SNMP 取得コミュニティ・SNMP 設定コミュニティ設定内容確認

設定内容が反映されていることを確認し、「OK」ボタンをクリックします。



注意

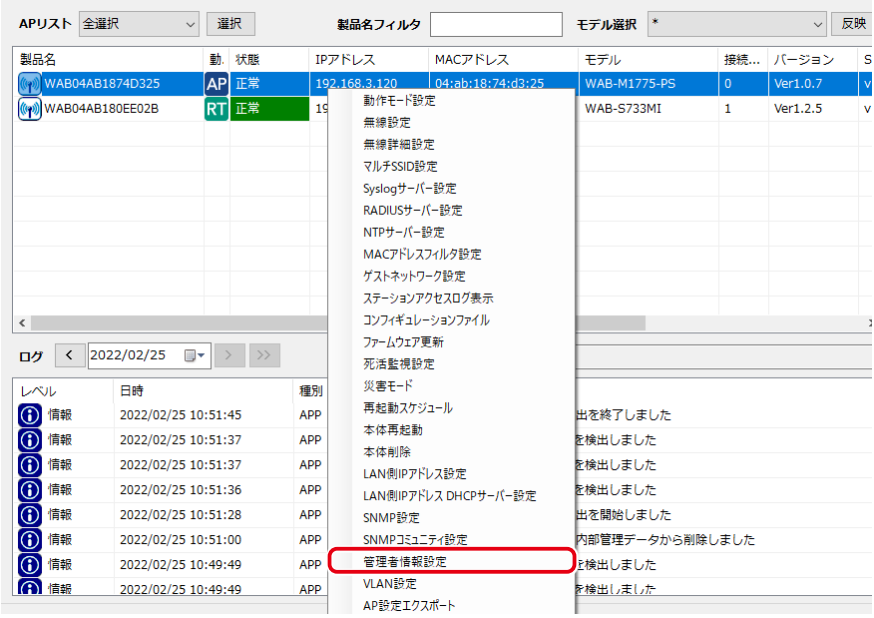
SNMP 設定を実施すると、その変更内容でアクセスポイント側の SNMP 設定が変更されますが、アクセスポイント側に設定した内容と、WAB-MAT オプションの SNMP 設定内容が一致していない場合、WAB-MAT とアクセスポイントの SNMP 通信が正常に行えない状態になるため、確認時にエラーが出ます。
エラーとなる場合は、アクセスポイントのSNMP設定が一致するように、WAB-MATオプションの SNMP 設定を変更してください。

27 管理者情報設定（旧名称 :AP ロケーション設定）

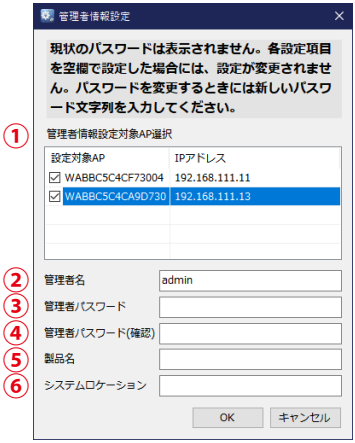
管理者情報の設定を行います。

AP リストから管理者情報設定を行うアクセスポイントを選択し、右クリックでメニューを表示します。

「管理者情報設定」をクリックしてください。



管理者情報設定画面が表示されます。この画面で複数のアクセスポイントに一度に設定する事もできます。



項目	詳細
① 管理者情報設定対象 AP 選択	アクセスポイントを選択すると、そのアクセスポイントをベースとして設定することができます。 編集後、「設定」をクリックすると、リストに表示されているすべてのアクセスポイントに設定が反映されます。
② 管理者名	管理者名を設定します（4 ～ 16 文字の半角英数字）。 先頭と末尾以外の「-」（ハイフン）は使用できます。 未入力の場合は設定されません。
③ 管理者パスワード	管理者用のパスワードを設定します（32 文字以内の ASCII 文字）。
④ 管理者パスワード（確認）	確認のため、パスワードを再度入力します。
⑤ 製品名	製品名を設定します（1 ～ 32 文字の半角英数字）。 先頭と末尾以外の「-」（ハイフン）は使用できます。 未入力の場合は設定されません。
⑥ システムロケーション	システムロケーションを設定します（128 文字以内の ASCII 文字）。

設定したら、「OK」ボタンをクリックします。

28 VLAN 設定

各インターフェースに割り当てる VLAN ID やタグの設定を行います。
本機能はソフトウェア Ver.5.0.0.8 より対応です。

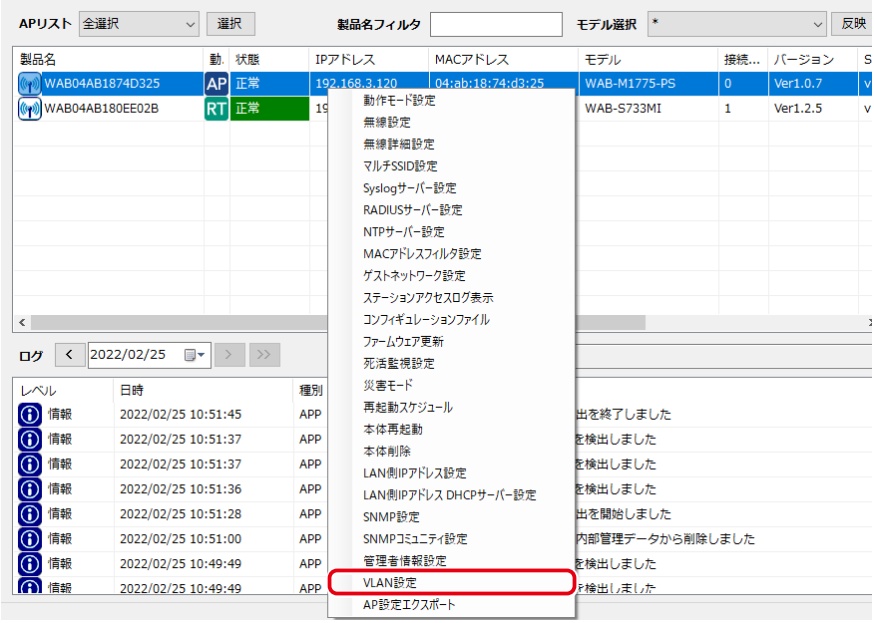
注 意

本画面で入力した VLAN 設定によっては、アクセスポイントとの通信が行えない状態になります。また、メイン画面でエラーが表示される場合もあります。ご注意ください。

注 意

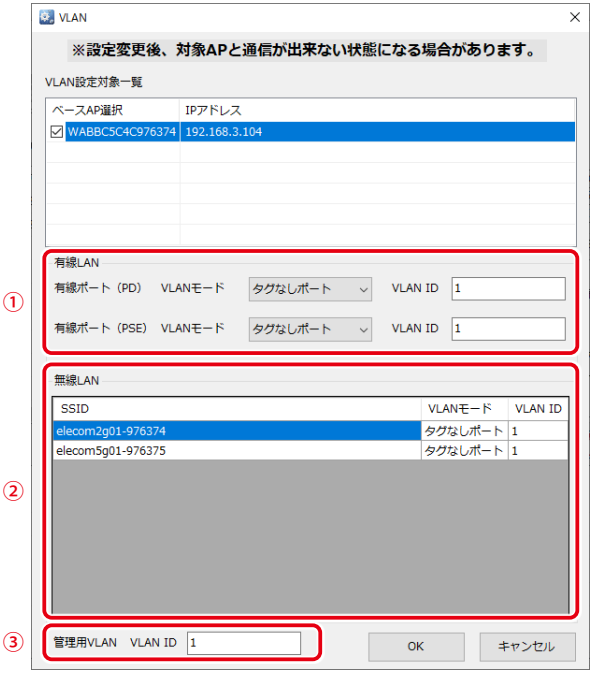
アクセスポイントがルーターモードで動作している場合は設定できません。

AP リストから VLAN 設定を行うアクセスポイントを選択し、右クリックでメニューを表示します。「VLAN 設定」をクリックしてください。



一括設定可能なアクセスポイントは、同じモデルでかつ 11g(2.4GHz) 有効 SSID 数と 11a(5GHz) 有効 SSID 数の設定が同じ場合のみとなります。

VLAN 設定画面が表示されます。



1 有線 LAN インターフェースの VLAN 設定

有線ポートは、「タグなしポート」、「タグ付きポート」の指定が可能です。
「タグなしポート」を指定する場合は「VLAN ID」を指定してください。

2 無線 LAN SSID の VLAN 設定

無線 LAN の SSID は、「タグ付きポート」を指定する事はできません。
SSID ごとに VLAN ID を指定します。

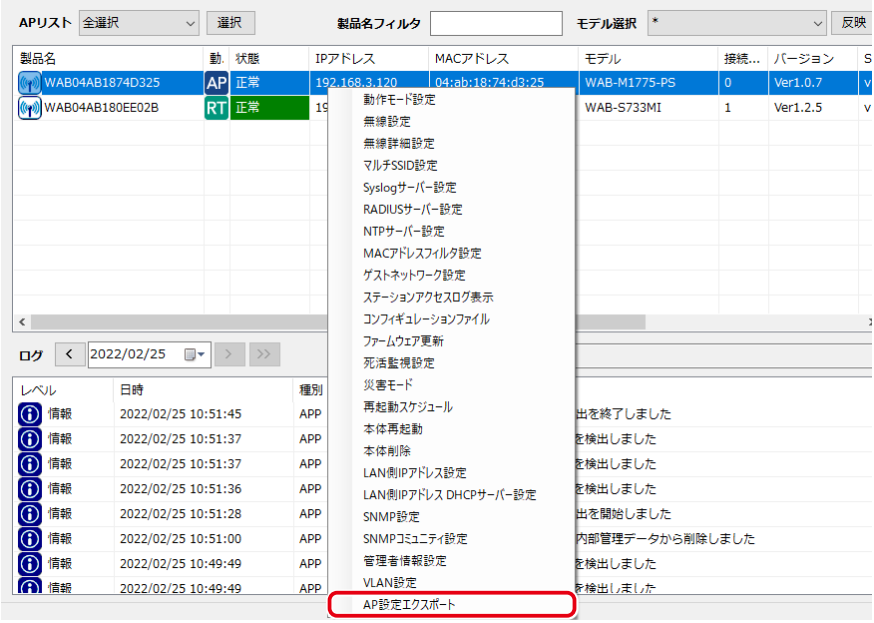
3 管理用 VLAN ID の設定

アクセスポイントの設定画面や SNMP での管理を行える VLAN ID を指定します。

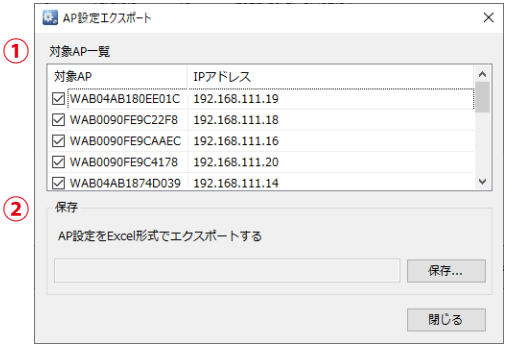
29 AP 設定エクスポート

選択したアクセスポイントの設定情報を Excel 形式でエクスポートします。
本機能はソフトウェア Ver.5.0.0.8 より対応です。

AP リストから AP 設定エクスポートを行うアクセスポイントを選択し、右クリックでメニューを表示します。「AP 設定エクスポート」をクリックしてください。



AP 設定エクスポート画面が表示されます。



項目	詳細
① 対象 AP 一覧	選択したアクセスポイントがリストで表示されます。設定をエクスポートするアクセスポイントにチェックを入れてください。
② 保存	チェックを入れたアクセスポイントの設定を Excel 形式でエクスポートします。 オプション設定で起動パスワードを有効にしている場合、起動パスワードの入力画面が表示されます。

Chapter 3

運用編

1 アクセスポイントログ（Syslog）

本ソフトウェアでは管理対象となるアクセスポイントの Syslog を表示することができます。運用におけるアクセスポイントログの表示方法などについて説明します。

注意

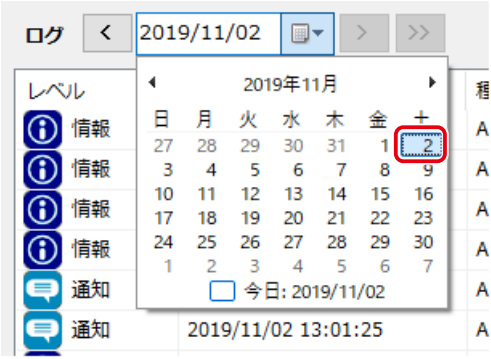
本機能を利用するためには、アクセスポイントに Syslog サーバーの設定が必要です。「Chapter 2 設定編 18　Syslog サーバー設定（→ P84）」を参照し、本ソフトウェアがインストールされている PC の IP アドレスを設定してください。

1-1 アクセスポイントログの表示

アクセスポイントログは初期状態では、登録されたアクセスポイントの全情報が表示されております。ログ情報をより見やすくするために各種フィルタを準備しております。

1 フィルタ：日時

アクセスポイントログを日付指定し、ログ表示します。

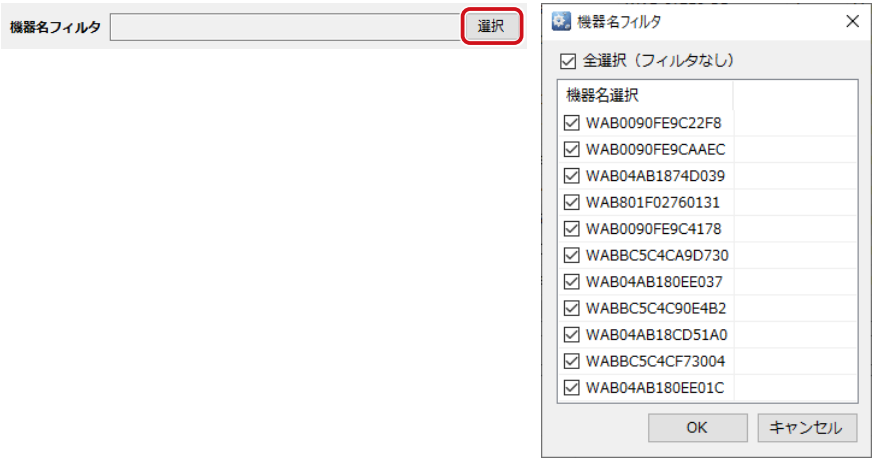


ログ表示する日付をカレンダーから選択します。日付フィルタによる期間設定のフィルタはできないので、ご注意ください

2 フィルタ：機器名フィルタ

アクセスポイントログをアクセスポイントの機器名を指定し、ログ表示します。

「選択」をクリックし、ログ表示したい機器名を選択して「OK」をクリックします。



3 CSV エクスポート

アクセスポイントログに表示されている情報を、CSV 形式でデータ出力します。

データ形式は下記の通りです。

レベル	日時	種別	機器名	ログ
情報	2019/11/02 16:26:56	APP	-----	AP検出を終了しました
情報	2019/11/02 16:26:51	APP	WAB04AB180EE016	機器を検出しました
情報	2019/11/02 16:26:51	APP	WABBC5C4C976374	機器を検出しました
情報	2019/11/02 16:26:43	APP	-----	AP検出を開始しました
通知	2019/11/02 14:36:26	APP	WAB04AB180EE016	有効SSID数設定（2.4G）を更新しました
通知	2019/11/02 13:01:25	APP	WAB04AB180EE016	無線設定 (2.4G)を更新しました
情報	2019/11/02 12:33:05	APP	-----	AP検出を終了しました

レベル　日時　種別　機器名　ログ

	A	B	C	D	E	F	G	H
1	情報	########	APP	-----	AP検出を終了しました			
2	情報	########	APP	WAB04AB1	機器を検出しました			
3	情報	########	APP	WABBC5C	機器を検出しました			
4	情報	########	APP	-----	AP検出を開始しました			
5	通知	########	APP	WAB04AB1	有効SSID数設定(2.4G)を更新しました			
6	通知	########	APP	WAB04AB1	無線設定 (2.4G)を更新しました			
7	情報	########	APP	-----	AP検出を終了しました			
8	情報	########	APP	WAB04AB1	機器を検出しました			
9	情報	########	APP	WABBC5C	機器を検出しました			
10	情報	########	APP	-----	AP検出を開始しました			
11	情報	########	APP	-----	AP検出を終了しました			
12	エラー	########	APP	WAB04AB1	AP死活監視エラー			
13	情報	########	APP	WABBC5C	機器を検出しました			
14	情報	########	APP	-----	AP検出を開始しました			
15	エラー	########	APP	WAB04AB1	有効SSID数設定(2.4G)に失敗しました			
16	情報	########	APP	WAB04AB1	機器を検出しました			
17	情報	########	APP	WABBC5C	機器を検出しました			
18	情報	########	APP	-----	アプリケーションを起動しました			

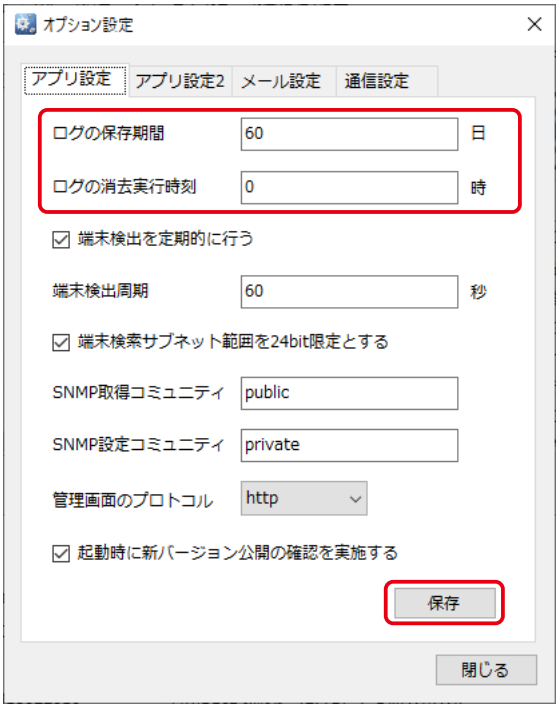
1-2 アクセスポイントログ保存期間設定

1 オプション設定をクリック

メニューバー内の「オプション設定」をクリックします。

2 オプション設定内のログ項目設定

オプション設定画面内のログに関する各種設定を行います。
設定が完了したら「保存」をクリックしてください。



2 ステーションアクセスログ

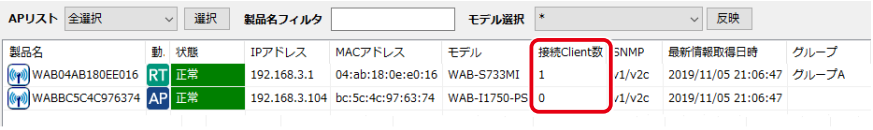
本ソフトウェアに登録されたアクセスポイントに接続されたステーション（接続クライアント）の情報を確認する。ステーションアクセスログについて説明します。

注意 **本機能を利用するためには、アクセスポイントに Syslog サーバーの設定が必要です。「Chapter 2 設定編 18　Syslog サーバー設定（→ P84）」を参照し、本ソフトウェアがインストールされている PC の IP アドレスを設定してください。**

2-1 ステーションアクセスログの表示

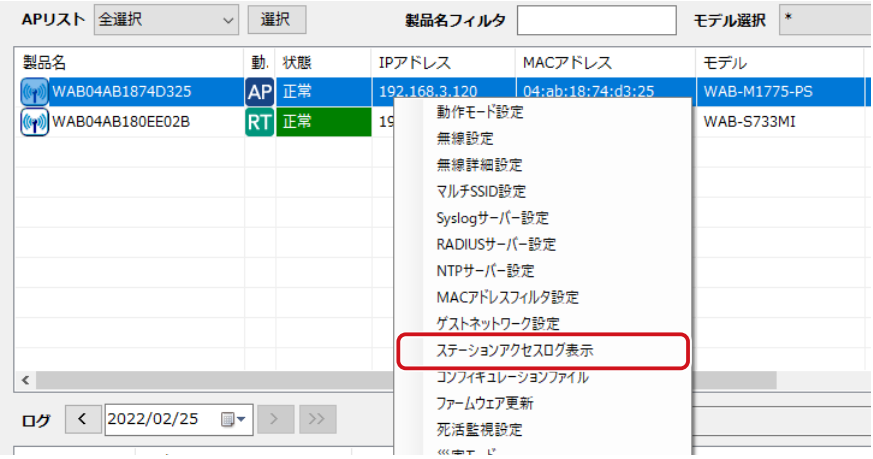
1 接続ステーション数の確認

アクセスポイントに接続されているステーション数は、AP リストの「接続 Client 数」から確認することができます。



2 接続ステーション数確認対象アクセスポイント選択

接続ステーション数を確認する対象となるアクセスポイントを選択し、メニューを表示します。「ステーションアクセスログ表示」をクリックしてください。



3 ステーションアクセスログ表示

ステーションアクセスログ表示画面で、ログ表示期間を設定し、「表示」をクリックすると表示されます。

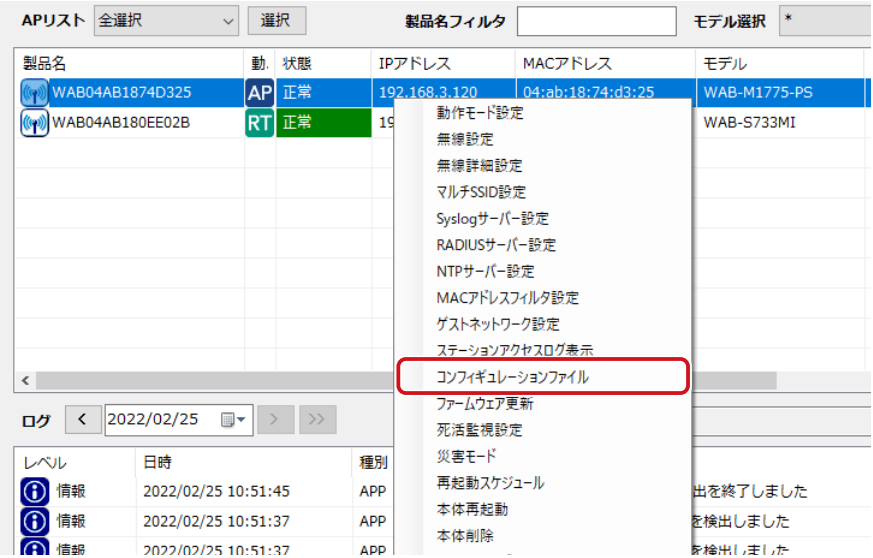
3 コンフィギュレーションファイル

3-1 アクセスポイント設定情報の保存

本ソフトウェアに登録されたアクセスポイントの設定情報をファイルに保存します。

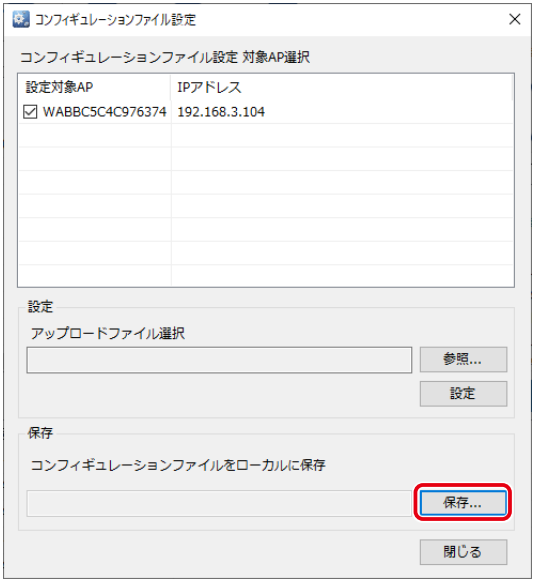
1 アクセスポイントの設定保存対象 AP 選択

アクセスポイントの設定保存対象となるアクセスポイントを選択し、右クリックでメニューを表示、「コンフィギュレーションファイル」をクリックします。



2 コンフィギュレーションファイル保存

コンフィギュレーションファイル設定画面内の「保存」をクリックします。



3 コンフィギュレーションファイル保存確認

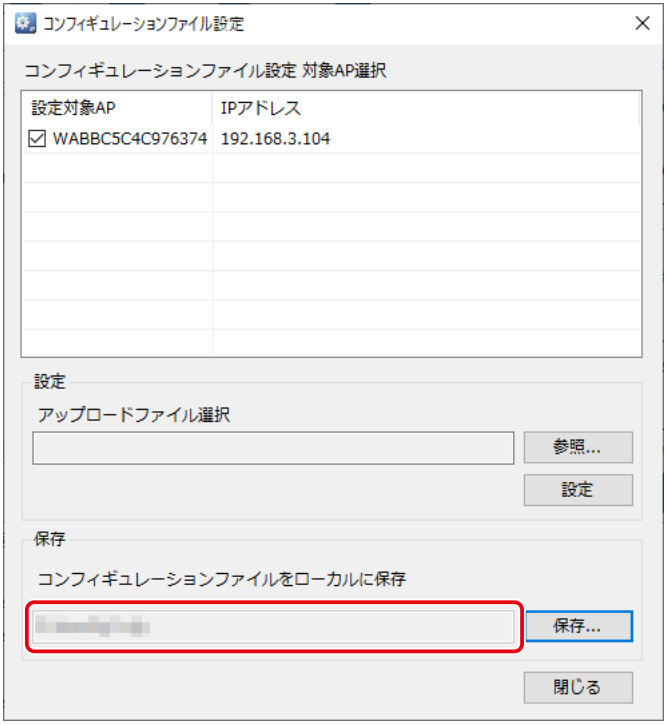
コンフィギュレーションファイル保存確認が表示されますので、「OK」をクリックしてください。

4 コンフィギュレーションファイル保存先指定

コンフィギュレーションファイルの名称を設定、保存先を指定します。

5 コンフィギュレーションファイル保存完了

コンフィギュレーションファイルの保存ファイルのパスが表示されていたら、コンフィギュレーションファイルの保存は完了です。

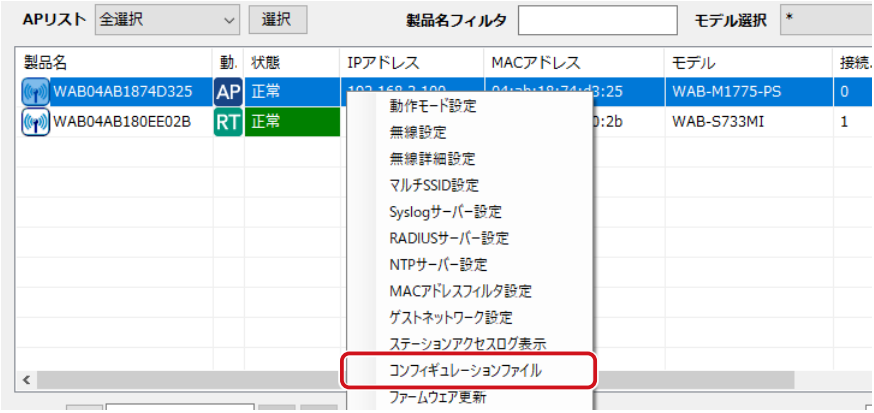


3-2 アクセスポイント設定情報の読込

本ソフトウェアに登録されたアクセスポイントにファイルを読み込ませ、設定情報を復元します。

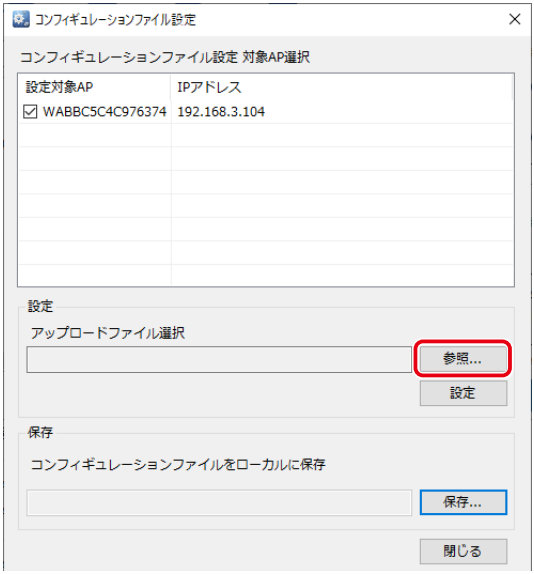
1 アクセスポイントの設定保存対象 AP 選択

アクセスポイントの設定保存対象となるアクセスポイントを選択し、右クリックでメニューを表示、「コンフィギュレーションファイル」をクリックします。



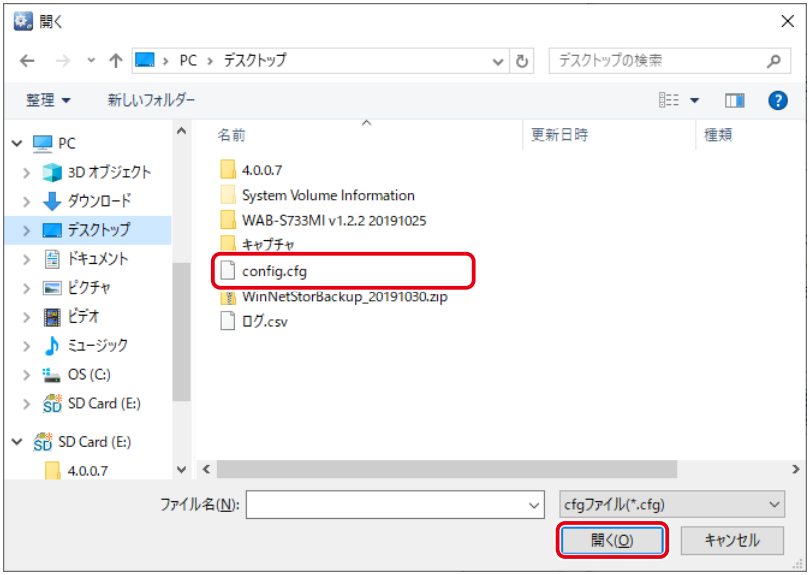
2 コンフィギュレーションファイル設定

コンフィギュレーションファイル設定画面内の「参照」をクリックします。



3 コンフィギュレーションファイル指定

復元対象のコンフィギュレーションファイルを指定し、「開く」をクリックします。

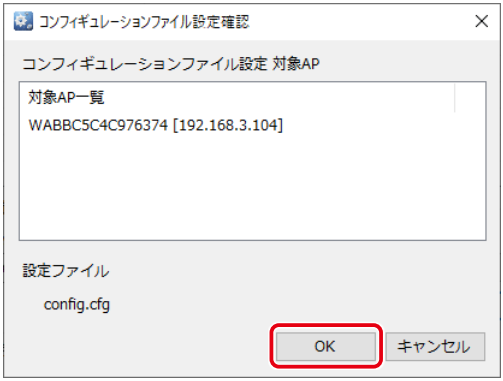


4 コンフィギュレーション復元設定

アップロードファイル選択欄にコンフィギュレーションファイルの格納先パスが記載されたら、「設定」をクリックします。

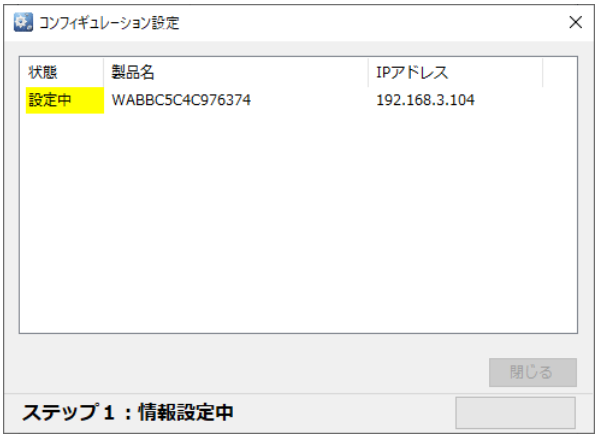
5 コンフィギュレーションファイル設定確認

コンフィギュレーションファイル設定確認が表示されますので、「OK」をクリックしてください。



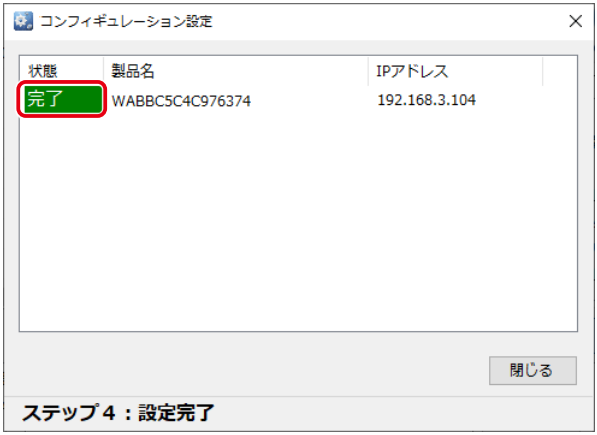
6 コンフィギュレーションファイル設定更新

コンフィギュレーションファイル更新作業を実施します。アクセスポイントの再起動を含めた対応となるため、ネットワークの通信状況にもよりますが、所要時間の目安は 60 秒～120 秒となります。



7 コンフィギュレーション設定完了

正常にコンフィギュレーション設定が完了すると、状態が「完了」となります。

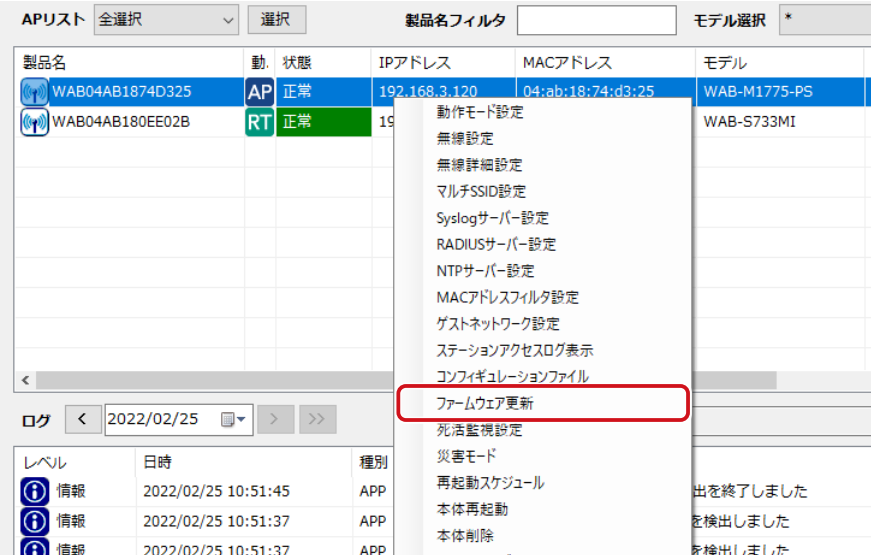


4 ファームウェア更新

検出された AP のファームウェアを更新します。ファームウェアのファイルは、エレコムの Web サイトからダウンロードしてください。

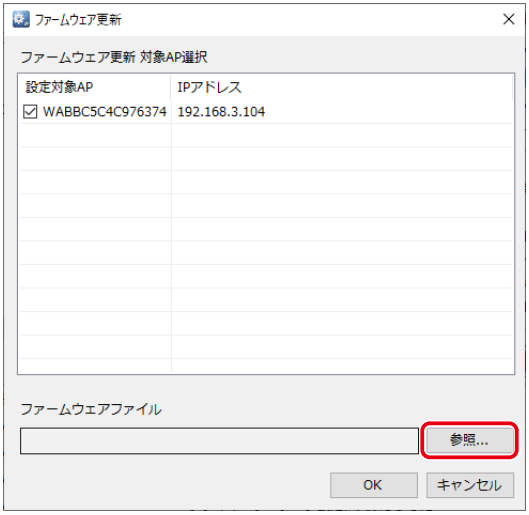
1 ファームウェア更新対象 AP 選択

ファームウェアの更新対象となるアクセスポイントを選択し、右クリックでメニューを表示、「ファームウェア更新」をクリックします。



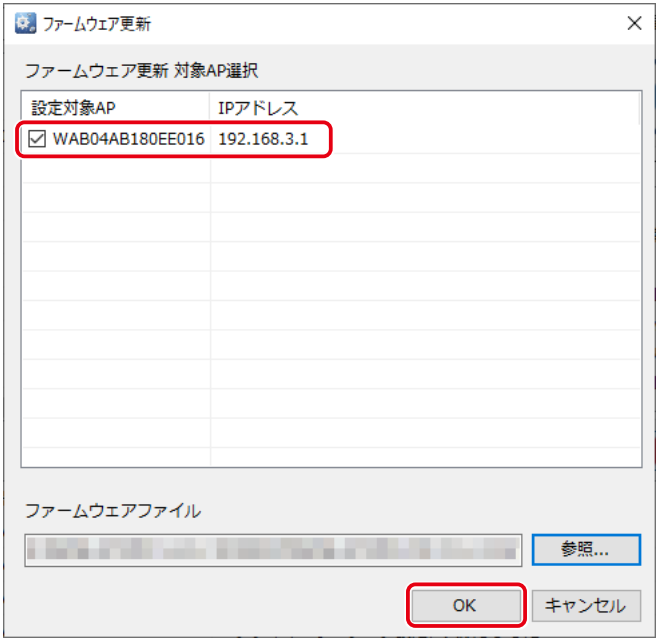
2 ファームウェア更新ファイル参照

「参照」をクリックし、最新ファームウェアが格納されているディレクトリを指定します。



最新ファームウェアファイルを選択します

ファームウェアファイルの欄にパスが表示されましたら、「OK」をクリックしてください。

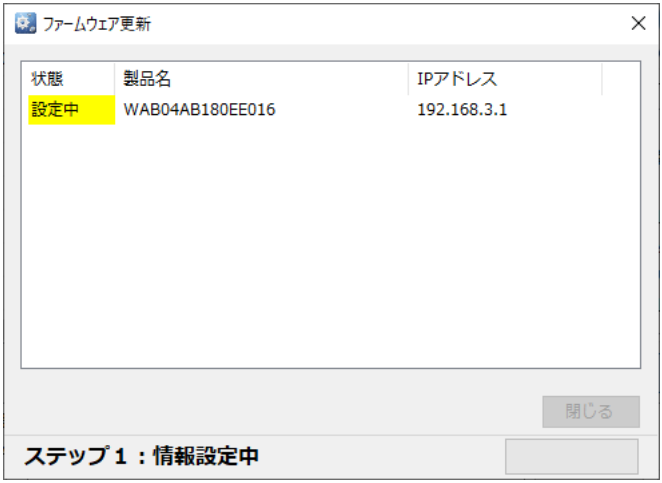


3 ファームウェア更新確認

ファームウェア更新の対象となるアクセスポイントとファイルを確認し、「OK」をクリックします。

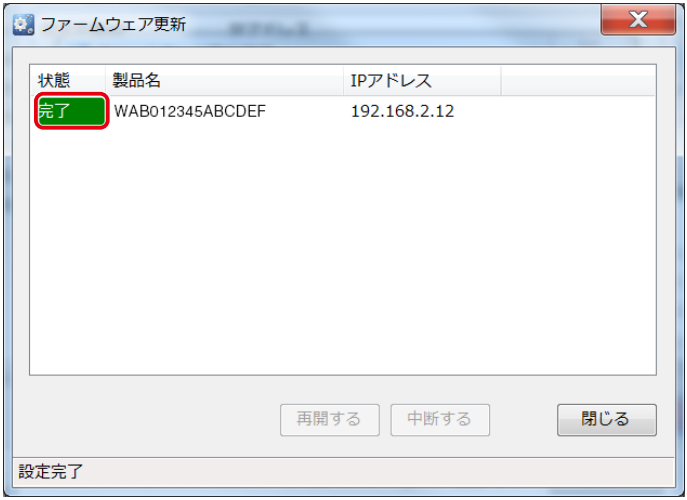
4 ファームウェア更新

ファームウェア更新作業を実施します。アクセスポイントの再起動を含めた対応となるため、ネットワークの通信状況にもよりますが、所要時間の目安は 200 秒～ 250 秒となります。



5 ファームウェア更新完了

正常にファームウェア更新が完了すると、状態が「完了」となります。

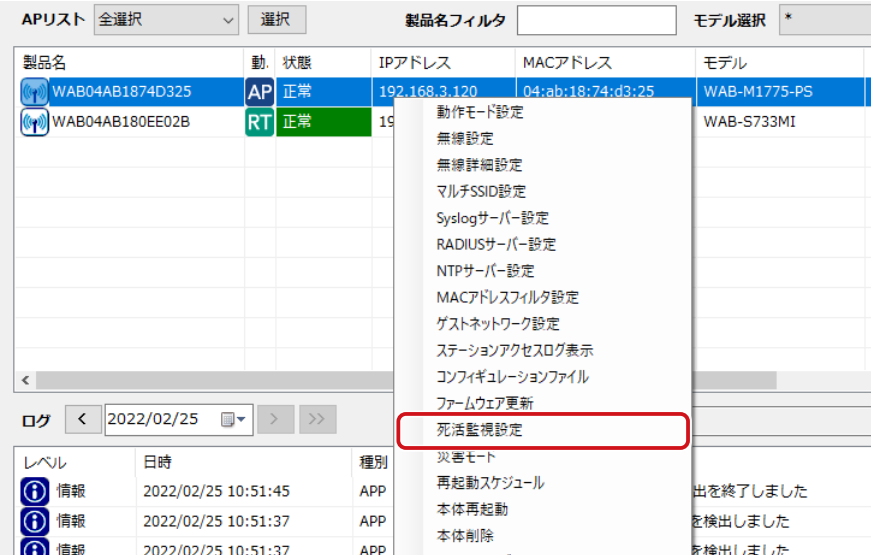


5 死活監視設定

アクセスポイントの死活監視通信は、「PING（ICMP）」か「SNMP」のどちらかの通信で実行することができます。ご利用いただくネットワーク環境に応じた通信を選択してください。

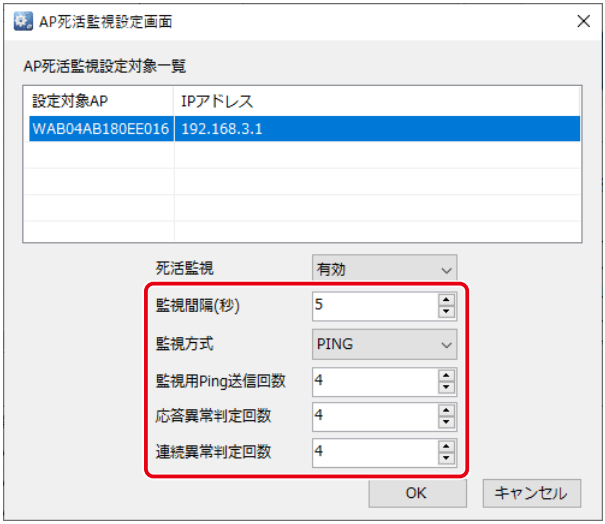
1 死活監視設定

設定するアクセスポイントを選択し、メニューを表示します。
「死活監視設定」をクリックしてください。



2 死活監視設定：PING

監視方式を「PING」に選択し、「監視間隔」、「監視用 Ping 送信回数」、「応答異常判定回数」、「連続異常判定回数」を設定してください。



監視間隔（秒）、監視用 Ping 送信回数

指定された秒数の間隔で、「監視用 Ping 送信回数」の Ping を送信します。

例：監視間隔（秒）「5」、監視用 Ping 送信回数「4」の場合

5 秒ごとに対象 AP に対して、4 回の Ping を送信します。

応答異常判定回数

「監視用 Ping 送信回数」で送信した Ping のうち、どれだけ返答が無い場合に Ping 失敗と判定するか、の回数です。

※ Ping 失敗＝ AP 異常ではありません。

例：監視用 Ping 送信回数「4」、応答異常判定回数「4」の場合

4 回送信した Ping のすべてに返答が無かった場合に「Ping 失敗」と判定されます。

1 回でも Ping 判定があれば、Ping 成功＝ AP 生存と判定されます。

連続異常判定回数

応答異常判定により「Ping 失敗」が指定回数連続した場合に、「AP 異常」と判定されます。AP 死活監視エラーをログに残し、「エラー」として表示します。

例：監視用 Ping 送信回数「4」、応答異常判定回数「4」、連続以上判定回数「4」の場合

4 回送信したすべての Ping に応答がない Ping 失敗が 4 回連続した場合、「AP 異常」の判定となります。

Ping 失敗が 3 回連続した後で、次の 4 回の Ping 送信で応答が有った場合、AP 生存と判断されます。

この時、「3 回連続」の情報は消去されるので、次に Ping 失敗が起きた場合は「1 回目」としてカウントが行われます。

3 死活監視設定：SNMP

監視方式を「SNMP」に選択し、「監視間隔」、「連続異常判定回数」を設定してください。

4 死活監視設定：無効

死活監視を「無効」にすると、死活監視を行わなくなります。

6 災害モード

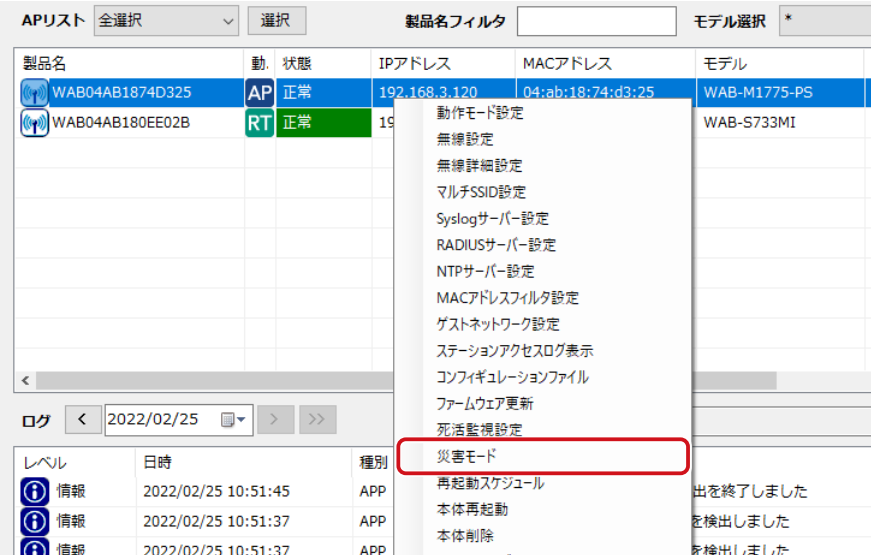
法人向けアクセスポイントには、大規模災害の際に認証なしでインターネットにアクセスすることができる、災害用統一 SSID「00000JAPAN」機能が搭載されております。
本ソフトウェアから、大規模災害拠点にあるアクセスポイントを指定し、災害モード（災害用統一 SSID「00000JAPAN」） を起動することができます。

注意
本機能は災害モードを搭載したアクセスポイントのみ設定可能です。対応機種の詳細は下記 URL より別紙の「WAB-MAT 機能対応表 (PDF)」をご確認ください。
https://www.elecom.co.jp/products/WAB-MAT.html

6-1 災害モード起動

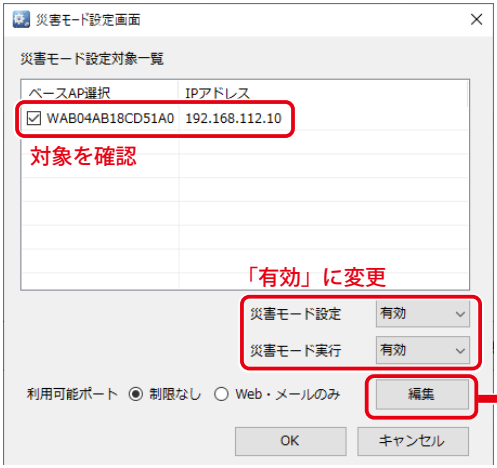
1 「災害モード」を起動したいアクセスポイントを選択

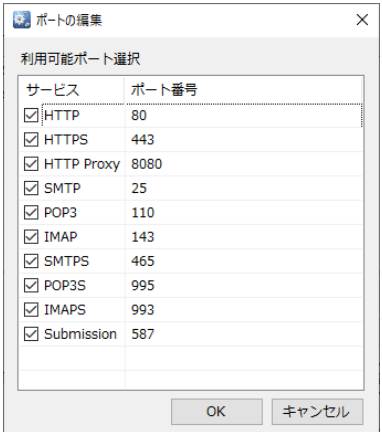
AP リストから、「災害モード」を起動したいアクセスポイントを選択し、右クリックでメニューを表示します。
「災害モード」をクリックしてください。



2 災害モード起動設定

災害モード設定画面が表示されます。対象となるアクセスポイントを確認し、「災害モード設定」、「災害モード実行」の両方を「有効」にして「OK」をクリックします。





利用可能ポートを編集する場合は「編集」をクリックします。
利用を制限したいポートのチェックを外して「OK」をクリックします。

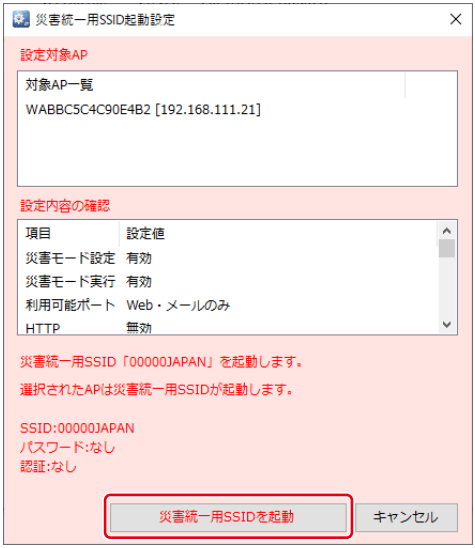
※ 利用可能ポートはソフトウェア Ver.5.0.0.8 より対応

注意
WAB-M2133 の設定画面とは、設定方法が異なります。
WAB-MAT で「災害モード設定」、「災害モード実行」の両方を同時に「有効」に設定することで、災害モードを「有効」にすることができます。
どちらか一方が無効の場合は、災害モードは有効になりません。

注意
災害モードが起動しているときは、平等通信の設定を変更できません。

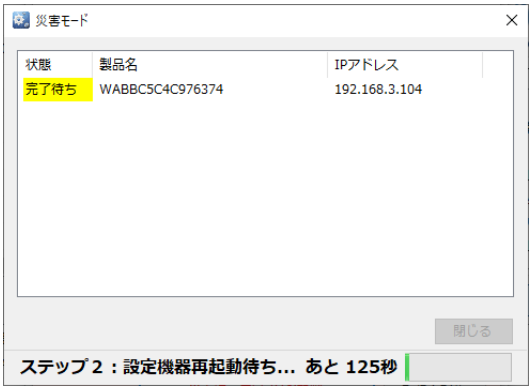
3 災害用統一 SSID 起動設定

災害用統一 SSID 起動設定画面が表示されます。対象となるアクセスポイントを確認し「災害用統一 SSID を起動」をクリックします。



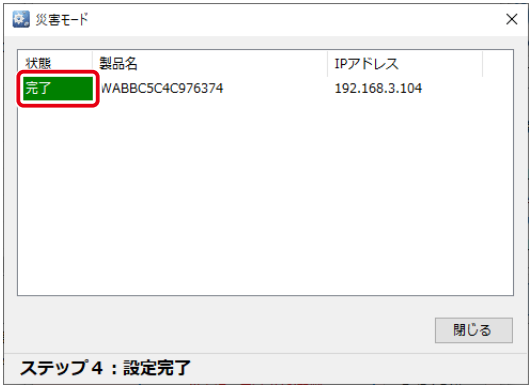
4 災害モード起動実施

災害モードを起動します。ネットワークの通信状況にもよりますが、所要時間の目安は約 60 秒となります。



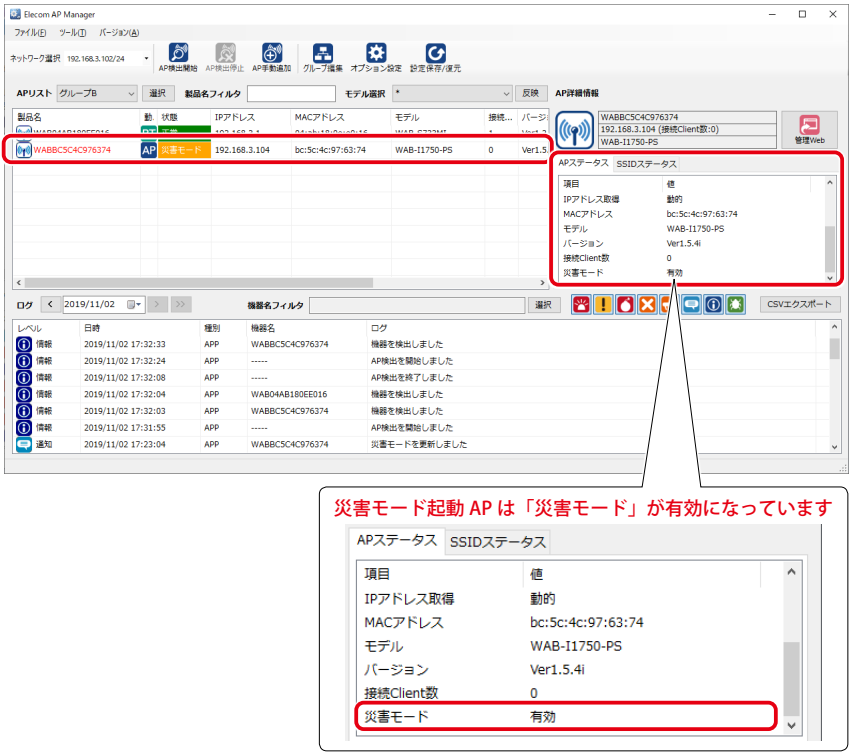
5 災害モード起動完了

正常にアクセスポイントの災害モード起動が完了すると、状態が「完了」となります。



6 災害モード起動確認

管理対象となるアクセスポイントのうち、「災害モード」で起動しているアクセスポイントは、製品名が赤文字、状態が「災害モード」として表示されます。

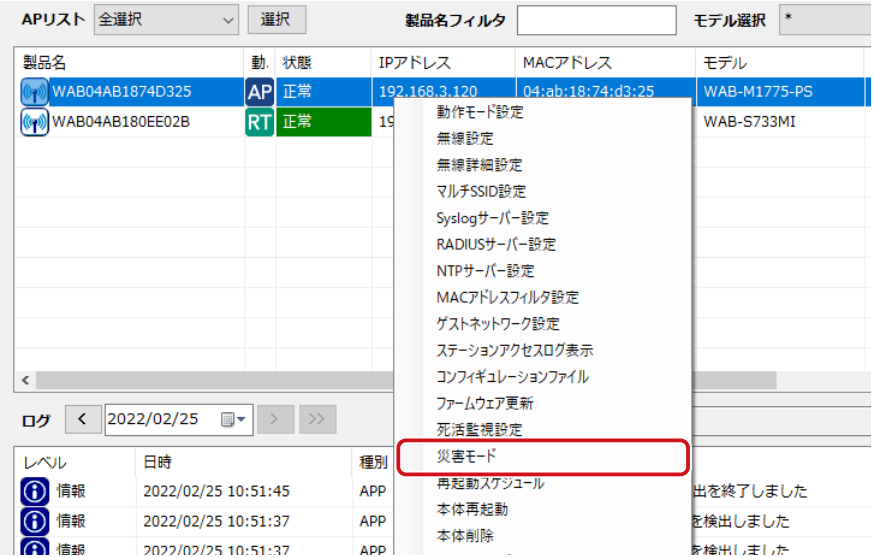


6-2 災害モード停止

1 「災害モード」を停止したいアクセスポイントを選択

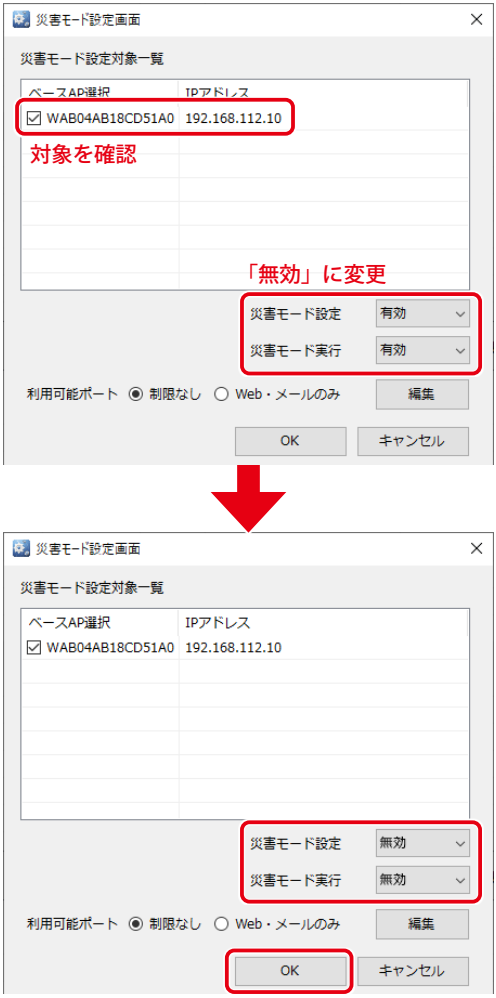
AP リストから、「災害モード」を停止したいアクセスポイントを選択し、右クリックでメニューを表示します。

「災害モード」をクリックしてください。



2 災害モード設定

災害モード設定画面が表示されます。対象となるアクセスポイントを確認し、「災害モード設定」、「災害モード実行」を「無効」にして「OK」をクリックします。

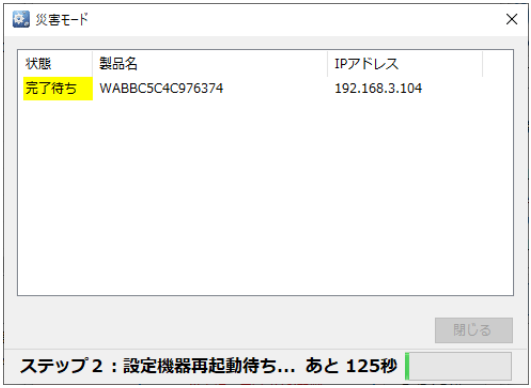


3 災害用統一 SSID 停止設定

災害用統一 SSID 停止設定画面が表示されます。対象となるアクセスポイントを確認し「災害用統一 SSID を停止」をクリックします。

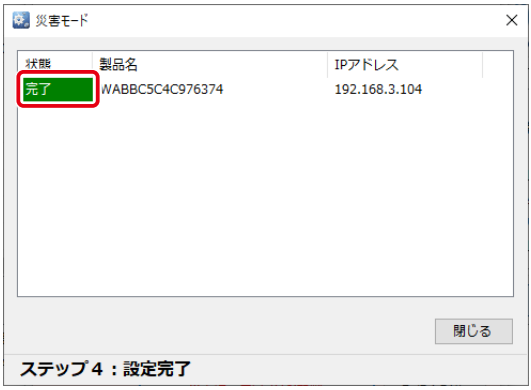
4 災害モード停止実施

災害モードを停止します。ネットワークの通信状況にもよりますが、所要時間の目安は約 60 秒となります。



5 災害モード停止完了

正常にアクセスポイントの災害モード停止が完了すると、状態が「完了」となります。

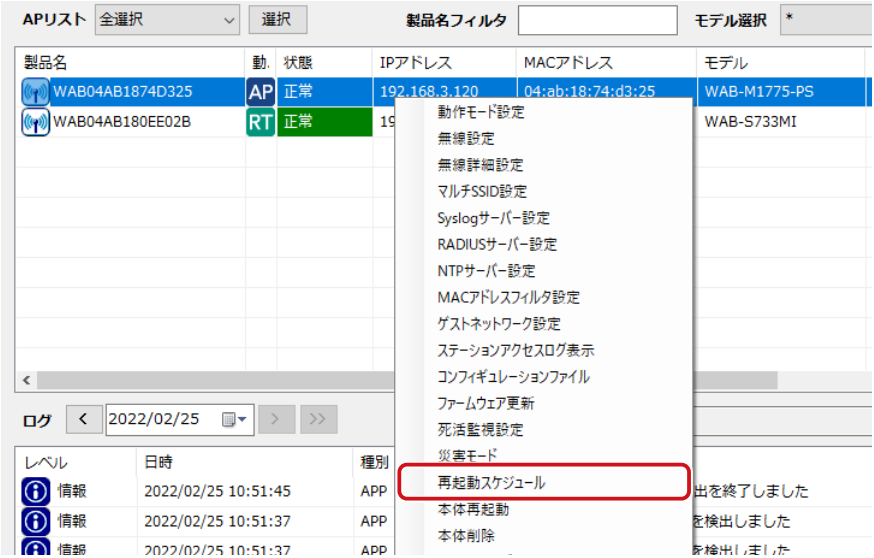


7 再起動スケジュール

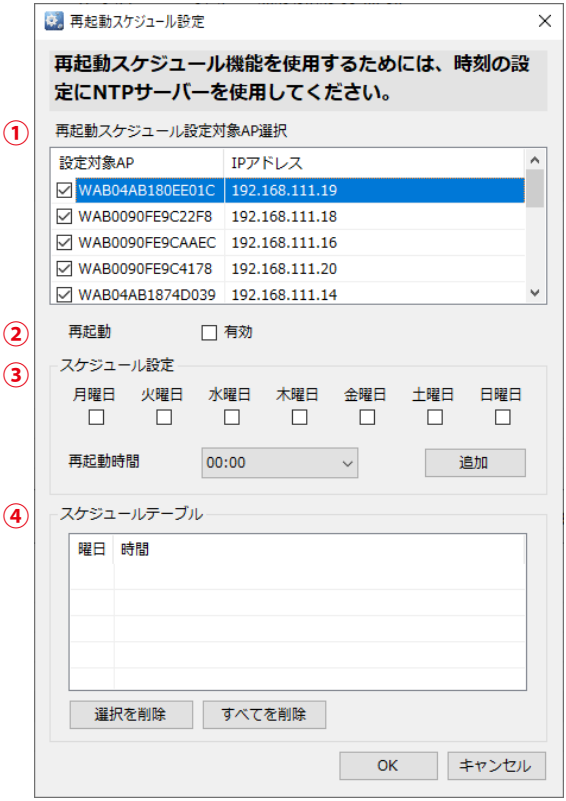
アクセスポイントの再起動スケジュールを設定します。
本機能はソフトウェア Ver.5.0.0.8 より対応です。

1 再起動スケジュールを設定するアクセスポイントを選択

アクセスポイントを選択し、右クリックでメニューを表示、「再起動スケジュール」をクリックします。



2 再起動スケジュールの設定

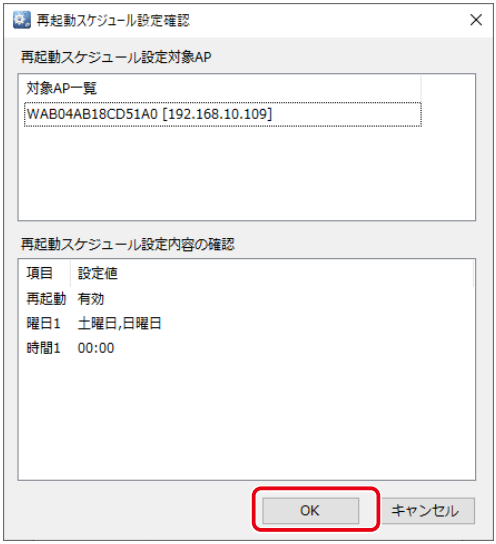


項目	詳細
① 再起動スケジュール設定対象 AP 選択	再起動スケジュール設定をするアクセスポイントを選択します。
② 再起動	再起動スケジュール設定の有効・無効を選択します。
③ スケジュール設定	スケジュールを登録する曜日と再起動時間を 30 分単位で選択します。曜日は複数選択可能です。 「追加」ボタンを押すとスケジュールテーブルにスケジュールが追加されます。
④ スケジュールテーブル	追加したスケジュール設定をリストに表示します。

設定したら、「OK」をクリックします。

3 再起動スケジュールの設定確認画面

スケジュールを確認し、「OK」をクリックします。

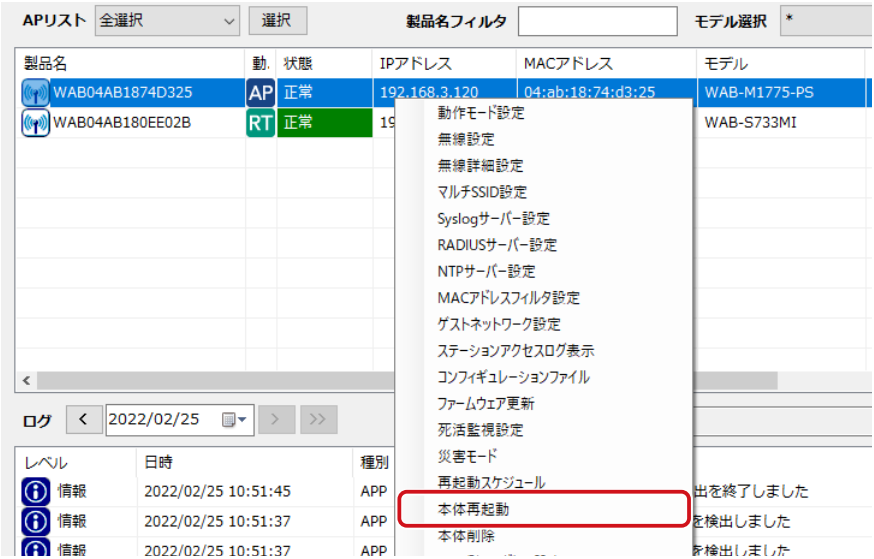


8 本体再起動

本ソフトウェアに登録されたアクセスポイントの再起動を行います。

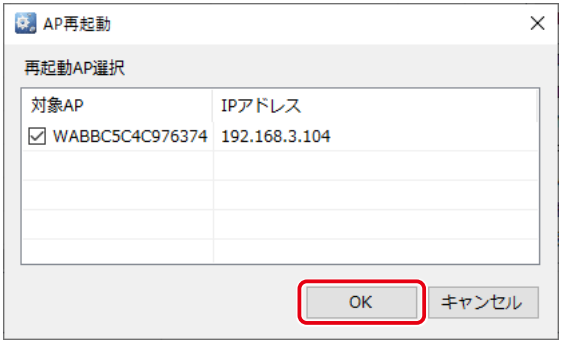
1 再起動対象 AP 選択

再起動対象となるアクセスポイントを選択し、右クリックでメニューを表示、「本体再起動」をクリックします。



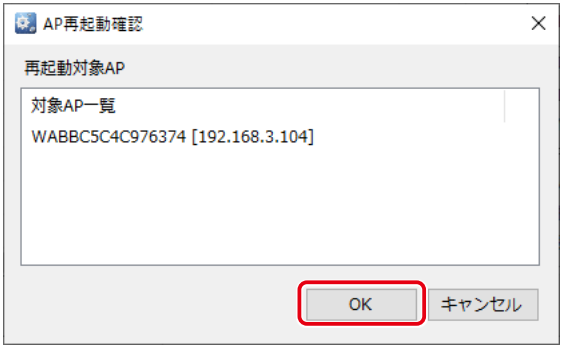
2 再起動 AP 選択

再起動 AP 選択が表示されますので、「OK」をクリックしてください。



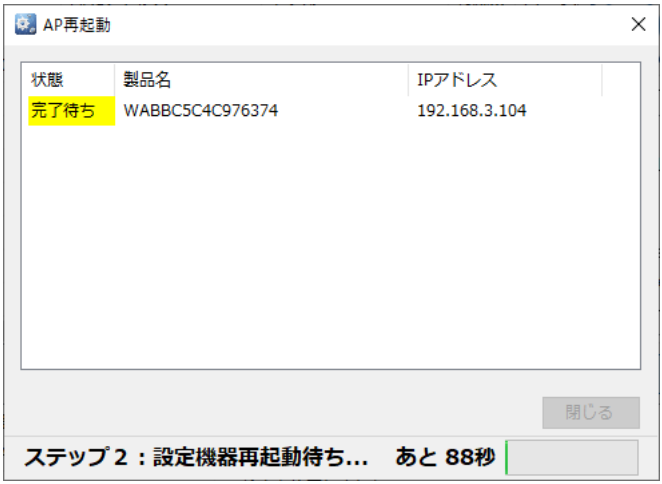
3 AP 再起動確認

再起動対象 AP が表示されますので、「OK」をクリックしてください。



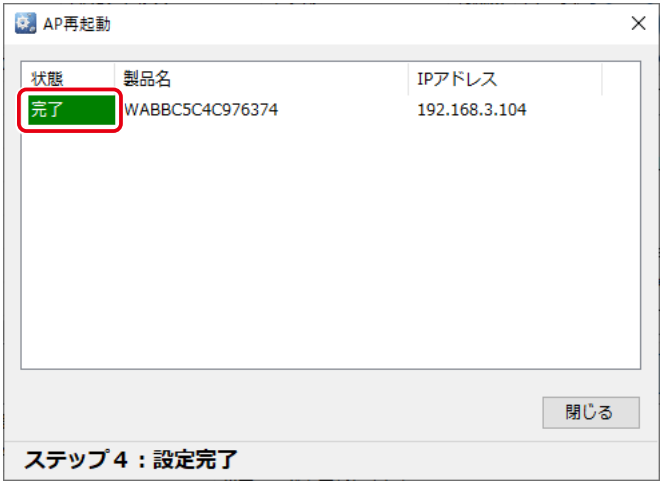
4 AP 再起動実施

AP 再起動を実施します。ネットワークの通信状況にもよりますが、所要時間の目安は約 90 秒となります。



5 AP 再起動完了

正常にアクセスポイントの再起動が完了すると、状態が「完了」となります。

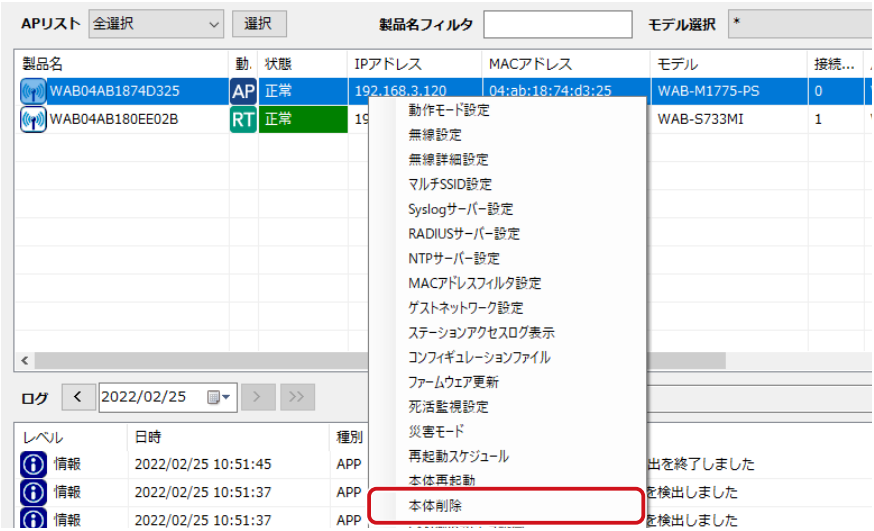


9 本体削除

本ソフトウェアに登録されたアクセスポイントで正常稼働していないアクセスポイントの登録削除を行います。

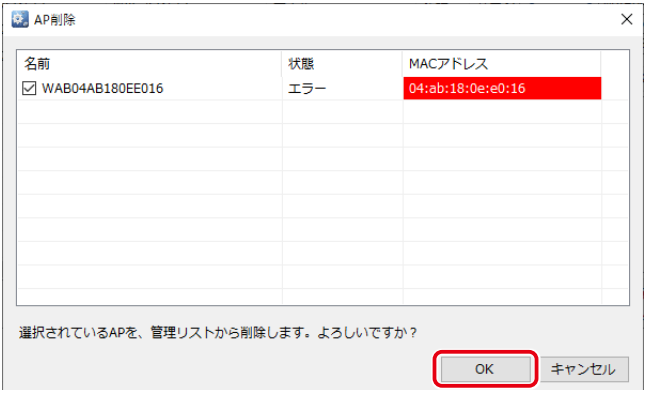
1 削除対象 AP 選択

削除対象となるアクセスポイントを選択し、右クリックでメニューを表示、「本体削除」をクリックします。



2 AP 削除

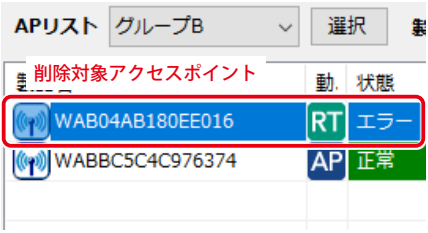
削除対象となるアクセスポイントを選択し、「OK」をクリックします。



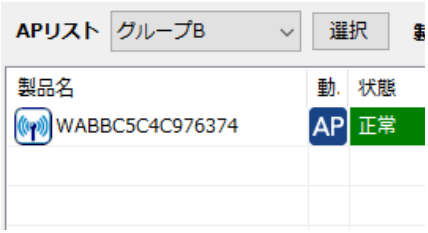
3 AP 削除確認

AP リストから、指定したアクセスポイントが削除されているか、ご確認ください。

AP 削除前

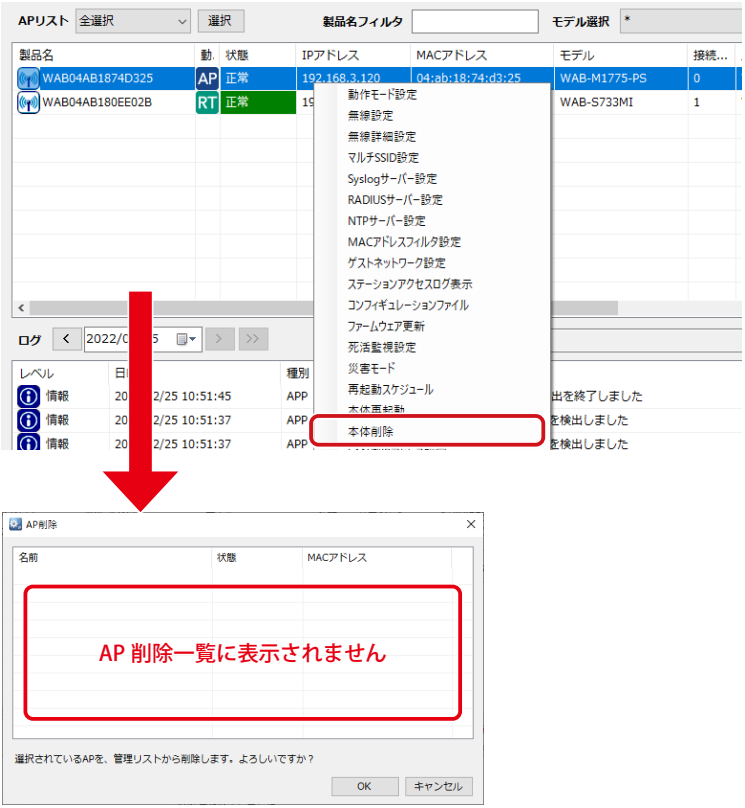


AP 削除後



「正常」ステータスのアクセスポイントを削除設定した場合

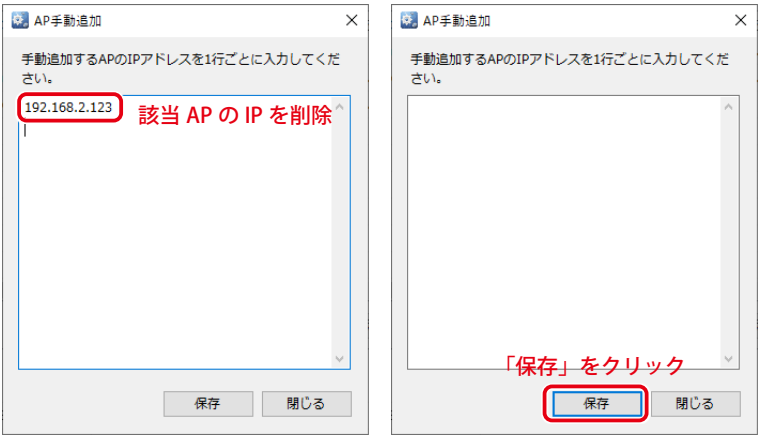
「正常」ステータスのアクセスポイントを削除対象アクセスポイントとして選択した場合、AP 削除画面には表示されませんので、ご注意ください。



手動追加アクセスポイントを削除設定する場合

アクセスポイントを手動で追加し、「未検出」ステータスのアクセスポイントを削除する場合は、この手順では削除することができません。

「AP 手動追加」画面を開き、登録した IP アドレスを削除し、「保存」をクリックします。



手動追加されたアクセスポイントが削除されます。もし削除されていない場合は、**本ソフトウェアの再起動を行ってください。**

10 管理ツールのオプション設定

10-1 アプリ設定

アクセスポイントの検出周期設定やログ、コミュニティ設定などの変更を行えます。

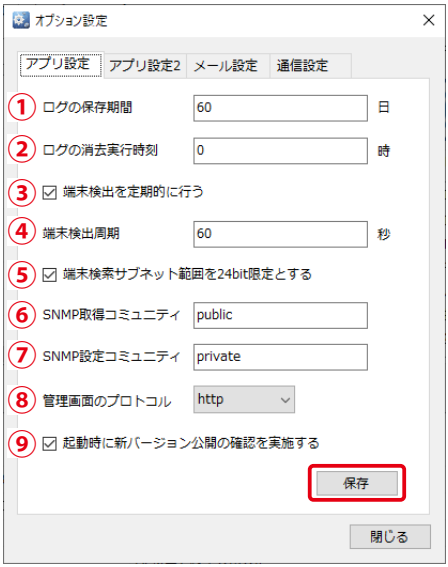
1 オプション設定をクリック

メニューバー内の「オプション設定」をクリックします。

※またはメニューバーの「ツール」→「オプション設定」をクリックします。

2 オプション設定「アプリ設定」

管理ツールの各種設定を変更します。

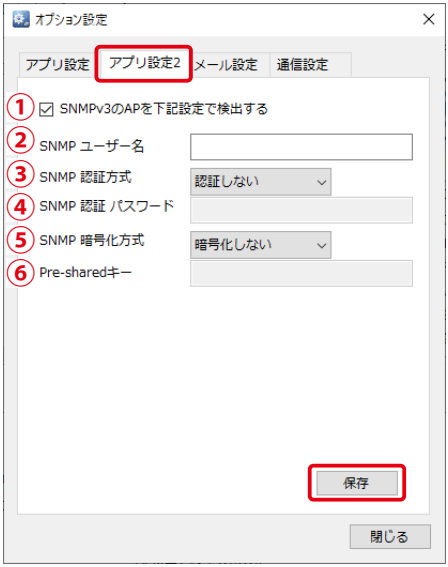


項目	説明
①ログの保存期間	ログを保存する期間を日単位で指定します。 （初期値：60、範囲：0-180、0 の場合、削除を行いません。）
②ログの消去実行時刻	保存期間が過ぎたログを消去する時刻を指定します。 （初期値：0、範囲：0-23）
③端末検出を定期的に行う	アクセスポイントの検出確認を定期的に確認します。 （初期値：チェック）
④端末検出周期	「端末検出を定期的に行う」をチェックした場合、確認処理の周期を設定します。（初期値：60、範囲：60-300）
⑤ 端末検索サブネット範囲を 24bit 限定とする	AP 検索のためのサブネットマスクのビット数を選択します。 初期設定状態では検索対象を 24bit 限定としています。チェックを外すと全サブネット内の端末が検索対象となるため AP 検索に非常に時間がかかる場合があります。初期状態のまま使用することを推奨いたします。（初期値：チェック）
⑥ SNMP 取得コミュニティ	SNMPでAPの情報を取得する時に使われるコミュニティ名を指定します。 （初期値：public）
⑦ SNMP 設定コミュニティ	SNMP で AP を設定する時に使われるコミュニティ名を指定します。 （初期値：private）
⑧管理画面のプロトコル	AP の管理 Web 画面を開く際の URL の先頭を http または https から選びます。（初期値：http）
⑨ 起動時に新バージョン公開の確認を実施する	起動時に現在のバージョンより新しいバージョンが公開されているかどうか確認を行い、公開されていた場合は告知のダイアログを表示します。 チェックを外すと、確認やダイアログ表示を行わなくなります。 （初期値：チェック）

設定変更を行った後は、「保存」ボタンをクリックして設定を保存してください。

3 オプション設定「アプリ設定 2」

管理ツールの各種設定を変更します。



項目	説明
① SNMPv3 の AP を下記設定で検出する	チェックを付けると、下記の設定と合致するアクセスポイントの検出・管理が可能となります。 チェックがない場合は、SNMP v1/v2c のアクセスポイントのみが、検出・管理対象となります。
② SNMP ユーザー名	SNMP v3 で通信する際に使用される認証ユーザー名です。 使用可能な文字は、英数字と記号、32 文字以内です。
③ SNMP 認証方式	認証方式を以下から選択します。 ・SHA ・MD5 ・認証しない
④ SNMP 認証パスワード	SNMP v3 で通信する際の認証パスワードです。 使用可能な文字は、英数字と記号、32 文字以内です。
⑤ SNMP 暗号化方式	暗号化方式を「DES」、「3DES」、「AES128」、「AES192」、「AES256」、「暗号化しない」から選択します。 アクセスポイントの機種により、選択可能な暗号化方式が異なります。設定する機種に合わせて、選択してください。 「暗号化しない」を選択した場合は、「Pre-shared キー」の入力は不要です。
⑥ Pre-shared キー	「SNMP 暗号化方式」で「暗号化しない」以外を選択した場合、入力します。 使用可能な文字は、英数字と記号、32 文字以内です。

10-2 管理者へのメール通知設定

本ソフトウェアで検出されたアクセスポイントの停止などの状況を、指定されたメールアドレス宛へ通知します。

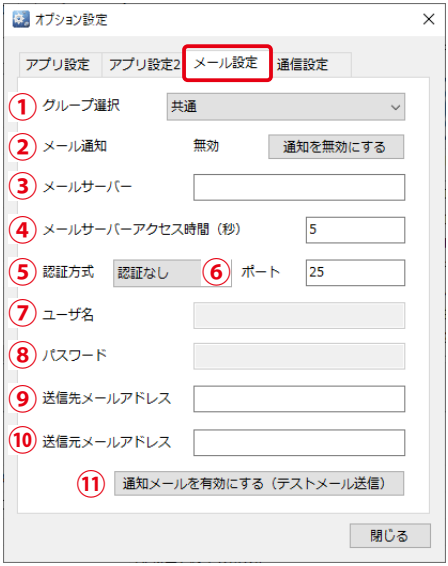
1 オプション設定をクリック

メニューバー内の「オプション設定」をクリックします。

※またはメニューバーの「ツール」→「オプション設定」をクリックします。

2 オプション設定「メール設定」

オプション設定画面の「メール設定」タブを表示します。メール環境に応じて各項目を設定してください。



項目	説明
①グループ選択	メール設定を行うグループを選択します。グループ編集にて追加したグループ毎にメール設定を行います。"共通"はグループに属していない AP のメール設定になります。
②メール通知	メール通知機能が「有効」の時、通知機能を「無効」にします。

項目	説明
③メールサーバー	メールサーバー名を指定します。
④メールサーバーアクセス時間（秒）	サーバー通信タイムアウト時間を設定します。 （初期値：5、範囲：1-30）
⑤認証方式	認証方式を以下から選択します。 ・認証なし ・SMTP 認証 ・SSL/TLS（ポート番号　587）
⑥ポート	メールサーバーのポート番号を指定します。
⑦ユーザ名	メールサーバーのユーザー名を指定します。
⑧パスワード	メールサーバーのパスワードを指定します。 ※入力した文字は＊＊＊で隠蔽されます。
⑨送信先メールアドレス	通知メールを送信する宛先メールアドレスを指定します。 最大 10 件まで登録できます。 メールアドレスの間はセミコロン (;) で区切ってください。
⑩送信元メールアドレス	通知メールを送信する宛先メールアドレスを指定します。
⑪通知メールを有効にする	設定した項目で問題なくメール送信ができるか、テストメールを配信いたします。問題なく配信ができたら、通知機能が「有効」になります。

3 メール設定の流れ

本ソフトウェアのメール通知機能について説明いたします。ここでは Gmail で設定する場合を前提に説明いたします。

【手順１】メールサーバー設定

メールサーバーを　**smtp.gmail.com** に　指定します

メールサーバー　smtp.gmail.com

【手順２】メールサーバーアクセス時間

メールサーバーアクセス時間を　**10 秒以上**　に指定します。

メールサーバーアクセス時間（秒）　10

【手順３】認証方法

配信メール環境に応じたメールサーバーアクセス時間を設定します。

Gmail の場合は認証方法：**SSL/TLS**　を選択し、ポート番号は　**587**　を設定します。

認証方式　SSL/TLS　ポート　587

【手順４】ユーザー名

配信メール環境に応じたユーザー名を設定します。

Gmail の場合は　**Gmail のメールアドレス**　を設定します。

ユーザ名

【手順５】パスワード

配信メール環境に応じたパスワードを設定します。

Gmail の場合は　**Gmail ログインのパスワード**　を設定します。

パスワード

【手順６】送信先メールアドレス

送信先メールアドレスは　**通知先のメールアドレス**　を設定します。

送信先メールアドレス

【手順７】送信元メールアドレス

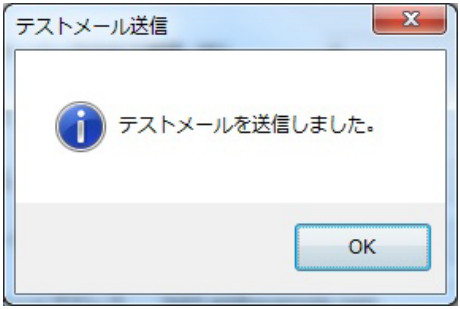
配信メール環境に応じた送信元メールアドレスを設定します。

Gmail の場合は、送信元メールアドレス　**Gmail のメールアドレス**　を設定します。

送信元メールアドレス

【手順８】通知メールを有効にする

「通知メールを有効にする」をクリックし、設定した送信先メールアドレス宛てにテストメールが配信されるか確認ください。正常接続が完了すると下記が表示されます。



送信先メールアドレスに届くテストメールは下記となります

件名：

Elecom AP Manager Test Mail

本文：

APマネージャのテストメールです。 APマネージャからの通知メールは本メールアドレスに送信されます。

Gmail への接続が正常にできない場合

正常に接続できない場合は、「メールサーバーアクセス時間」を、 15 秒～ 30 秒　の間にて設定ください。

10-3　プロキシサーバ設定

プロキシサーバ経由での外部通信実施の場合、本設定を行います。

1 オプション設定をクリック

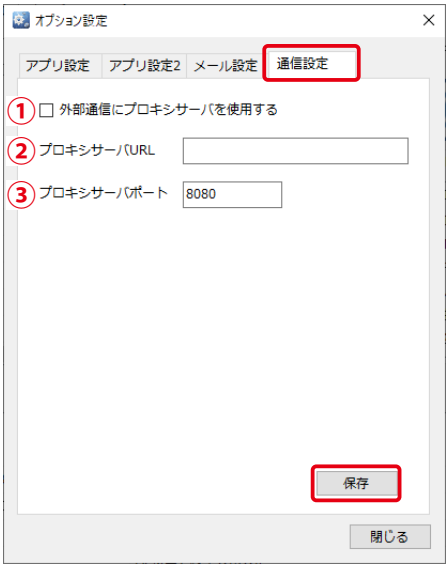
メニューバー内の「オプション設定」をクリックします。

※またはメニューバーの「ツール」→「オプション設定」をクリックします。

2 オプション設定「通信設定」

オプション設定画面の「通信設定」タブを表示します。

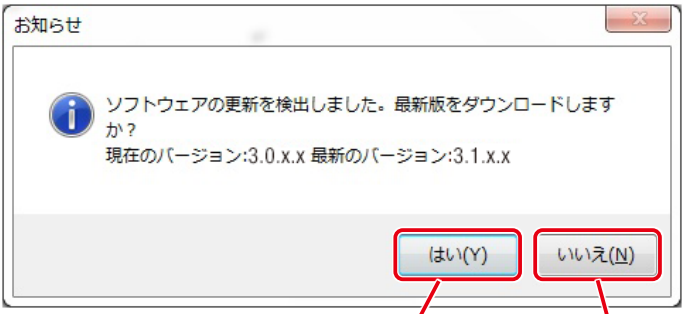
プロキシサーバ経由で外部通信を行う場合は、①「外部通信にプロキシサーバを使用する」をチェックし、続けて、②「プロキシサーバ URL」と③「プロキシサーバポート」を設定します。



設定変更を行った後は、「保存」ボタンをクリックして設定を保存してください。

11 管理ツールのバージョンアップ通知

本ソフトウェアの最新版バージョンがアップされた時は、**起動時に最新版へのバージョンアップをご案内するダイアログが表示**されます。



管理ツール WEB ページへ移動　　現バージョンで起動

注意

オプション設定で「起動時に新バージョン公開の確認を実施する」のチェックを外した場合は、本ダイアログは表示されません。

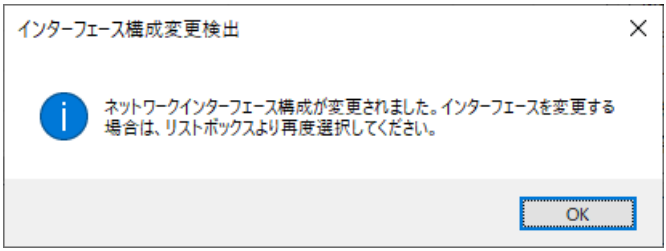
「はい」を選択した場合は、管理ツール「WAB-MAT」の WEB サイトがブラウザーで表示されます。

表示されたページの最下部より、管理ツール「WAB-MAT」の最新バージョンをダウンロードしてください。

「いいえ」を選択した場合は、インストールされているバージョンで管理ツールを起動します。

11-1 ネットワークインターフェース構成変更通知

本ソフトウェアがインストールされている端末の、ネットワークインターフェース構成が変更された場合は、ダイアログにて通知されます。（インターフェース構成の変更とは、LAN ケーブルを端末から抜く、Wi-Fi の接続先を変更などの事象を指しています。）



12 管理ツールのメンテナンス

12-1 アプリケーション設定の保存

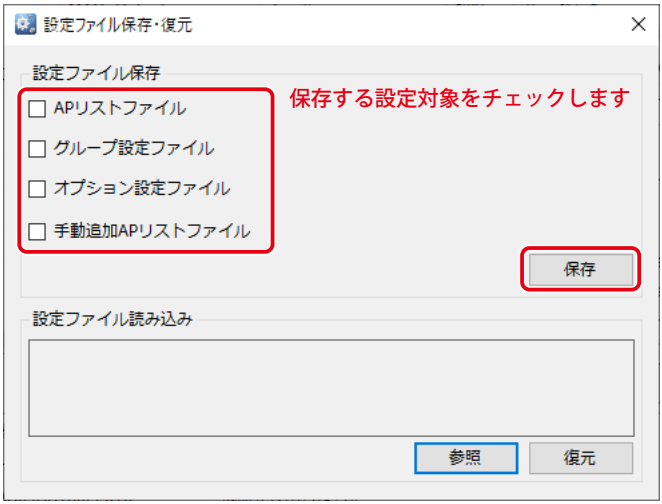
本ソフトウェアの設定情報を外部ファイルに保存します。

1 設定保存 / 復元をクリック

メニューバー内の「設定保存 / 復元」をクリックします。

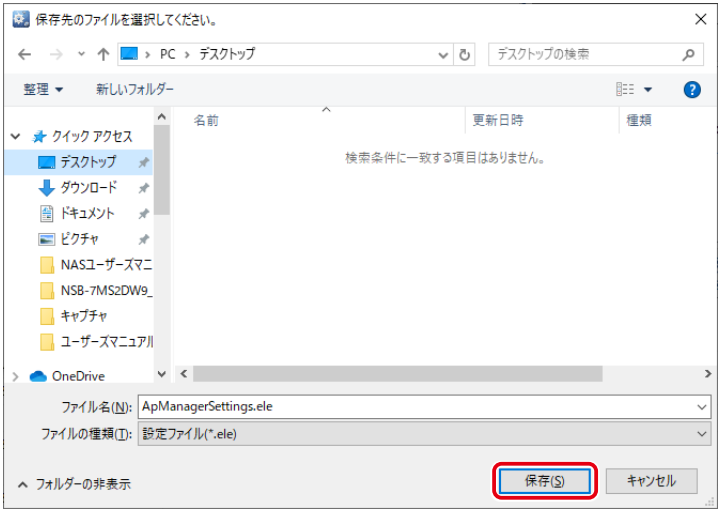
2 設定保存対象の選択

設定ファイル保存・復元画面で、保存したい設定をチェックし、「保存」ボタンをクリックします。



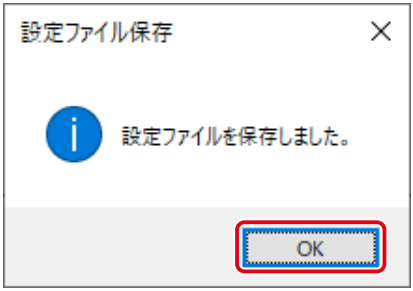
3 設定ファイル保存先設定

設定ファイルの保存先を指定し、保存します。



4 設定ファイル保存完了

設定ファイルの保存が完了すると「設定ファイルを保存しました」のダイアログが表示されますので、「OK」をクリックしてください。



12-2 アプリケーション設定の復元

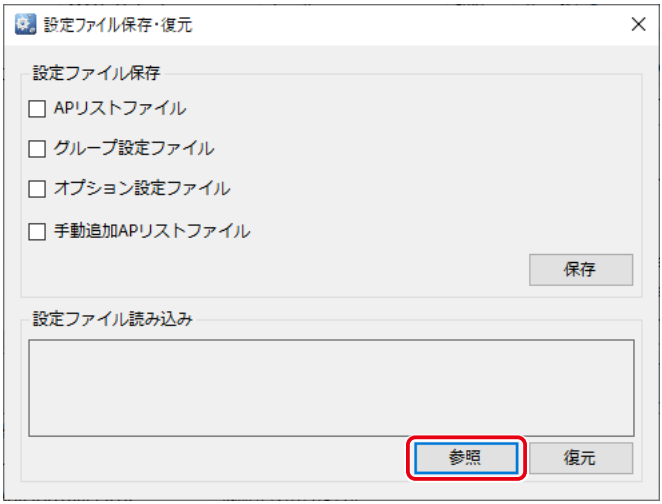
本ソフトウェアの設定情報ファイルを復元します。

1 設定保存 / 復元をクリック

メニューバー内の「設定保存 / 復元」をクリックします。

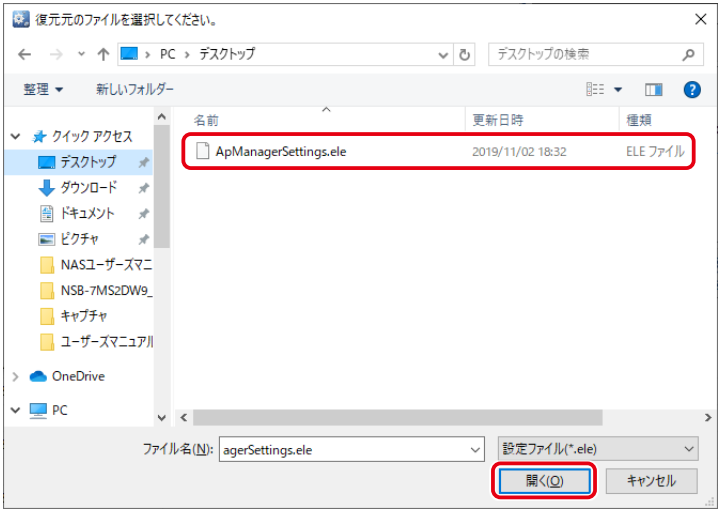
2 設定ファイルの参照

設定ファイル保存・復元画面で、「参照」ボタンをクリックします。



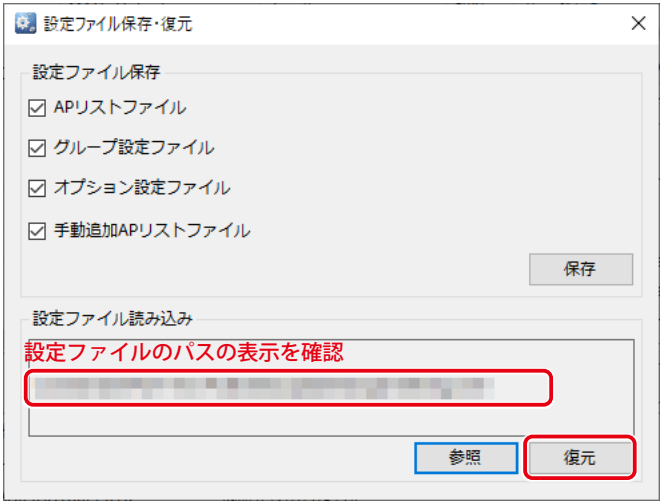
3 設定ファイルの選択

設定ファイル（ele ファイル）を選択し、「開く」をクリックします。



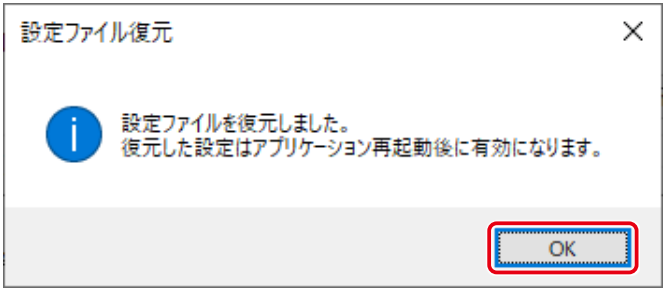
4 設定ファイルからの復元

設定ファイル（ele ファイル）のパスが表記されているのを確認したら、「復元」をクリックします。



5 設定ファイルからの復元完了

復元が完了すると下記のダイアログが表示されますので、「OK」をクリックしてください。



Chapter 4

よくある質問箱

1 アクセスポイント関係

1-1 アクセスポイントが登録されない

Q 本ソフトウェアにアクセスポイントが登録されません

A1 アクセスポイントと本ソフトウェアインストール端末で「SNMP」通信ができるか確認してください

本ソフトウェアによるアクセスポイント登録は SNMP にて実施しております。本ソフトウェアがインストールされている端末と、該当アクセスポイントの間が SNMP にて疎通できるかご確認ください。
アクセスポイントと WAB-MAT で以下の設定が異なっていると SNMP での通信が行えませんのでご注意ください。
v1/v2c の場合：SNMP 取得コミュニティ設定
v3 の場合：ユーザー名・認証・暗号化の設定

A2 該当アクセスポイントのファームウェアのバージョンが対応バージョン以上か確認ください

本ソフトウェアの利用前提条件となるアクセスポイントのファームウェアのバージョンは Chapter 1 説明編「1-1 動作環境（→ P8）」に記載のバージョン以上となります。ファームウェアバージョンが低いバージョンの場合は、AP リスト表示されません。
アクセスポイントのファームウェアバージョンを上記に記載のバージョン以上にアップしてください。

A3 手動登録を行ってください

16 ビットなど大きなサブネットで運用している環境の場合、同じサブネット内に存在するアクセスポイントでも、自動検出されない場合があります。
初期設定状態の場合、自動検出は本ソフトウェアインストール端末のIPアドレスを基準として24ビットサブネットマスク相当の範囲のアクセスポイントが対象となります。
そのような場合は検出されないアクセスポイントの IP アドレスを AP 手動追加で登録してください。
オプション設定画面で「端末検索サブネット範囲を 24bit 限定とする」のチェックを外すと、実際のサブネット範囲内すべてが検出対象となりますが、検出に必要な時間が非常に長くなる場合があります。ご注意ください。

A4 (手動登録の場合) 該当アクセスポイントの IP アドレスが間違いないか確認ください

本ソフトウェアへ手動登録する際の IP アドレスに間違いがないか、再度ご確認ください。

1-2 以前に自動登録されたアクセスポイントが「未検出」になる

Q 以前に自動登録されたアクセスポイントと、通信可能であるにも関わらず「未検出」のまま、自動検出されない

A 手動登録を行ってください

16 ビットなど大きなサブネットで運用している環境の場合、本ソフトウェアインストール端末でアクセスポイントを自動検出した後で端末の IP アドレスが変更されると、以前は検出できたアクセスポイントが検出できなくなる場合があります。
初期設定状態の場合、自動検出は端末の IP アドレスを基準として 24 ビットサブネットマスク相当の範囲のアクセスポイントが対象となります。
この場合、以前に検出されたアクセスポイントは「未検出」として表示されますので、アクセスポイントの IP アドレスを AP 手動追加で登録してください。
オプション設定画面で「端末検索サブネット範囲を 24bit 限定とする」のチェックを外すと、実際のサブネット範囲内すべてが検出対象となりますが、検出に必要な時間が非常に長くなる場合があります。ご注意ください。

1-3 アクセスポイントへの死活監視通信ができない

Q 本ソフトウェアによるアクセスポイントへの死活監視通信ができない

A1 アクセスポイントと本ソフトウェアインストール端末で「SNMP」または「PING」通信ができるか確認してください

本ソフトウェアによるアクセスポイントの死活監視通信は、PING または SNMP にて行います。ご利用いただいている社内ネットワーク環境にて、PING または SNMP 通信をブロックしているかご確認ください。

A2 死活監視設定が有効になっているか、確認してください

AP 死活監視設定画面にて死活監視通信の有効・無効を設定可能です。「無効」の場合、本ソフトウェアは死活監視を行いません。

2 アクセスポイント各種設定関係

2-1 複数のアクセスポイントへの設定ができない

Q アクセスポイントの複数 SSID の登録ができません

A 該当アクセスポイントのファームウェアのバージョンが対応バージョン以上か確認ください

本ソフトウェアの利用前提条件となるアクセスポイントのファームウェアのバージョンは Chapter 1 説明編「1-1 動作環境（→ P8）」に記載のバージョン以降となります。ファームウェアバージョンが低いバージョンの場合は、AP リスト表示されません。アクセスポイントのファームウェアバージョンを上記に記載のバージョン以上にアップしてください。

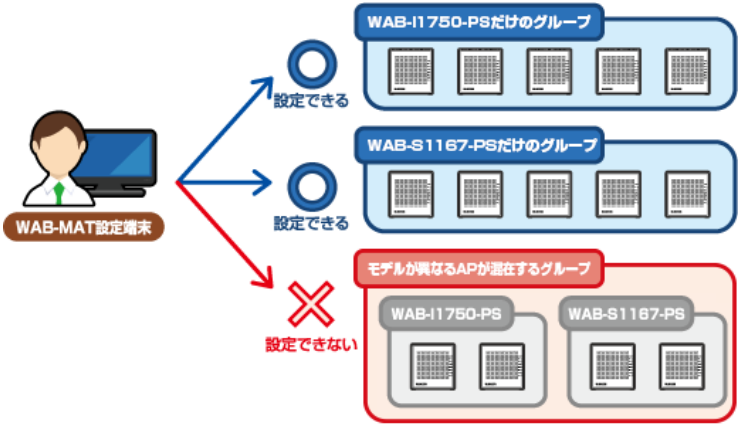
Q アクセスポイントの複数 SSID に設定を行うと、エラーが表示されます

A 機種により、一部設定値は対応できない場合があります。異なる設定値で、再度お試しください

Q 複数のアクセスポイントへ SSID の新規または変更登録ができません

A アクセスポイントのモデルごとに設定変更が可能です

本ソフトウェアでは、アクセスポイントのモデルが同じ場合は複数アクセスポイントへの設定変更が可能です。たとえば、新規の SSID を追加する場合、WAB-I1750-PS だけのグループに対して複数台の設定変更ができますが、同じグループに異なるモデルである WAB-S1167-PS も存在する場合は設定変更はできませんのでご注意ください。



2-2 RADIUS サーバーの登録ができない

Q アクセスポイントへ RADIUS サーバーの登録ができません

A1 該当アクセスポイントが RADIUS サーバー機能をサポートしているか、確認してください

対応機種の詳細は下記 URL より別紙の「WAB-MAT 機能対応表 (PDF)」をご確認ください。

https://www.elecom.co.jp/products/WAB-MAT.html

A2 該当アクセスポイントのファームウェアのバージョンが対応バージョン以上か確認ください

本ソフトウェアの利用前提条件となるアクセスポイントのファームウェアのバージョンは Chapter 1 説明編「1-1 動作環境（→ P8）」に記載のバージョン以上となります。ファームウェアバージョンが低いバージョンの場合は、AP リスト表示されません。アクセスポイントのファームウェアバージョンを上記に記載のバージョン以上にアップしてください。

A3 WAB-M1775-PS、WAB-M2133 の内部 RADIUS 機能の設定は、サポートしていません

WAB-MAT で設定可能な RADIUS サーバーは、外部サーバーの設定のみとなります。内臓 RADIUS サーバーを利用するときは、設定画面から設定をお願いします。

2-3 アクセスポイントへの設定ができない

Q アクセスポイントが検出され、リストに登録されているが、設定を行うとすべてエラーになる

A SNMP 設定の設定内容を確認してください

アクセスポイントと WAB-MAT の両方の設定値が一致していないと、設定を行うことができません。
アクセスポイントが検出された後で、SNMP 設定を変更した場合などは、アクセスポイントと WAB-MAT の両方の設定値が一致するように設定を変更してください。

2-4 アクセスポイントの「状態」が「正常」・「エラー」の表示を繰り返す

Q AP リストに表示されたアクセスポイントの「状態」が、「正常」、「エラー」表示を繰り返している

A 対象のアクセスポイントをルーターモードで使用している場合、以下のいずれかの設定を行ってください

- 「WAN 側からの ping に対する応答」を有効に設定する。
  1) 管理対象のアクセスポイント本体の管理画面の「WAN 設定」から設定する。
  2) 本ソフトウェアの Chapter 2 設定編「5 WAN 設定（→ P44）」から設定する。
- 本ソフトウェアの Chapter 3 運用編「5 死活監視設定（→ P136）」から、「監視方式」を「SNMP」に変更する。

3 通知設定関係

3-1 Gmail による管理者へのメール通知ができない

Q 管理者へのメール通知を Gmail で登録することができません

A1 Gmail の設定情報に誤りがないか確認ください

管理者へのメール通知設定の Gmail 各種項目 「メールアドレス」、「ログインパスワード」、「ポート設定」などが間違っていると、正常にメール配信できません。Gmail 設定項目が正常に登録されているか、再度ご確認ください。

A2 メールサーバーアクセス時間を変更してください

Gmail への認証は通信環境により時間がかかることもあります。Gmail 環境による「テストメール送信」が正常にできない場合は、メールサーバーアクセス時間を延ばし、再度ご確認ください。

A3 Gmail 用通信ポート「587」の通信ができるか確認ください

Gmail への認証は 587 番ポート（TLS）という通信で行っております。ご利用いただいているネットワーク環境で、587 番ポートによる通信が可能かご確認ください。

3-2 管理者へのメール通知内容を変更することができるか

Q 管理者へのメール通知内容を変更することができるか

A 管理者へのメール通知はアクセスポイントが . 死活監視でエラーが発生した場合となります。

管理者へのメール通知は、アクセスポイントの死活監視でエラーになった場合のみ、メールが配信されます。

4 その他

4-1 本ソフトウェアで管理できるアクセスポイントの台数は

Q 本ソフトウェアで管理できるアクセスポイントの台数は何台ですか？

A 本ソフトウェアで管理できるアクセスポイントは最大 3,000 台（動作理論値）です。（推奨台数は 1,000 台です。）

4-2 本ソフトウェアのライセンスの範囲は

Q 本ソフトウェアの 1 ライセンスでインストールできる端末（PC）の台数は何台ですか？

A 1 ライセンスにつきインストールできる端末（PC）は 1 台です。

4-3 本ソフトウェアで使用するポートは

Q 本ソフトウェアの各機能で使用しているプロトコル・ポート番号は何ですか？

A 次のプロトコル・ポート番号を使用します。

UDP： SNMP　161 番
SNMP-TRAP　162 番
TFTP　69 番
Syslog　514 番

TCP： HTTP　80 番
HTTPS　443 番
SMTP　25 番　※メール設定オプションで変更可能

その他： ARP
ICMP

これらのプロトコル・ポート番号が、インストールされた PC やネットワークで利用可能になっていない場合、本ソフトウェアは正常に動作しない場合があります。

ELECOM

無線アクセスポイント 管理ツールWAB-MAT ユーザーズマニュアル

発行　エレコム株式会社

©2015 ELECOM Co.,Ltd.